

改正 被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十六條ノ一

區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 違警罪

第二 竊盜ノ罪

第三 貳百圓ヲ超過スル罰金ヲ併科又ハ附加セサル本刑六月以下ノ禁錮ニ該ル罪

第四 本刑貳百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

第三章 現行犯ノ處分

第一節 被告人ノ訊問及拘留

第二 被告人、證人ノ訊問

(一)從來司法警察官現行犯罪ニ付現場ニ臨檢セス巡查又ハ憲兵卒等ヨリ被告人ヲ受取りタルトキハ豫審處分トシテ被告人ヲ訊問スルコトヲ得司法警察訓則ニ依リ

搜查處分トシテ被告人ヲ取調フルニ止マレト雖トモ裁判上搜查調書ハ一切證據トシテ採用セサルノ例トナリ實務上頗ル困難ヲ極メタルニ大審院ニ於テ賭博犯等ノ如キ現行犯ニ付テハ現場ニ臨檢セス巡查等ヨリ被告人ヲ受取りタル場合ノ訊問調書ヲ有效ナリトスル判決アリテ稍ヤ其困難ヲ救フヲ得ルヲ以テ其以來ハ臨檢セサルモノト雖モ現行犯準現行犯ノ場合ハ司法警察官ニ於テ假豫審處分トシテ被告人竝證人ヲ訊問スルモノトス

(福岡檢正照會二八ノ一〇ノ三局長回)

(二)檢事現行犯ノ被告人ヲ受取りタルトキハ二十四時間以内ニ訊問シタル後ニアラザレハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得然ルニ檢事不得止事故アリテ即時訊問スルコト能ハス一時留置セサルヲ得サル場合各ニ於テハ監獄署ニ送致セス最寄警察署内ノ留置場ニ留置セシメ且ツ此場合ニ於テハ可成速ニ被告人ヲ訊問スヘシ

(參照)

刑事訴訟法第四百十八條

地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハス

ト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

(三) 檢事現行犯ノ被告人ヲ請取リタルトキ不得止事故アリテ即時訊問スル能ハス一時留置セサルヲ得サル場合ニ於テハ監獄署ニ送致セス最寄警察署内ノ留置場ニ留置セシムル様取計セタルモノ今後ハ退廳時限後又ハ休日ニテモ可成其處分ヲ爲シ警察署留置ノ増加セサル様注意スヘシ

(二四) 一〇ノ二〇參刑甲第三八八號通牒

第二 被告人ノ拘留

區裁判所檢事ノ司法警察官ヨリ現行犯人ノ送致ヲ受ケタル場合ニ於テ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ルヤ否ヤノ儀ハ從來法律ノ解釋上意見ヲ異ニスルヨリ實際ノ取扱方各地一定セス

(甲說) 地方裁判所檢事司法警察官ヨリ現行犯人ヲ受取タル場合ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十八條ニ「云云拘留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ云云」トアルモ區裁判所檢事ニ

付テノ規定ナキカ爲メ論者或ハ之ヲ以テ區裁判所檢事ニ此場合ニ於ケル拘留狀發付ノ權ナキモノトセリ其說ニ以テ爲ク區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ハ尤モ輕微ニシテ彼レ違警罪ト殆ト擇フ所ナケレハ法律ハ之レカ未決拘留ヲ望マス又其必要ナキモノナリ是レ區裁判所檢事ノ爲メ第四百四十八條ト同一ノ規定ナキ所以ナリト然レトモ此說畢竟誤謬タルヲ免レス何ヲ以テ云爾曰ク他ナシ該條ノ主眼タル專ラ豫審ヲ請求ス可キコトヲ規定スルニ在リテ敢テ此場合ニ於ケル拘留狀發付ノ權アルコトヲ認メントニハアラス法文ニ所謂「拘留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ云云」トハ唯其拘留狀ヲ發シタルト否トヲ問ハス云云ノ意義タルニ過キサルノミ蓋第四百四十四條及第四百四十六條ハ檢事臨檢シタル場合ノ規定ナリト雖モ其臨檢シタル場合ニ於テハ拘留狀ヲ發シ得可クシテ臨檢セサル場合ニ於テハ其齋シク現行犯人タルニ拘ラス拘留狀ヲ發シ得可ラサルノ理由ナキコト固ヨリ論ヲ俟タス而テ其區裁判所檢事ノ爲メ同一ノ規定ナキ所以ノモノハ是レ豫審ヲ請求ス可キ場合ナキカ爲メニシテ決シテ拘留狀發付ノ權ナキカ爲メニアラサルナリ又論者ハ區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ輕罪ハ素ト輕微ナルカ故ニ法律ハ之レカ未決拘留ヲ望マス云云ト云フモ果シテ然ランニハ何カ故ニ特リ檢事ノ臨檢シタル場合ニノミ其必要アリテ之ヲ許ス

ト爲スカ檢事ハ拘留狀ヲ發セスシテ直チニ犯人ヲ逮捕シ諸多ノ取調ヲ爲シ得ヘキニアラス況ンヤ司法警察官假豫審ヲ爲シ犯人ヲ逮捕セル場合ニ在テハ檢事一應訊問ヲ爲シ其當ニ起訴スヘキモノト起訴スヘカラサルモノト及拘留ヲ要ス可キモノト否ラサルモノトヲ判別スルハ寧ロ人權ヲ重スル所以ナルノミナラス區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ輕罪ハ其輕微タルニ拘ハラヌ夫ノ屋外竊盜就中拘摸犯ノ如キ一所不定ノ徒甚タ多クシテ實際未決拘留ヲ必要ト爲スモノ其多キニ居ルコト誣フ可ラサルニ於テオヤ若シ夫レ法律カ拘留狀ヲ發シタル場合ニ於テ起訴ヲ限ルニ三日ヲ以テセルモノハ畢竟罪質輕微ナルニ累日替延スルノ弊アル可ラサルヲ警醒スルニ外ナラサルノミ是レ豈拘留狀發付ノ權限如何ニ關スルモノナランヤ要スルニ區裁判所檢事現行犯人ヲ受取タル時ハ一應訊問シタル上拘留狀ヲ發シ得可キモノトス(乙説)刑事訴訟法上現行犯ノ豫審ニ於テ區裁判所檢事カ拘留狀ヲ發シ得ルハ單ニ同法第四十六條ノ場合自ラ臨檢シタル時ニ限ルモノニシテ此場合ト雖モ拘留日數ヲ制限シテ三日内ニ起訴スヘキコトヲ規定シタリ其ノ他司法警察官等ヨリ送致ヲ受ケタル時ハ第六十三條ニ依リ起訴スルノミ自ラ拘留狀ヲ發スルヲ得サルモノトス是地方裁判所檢事ト自ラ處分ヲ異ニスルモノニシテ畢竟區裁判所ノ管轄ノ事件

ハ禁錮二箇月以下ノ微罪ニ止マリ殆ト違警罪ト同視スヘキモノナレハ法律ハ此輕微ノ被告人ヲ輒スク拘留スルヲ好マス又之ヲ拘留シテ搜查ヲナスノ必要ナキナリ故ニ自カラ臨檢シタル場合ニ於テモ猶拘留狀ヲ發シタル時ハ三日内ニ起訴スヘシト特例ヲ設ケ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ拘留狀ニ付テ何等ノ規定ナシ直チニ訴ヲ起サシムル法意ナルコトヲ知ルヘシ何故ニ區裁判所檢事ニハ自ラ臨檢シタル時ハ拘留狀ヲ發シ得テ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ之ヲ發シ得サルヤハ最視易キ理アリ其自ラ臨檢スルニ當リテハ自ラ拘留狀ヲ發スルニアラサレハ其取調ヲナシ起訴スル迄ノ間被告人ヲ拘束スルノ道ナシ故ニ三日間ヲ限リテ之ヲ許セリ他ノ送付ニ係ル場合ハ已ニ司法警察官ノ假豫審ヲ終リタルモノナルヲ以テ大凡被告事件モ認メ得ヘク之ヲ取捨スルニ付區裁判所檢事ニ於テ更ニ拘留シテ之ヲ搜查スルノ必要ナク概シテ直ニ訴ヲ起シ得ヘシ已ニ訴ヘテ拘留ノ必要アラハ公判判事ニ於テ拘留狀ヲ發スルヲ以テ毫モ支障ナキナリ

人或ハ説ク區裁判所檢事モ其ノ管轄事件ニ對スル權限ニ付テハ地方裁判所檢事ト異ナルヘキ理ナシ第四十六條ニ於テ拘留狀ヲ發シ得ル以上ハ之ヲ類推援引シテ他ノ送付ヲ受ケタル場合モ發シ得ルモノトスヘシ法ニ明文ナシト雖モ解釋上然ラ

サルヲ得スト是只其職權ノ同一ナルヘキノミヲ視テ其輕重ノ別等差ノ順序ヲ察セサル説ト云フヘシ抑モ現行犯ノ豫審ニ於ケル司法警察官ニ輒スク被告人ヲ拘留セシメサルヲ欲シテナリ區裁判所檢察事ハ自ラ臨檢シタル時ニ限り發シ得ルモ起訴ノ期限ヲ三日内ト定メ他ノ送付ヲ受ケタル時ハ直ニ訴ヲ起サシム輕微ノ被告人素ト拘留セシムルヲ欲セサレハナリ地方裁判所檢察事ハ令狀及起訴ニ付期限ナシ輕重難易ニ概スヘカラス當然ノ順序ナリトス

果シテ或者ノ解釋ノ如ク管轄事件ニ付テハ同一ノ權限ナリトセハ何故區裁判所檢察事ニ限り拘留狀ヲ發シタル時ハ三日内ニ起訴スヘシト制限シタルヤ解スヘカラサルニ至ラン此制限アルハ必ス法律カ輕微ノ被告人ヲ拘留スルヲ欲セサルコト論セスシテ明ナリ之ヲ要スルニ區裁判所檢察事ハ自カラ臨檢シタル場合三日内ノ制限ヲ設ケテ拘留狀ヲ發スルヲ得ルノ外他ノ場合ニ於テハ拘留狀ヲ發シ得サルモノナルコト明了ナリトス

ノ二説アルモ右ハ甲説ヲ可トス

〔長崎檢察長問二六〇六〇一七民刑甲第一三九號通知〕

(参照)

刑訴法第四百四十八條

地方裁判所檢察事ハ區裁判所檢察事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時間内ニ之ヲ訊問シ拘留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

第四百四十四條

地方裁判所檢察事及ヒ區裁判所檢察事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

(第二項略)

第四百四十六條

區裁判所檢察事其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第四百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得若シ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ三日内ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第二節 假豫審ノ立會人

(一) 刑事訴訟法第九十二條ニ依レハ豫審判事ノ臨檢搜索物件差押被告人證人ノ訊問ニ付テハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トシ且ツ裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要シ而テ書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル其處分ハ無効タルノ規定アリ然ルニ同法第四百七十七條ニ於テ司法警察官ニ許サレタル現行犯ノ豫審處分ニ付テハ別ニ立會人ヲ要スルノ規定ナキヲ以テ立會人ヲ要スルヤ否ニ付キ疑ヲ生ス此場合司法警察官假豫審處分方ハ司法警察官執務心得第六十一條ノ通ニ付同心得中特別ノ規定アル場合ヲ除ク外立會人ヲ要セス

(二) 八ノ三ノ三三民刑甲第四〇號局長通牒)

(參照)

刑訴法第九十二條

豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ圖書ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ
裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ

要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ら圖書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカル可シ

第四百四十七條

第四百四十四條第四百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但拘留狀ヲ發スルコトヲ得ス

司法警察官ハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致ス可シ

第四百四十四條

地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

(第二項略)
第四百四十六條

區裁判所檢察官其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第四百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得

若シ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ三日内ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得

(二)司法警察官假豫審ヲ行フ場合被告人證人ノ訊問ニ立會人ナキトキハ其調書ハ無効ナル旨客年四月中大審院ニ於テ新判例ヲ設ケラレ爾來名古屋控訴院及ヒ當裁判所ニ於テモ之レヲ實行スルコトナレリ抑モ大審院ノ該判例タル輒ク同意ヲ表シ難シト雖トモ上級審ノ執ル所既ニ斯クノ如クナル上ハ假豫審ヨリ成立チタル起訴ノ多數ハ概テ違法タルノ裁判ヲ受ケ被告人ノ倖免ヲ得ルモノ續續現出スルニ至ラントス而シテ之レヲ防止セントスルニハ獨リ豫審ヲ求ムルノ途アルノミ然リト雖トモ業已ニ司法警察官カ充分ナル假豫審手續ヲ了シ直チニ公判ニ提起シ得ヘキ事件ヲシテ猶ホ復々豫審ニ附スルニ至テハ其得策ヲラサルヤ必セリ而モ尙ホ之レヲ遂行セン乎舉ケテ之レヲ少數ナル豫審判事ニ委スルトキハ被告人ノ疾苦ハ勿論訴訟延滞ノ爲メ忽チ倍大ノ監獄ヲ建築セサルヘカラス夫レ此ノ如キ結果ヲ生スルモノ一ニ此嶄新ナル判例

アルニ座スルノミ故ヲ以テ當時下級審ノ當該官タルモノ宜シク機宜救濟ノ方法ヲ設クヘキ必要アルヲ信シ實ニ客年十月十五日ヲ以テ假豫審ノ訊問上立會人ヲ用ウヘキ旨管内司法警察官ニ通牒シ以テ一時ヲ彌縫シ來レリ然ルニ今回香川縣知事ノ伺ニ對スル御訓令ニ依リ該通牒ノ全然觸觸セシコトヲ了知シタル上ハ小官ハ迅速ニ該通牒ヲ取消シ以テ司法警察官ノ方鍼ヲ一定セシムルト同時ニ自今起訴ノ手續上又其方法ヲ決定スヘキノ必要ヲ生シ成ル可ク穩當ナル方法ニ依ランコトヲ希望ス乃チ其要點ハ

第一 立會人ヲ用キサル司法警察官ノ假豫審調書ハ固ヨリ有效ノ證據タルコトヲ主張スルモ判事ニ於テハ新判例ニ依リ該調書ヲ無効ニ歸セシムルノ裁判ヲ爲スヘキハ目下必然ノ情勢ニ付右ノ場合ニ於テハ起訴ノ目的ヲ達セン爲メ總テ控訴院ニ覆審ヲ求ムヘキヤ

第二 一時前項ノ弊害ヲ避ケ且ツ被告人ノ倖免ヲ防止セン爲メ假豫審調書ノ完全ナルニ拘ハラヌ悉ク豫審ヲ求ムヘキヤ
蓋シ假豫審ヨリ成立チタル起訴ノ方鍼目下ノ事情ニ付テハ前二項ノ一ニ依ルノ外ナシ果シテ其何レヲ實行スヘキヤ

右等ノ處分タル固ヨリ檢事ノ專掌ニ屬スルヲ以テ其相當ト思料スル所ニ依リ斷行シ得ヘキ者ノ如シト雖モ之ヲ審究スルニ公益上重大ノ關係ヲ有スル者アリ即チ其第一項ニ依ランカ控訴中ノ被告人多クハ實役ニ服セスシテ刑期ヲ經過シ刑ノ效用上主タル目的ヲ達シ得ス又第二項ニ依ランカ假豫審ノ制ハ有名無實ニ屬スルノミナラス到底現員豫審判事ノ負擔シ能ハサル所ナリトス而シテ又右二項ノ内其何レヲ實行スルモ訴訟ノ延滞監獄ノ累積等ニ至リテハ更ニ徑庭ナキヲ以テ之ニ伴フノ弊害百出シ遂ニ司法ノ威信國家經濟ニモ差響キ實ニ容易ナラサル結果ト謂ハサルヘカラストノ請訓ニ對シ香川縣知事伺ニ對スル訓令ハ司法警察官ノ假豫審處分ニ立會人ヲ要セサルコトヲ示シタルニ止マリ之ヲ用ユルコトヲ禁シタルモノニ非サルニ付時宜ニ因リ立會人ヲ用ヒシムルハ妨ケナシト訓令セラレタリ

〔名古屋檢正請訓二八ツ八ノ三〇訓令〕

〔山口檢正復申二八ノ二〇ノ三局長通牒〕

(參照)

大審院判決

取引所法違犯ノ件^{明治三十七年刑第五十八號}
 明治二十六年十二月二十日國館控訴院ニ於テ右吉之助外八名等カ被告事件ニ付函 51
 館地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴ヲ審理シ被告人等ハ取引所法違犯ノ所爲アリト認メ之ヲ法律ニ照スニ明治二十六年法律第五號取引所法第二十五條取引所外ニ於テ取引所ノ定期云云類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ストアルニ該ルニ付同第三十二條ヲ適用シ各五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス然ルニ第一審判決失當ノ廉アルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十一條二項ニ從ヒ該判決ヲ取消シ更ニ前揭事實及法條ニ基キ長島吉之助ヲ罰金百五十圓ニ、荒川忠藏、荒川佐助、森山岩藏、布施高藏、小熊幸吉、中野熊太郎、小川長吉、佐藤助太郎ヲ各罰金五十圓ニ處シ押收シタル寶玉帳及相場書十六枚紙片二枚藥袋紙小袋三箇ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ右吉之助ニ還付スト言渡シタリ
 被告吉之助外八名ハ右第二審ノ判決ニ對シ各上告ヲ爲シタリ右九名上告ノ要旨ハ第一、原判文ニ取引所法第二十五條ニ定ムル賣買取引ノ要素タル證據金ノ取引ハ翌十五日ニ授受スヘキ約定ナリト認メタル上ハ其取引結了後ハ既遂タルヘキモ其前ハ犯人自ラ中止スルカ又ハ中止セサルモ未遂タルコト明瞭ナレハ刑法第五條第

二項ノ規定ニ則リ同第百十二條第百十三條ヲ適用スヘク且取引所法第二十五條ノ違犯ハ輕罪ニシテ未遂犯ヲ罰スルノ規定ナケレハ右第百十三條第二項ニ依リ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ右法條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ナリ第二、取引所法第二十五條ハ單ニ合意ノミヲ以テ犯罪ト爲スノ法則ニアラス必ス賣買取引ノ行爲ヲ罰スルノ趣旨ナルニ原判文中規則ニ背キ所謂空米賣買ヲ爲シ云ト賣買ノ合意ニ止リ何等ノ取引行爲ナキニ右第二十五條及第三十二條ヲ適用シタルハ不當ニ法則ヲ適用セル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人原控訴院檢察長濕美友成ハ被告九名ノ上告趣旨ハ總テ適法ノ原由ナキ旨答辨書ヲ差出シタリ

被告忠藏、佐助、高藏、幸吉、長吉、岩藏、助太郎、辯護士江木衷、卜部喜太郎ノ上告趣旨擴張書ノ要旨ハ第一、本件ニ付原院ハ斷罪ノ證據トシテ被告忠藏、高藏、佐助、幸吉、熊太郎、助太郎、長吉、岩藏、吉之助、寛三ニ對スル警察調書ヲ採用シタルトモ其何人カ作リタルモノナルカラ示ササルニヨリ一件記録中ニ存スル前記被告ニ對スル警察調書ノ全部ヲ指シタルモノナルコト明カナリ而シテ司法警察官カ被告人ヲ訊問シ調書ヲ作リタルハ刑事訴訟法第四百七條ノ規定ニ從ヒ豫

審判事ノ爲スヘキ處分ヲ假リニ爲シタルモノナルハ豫審判事カ調書ヲ作ルニ付定ヌラレタル刑事訴訟法第九十二條ノ手續ハ司法警察官ニ於テモ之ヲ盡ササルヘカラサルハ言ヲ俟タス然ルニ原院ノ證據トシテ採用シタル警察調書ハ悉ク立會人ナク各自一名ツツ取調ヲ爲シタル調書ニ係ルヲ以テ右第九十二條末段ニヨリ調書ノ效力ナキモノナルニ之ヲ證據ニ供シタルハ不法ノ判決ナリ第二、本案判決原本ヲ見ルニ其七葉目ニ判事ノ契印ヲ缺キタルハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ヲ無視シタルモノニテ判決原本タルノ效力ナキモノナルハ從テ事實ノ認定及擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキ不法ノ判決ナリ第三、判決原本公判始末書ヲ見ルニ函館地方裁判所判事門脇滋樹ハ陪席判事トシテ審理及判決ニ關與シタルハ不法ナリ何トナルハ裁判所構成法ニ依リ函館控訴院判事ノ代理トシテ關與セシモノトセハ其代理タル資格ヲ示スヘキニ其資格ヲ示ササルハナリ第四、原院カ斷罪ノ證據トナシタル警察調書中明治二十六年十月十四日警部小野岡堯敏カ布施高藏ヲ訊問シタル調書ハ其三葉目ニ契印ナキヲ以テ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ノ調書ナルニ之ヲ斷罪ノ證據トセシハ不法ノ判決ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シタル處被告忠藏外六名辯

護士卜部喜太郎ハ前顯上告趣旨並擴張論旨ヲ辯明陳述シ立會檢察事安居修藏ハ辯護士ノ上告擴張第二論旨ハ相當ノ理由アリト思考スルニ付被告吉之助、熊太郎ノ二名ニ對シテハ該論旨ニ基キ附帶上告ヲ爲シ原判決ノ破毀アラシムト求ムト述ヘタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

被告忠藏外六名辯護士江木衷、卜部喜太郎ノ上告趣意擴張書第一ノ論旨ニ基キ原院ニ於テ斷罪ノ證據トシテ採用シタル被告忠藏、高藏、佐助、幸吉、熊太郎、助太郎、長吉、岩藏、吉之助、寛三ニ對スル各警察調書ヲ查閱スルニ其調書ハ總テ立會人ナクシテ之ヲ作りタルモノナリ抑司法警察官ニ於テ刑事訴訟法第四百七條ニ從ヒ假豫審ヲ行フニ當リテモ亦同法第九十二條第二項以下ノ規定ヲ適用セサル可カラサルコトハ固ヨリ論ヲ俟タスシテ明ナリ然ルニ其規定ニ違ヒ立會人ナクシテ各被告等ヲ訊問シタルハ其處分ノ效ナキモノナルニ該調書ヲ採リテ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當タルヲ免カレサルモノトス又擴張書第二ノ論旨及立會檢察事安居修藏ノ被告吉之助外一名ニ對スル附帶上告趣旨ニ基キ原院ノ判決原本ヲ閱スルニ其七葉目ト八葉目トノ間ニ契印ナキニ付キ即チ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ違フモノニシテ其書類ノ效ナキモノナリ又擴張書第四ノ論旨ニ基キ被告高藏ニ

對スル警察調書ヲ閱スルニ其二葉目ト三葉目トノ間ニ契印ナキヲ以テ是亦同條ノ規定ニ違ヒ無効ノ書類ナルニ原院ニ於テ之ヲ採リテ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當ナリトス已ニ此等ノ點ニ於テ破毀ノ原由アルコトヲ認メタル上ハ其他ノ論旨ニ對シ逐一説明ヲ爲スノ要ナシ依テ右擴張論旨及附帶上告ノ論旨ハ共ニ其理由アルモノト認ム

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シテ宮城控訴院ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

(三)刑事訴訟法第四百四條ニ依リ檢察司法警察官ニ於テ現行犯ノ假豫審ヲ爲スニハ同法第九十二條ニ定メタル規則ニ從ヒ書記若クハ立會人ヲ要スル旨客年八月三日長崎控訴院檢察長ヨリ通達アリタルヲ以テ檢察ハ書記ヲ用ヒ司法警察官ハ二名ノ立會人ヲ用ヒ來レリ然ルニ本年三月二十三日司法省民刑甲第四〇號民刑局長ヨリ司法警察官假豫審處分ヲ爲スニハ特別規定ノ場合ヲ除ク外立會人ヲ要セサル件香川縣知事ヘン訓令通牒アリタレトモ大審院ニ於テハ刑事訴訟法第九十二條ニ從フヘキモノトスル從來ノ判例ヲ改メス實務上頗フル困難アルモ其實香川縣知事ニ對スル訓令ハ司法警察官ノ假豫審處分ニ立會人ヲ要セサルコトヲ示シタルニ止マリ之レヲ用エ

ルコトヲ禁セラレタルモノニアラサルニ付キ時宜ニ依リ立會人ヲ用ユルモ差支ヘナシ

(福岡檢正照會二八ノ一〇ノ三局長回)

(參照)

刑訴法第百四十四條

地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ
第九十二條

豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人、證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調査ヲ作リ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ
裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシ

ム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカル可シ

(四)司法警察官執務心得ハ司法警察官ノ假豫審處分ニ立會人ヲ用ユルコトヲ禁シタルモノニ非ルニ付時宜ニ依リ立會人ヲ用ヒシムルハ妨ケナシ
〔佐賀檢正上甲二八ノ一〇ノ八訓令〕

第二節 假豫審處分ノ効力

刑事訴訟法第百四十四條ノ場合ニ於テ檢事犯所ニ臨檢シ檢證處分ニ著手シタルトキハ公訴ハ既ニ提起セラレタルモノナルヤ否ヤニ付
55

(甲說)

刑訴法第百四十五條ニ前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ豫審判事ニ送致シ云トアリ是レ即チ檢事カ臨檢處分ヲ爲シタル以上ハ業既ニ公訴提起セラレタルモノニシテ須ラク檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ

豫審判事ニ送致セサルヘカラスト規定シタルヲ見テモ知ル可キノミ其然リ然ラハ
檢事ハ此場合ニ於テ必スヤ意見書ヲ作りテ豫審判事ニ送置スルモノタルコトハ論
ヲ俟サルナリ

(乙説)

同第四百四十四條ノ場合ニ於テ苟モ檢事カ臨檢處分ヲ爲シタル以上ハ公訴提起セラ
レタルナリトノ説ハ當ラス箇ハ是レ檢事ニ於テ其事件ヲ引續キ取調フヘキモノト
思料セシ場合ニ限ルコトニシテ其引續キ取調フヘキモノニアラスト思料スレハ檢
事ハ直ニ不起訴ノ處分ヲ爲シテ可ナリ若シ其レ此場合ニ於テ公訴提起セラレタル
モノトセハ奇怪ナル結果ヲ生ス可シ即チ看ヨ區裁判所檢事カ檢證處分ヲ爲シタル
トキモ亦公訴ヲ提起セラレタルモノナリト云ハサルヘカラスト然ルニ法律ハ地方裁
判所檢事ト區裁判所檢事トノ間ニ區別ヲ爲シ地方裁判所檢事ハ證憑書類ニ意見書
ヲ添ヘ之ヲ豫審判事ニ送致スヘシトアレトモ區裁判所檢事ハ地方裁判所檢事ニ送
致スヘク而シテ地方裁判所檢事ハ其送致ヲ受ケタルトキハ或ハ起訴スヘク或ハ不
起訴ト爲シ得ルコトハ同第四百四十八條第四百四十九條ノ規定アルヲ見テモ會得スヘ
シナントナレハ其第四百四十九條ニ云ハスヤ地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ

輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ云直ニ其裁判所
ニ訴ヲ爲スコトヲ得被告事件罪トナラス又ハ公訴受理ス可カラザルモノト思料シ
タルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラストアツテ益々甲説ノ當ラサル知ルヘキナリ
ノ二説アリ然ルニ刑事訴訟法第四百四十九條ニ地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ
云云トアルハ同第四百四十四條ノ場合ヲモ包含シタルモノニ付檢事ニ於テ第四百四
條ノ處分ヲ爲スモ公訴ノ提起アルモノト爲スコトヲ得ス

(富山檢正代理檢事問一九ノ四ノ二九局長回)

(參照)

刑訴法第四百四十四條

地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄
ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ
豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲
スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

(第二項略)

第四百四十五條

前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四百四十八條

地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ
若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ拘留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

第四百四十九條

地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラズ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得
被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

第四章 證據調

第一節 證據調ノ轉囑

刑事訴訟法ノ規定ニ依リ或ル地方裁判所豫審判事又ハ公判判事ヨリ當區裁判所宛ノ書面ヲ以テ證人訊問或ハ臨檢搜索物件差押等ノ事ヲ囑託シ來リシ場合ニ於テ其證人ノ所在地臨檢搜索物件差押ヲ爲スヘキ場所當區裁判所ノ管轄以外ナルトキハ其旨ヲ回答シテ囑託ヲ謝絶スル事ヲ爲サスシテ其管轄法衙ニ當廳ヨリ轉囑シ一面之ヲ囑託廳ニ通知シ置クハ至急ノ取扱ニシテ決シテ越權違法ノ處置ニアラサルヘシ抑モ刑事訴訟法第一百二十二條第三百二十二條第九十條等ハ正當管轄權アル法衙ニ囑託シ得ル事ヲ規定セルモノニテ囑託廳判事ノ意思モ固ヨリ此ノ法意ニ遵ヒ管轄裁判所ニ囑託スルニ在ル事明カナルヲ以テ當裁判所ヨリ管轄裁判所ニ轉囑スルハ則チ囑託判事ノ意思ヲ取繼キタルニ外ナラサルモノニテ適法ノ所置ナルニ付當廳ヨリ轉囑セラレタル管轄廳ハ此ノ共助事務ヲ取扱ヲ爲ササル可カラサルモノト信ス若シ然ラズシテ受託廳ハ轉囑ヲ爲スノ權ナク謝絶ノ回答ヲ爲シ囑託廳ノ判事ハ更ニ正當管轄廳ニ囑託スヘキモノナリトセハ不便甚敷一般事務ノ滯滞ハ勿論不適當ノ所置ナルヘシ

應ハ管轄法衙ニ相違ナキモ當區裁判所ニハ支部ノ設置アリテ豫審判事在勤セルニ付此ノ豫審事務ノ共助ハ上野支部ノ豫審判事ニ於テ取扱フ事相當ナル可シ右某地方裁判所ノ豫審判事ハ不案内ナルヨリ當區裁判所宛ニ囑託書ヲ記シタル可キモ其趣旨ハ全ク豫審判事在勤ナラハ同判事ニ然ラサレハ區裁判所ニ結局共助事務ノ取扱ヲ爲スヘキ適當ナル所ニ囑託スルノ意タル事明カナルニ付前項ノ趣旨ニヨリ右囑託書ヲ支部ノ豫審判事ニ送リ同豫審判事ヨリ囑託應ノ豫審判事ニ對シ移牒ヲ受タル次第ヲ記シテ取調書ヲ添ヘ回答候様取計ヒ可然儀ニテ縱令數歩ヲ譲リ囑託應ノ判事ハ當區裁判所ニ囑託スルノ意ナリシト爲スモ右ハ畢竟事務ノ共助ナルヲ以テ適當ナル法衙ノ判事取調ヲ爲シ回答スレハ差支ナキ道理ニテ受託應タル當區裁判所ハ當支部ノ豫審判事ニ移牒スルノ權利アリト云ハサルヲ得ス而テ右囑託書カ當區裁判所宛ナルヲ以テ是非共區裁判所判事ニ於テ取調ヘ回答セサル可カラストスルハ甚タ膠漆ノ論ナルヘキヤト云フニ右ハ刑事訴訟法中轉囑ヲ許スノ規定ナキヲ以テ御問合セノ場合ニ於テハ轉囑ヲ爲スコトヲ得ス

〔上野區監問三二ノ五ノ一九民刑甲第九四號局長回〕
(參照)

刑事訴訟法第百二十二條

豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢、搜索、物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

第百三十二條

豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得
若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

第百九十條

第十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

第二節 被告人ノ訊問

(一) 刑事ノ審判上事實參考ノ爲メ已決囚ヲ召喚スルコト往往有之趣ニ候處右ハ其逃去ノ機會ヲ與ヘ且刑罰ノ效用ヲ薄フスル等ノ恐アルヲ以テ自今事ノ重大ナルモノニシ

テ他ニ充分ナル證據ナク且其取調方ヲ囑託スルコトヲ得サル場合ニ非サレハ召喚ス
ヘカラス

(一九ノ一〇刑第七四一號内訓)

(二)明治九年當省第十七號達及明治十年當省丁第八一號達ハ兩號共消滅シタリ
(宇都宮檢正問三一ノ一二ノ二三民刑甲第三〇二號局長回)

60

(參照)

(一)明治九年司法省第十七號達

勅奏官及華族ノ犯罪ニ付呼出方ノ義ハ時時奏請ヲ經候成規ニ候處其違式註違罪ニ
於テハ書面推問或ハ執事呼出等ニテ行届カサル節ニ限り直ニ本人呼出不苦候條此
旨相違候事

61

(二)明治十年司法省丁第八十一號達

本年第七十一號布告ヲ以テ六年第四百五條布告被廢候ニ付勅奏官及ヒ華族ハ民事
裁判上其家令執事ヲ喚問スヘシ若シ其本人喚問イタサス候テハ事實差支アル場合
ニ於テハ時時奏請ヲ經テ喚問スヘク候條此段爲心得相違候事但勸解ニ付呼出ノ節
モ同様タルヘキ事

62

第三節 檢 證

第一 臨檢ノ立會人

區裁判所ニ屬スル事件ニシテ檢事ヨリ起訴ノ上公判判事ニ於テ取調ノ未實地臨檢ノ
必要アルヲ認メ其決定ヲナシタル場合ニ於テハ其臨檢ニ檢事ノ立會ヲ要セス

63

(鹿屋區檢事代理試補問三一ノ三ノ三民刑甲第二八號局長回)

第二 要塞等ノ檢證

(一)豫審判事檢事等檢證ノ爲メ水陸一部ノ形狀ヲ測量模寫攝影筆記スルハ明治三十
一年勅令第七十六條ノ禁令範圍外ニ屬ス

64

(司法大臣照會三二ノ五ノ六送甲第一〇一七號ノ一陸軍大臣回答)

(參照)

明治三十一年勅令第七十六號

第一條 要塞ニ於ケル各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ
形狀ヲ測量、模寫、攝影、筆記セムトスル者ハ豫メ當該要塞司令官ノ許可ヲ受
クヘシ

65

前項ノ區域内ヲ明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條ニ依リ測量又ハ検査セムトスル者若ハ明治二十三年法律第八十七號鑛業條例第四十七條ニ依リ測量セムトスル者ハ豫メ當該要塞司令官ニ届出ヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量、模寫、撮影、筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ノ指示ニ從フヘシ

第二條 官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ノ水陸ノ形狀ヲ測量、模寫、撮影、筆記セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ノ承認ヲ受クヘシ

官廳ニ於テ前條第一項ノ區域内ヲ明治二十二年法律第十九號土地收用法第五條若ハ第七條ニ依リ測量又ハ検査セムトスルトキハ豫メ當該要塞司令官ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ測量、模寫、撮影、筆記ヲ爲スノ方法區域ハ當該要塞司令官ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第三條 前二條ノ規定ハ要塞ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定各防禦營造物ノ周圍ヨリ外方五千七百五十間以内ノ水陸ノ形狀ヲ測量、模寫、撮影、筆記スル場合ニモ之ヲ適用ス

第四條 第一條第一項及第三條ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ告示ス

第五條 第一條各項ニ違犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ニ依リ第一條ヲ適用スル場合ニ於テ其ノ各項ニ違犯シタル者亦同シ

第六條 第一條第一項及第三條ノ區域ヲ表示スル爲ニ設ケタル標石標木若ハ標札ノ類ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第七條 第一條第二條第三條ノ規定ハ第四條ニ依リ陸軍大臣ノ告示シタル箇所ニ限リ之ヲ適用ス

第八條 本會ニ規定スル要塞司令官ノ職務ハ警備隊ヲ置キタル箇所ニ在リテハ警備隊司令官其ノ他要塞司令官在ラサル箇所ニ在リテハ其ノ地ノ衛戍司令官(衛戍司令官在ラサルトキハ築城部支部長)之ヲ行フ

第九條 軍港要港規則ニ特ニ禁令アル事項ニ關シテハ本會ノ規定ヲ適用スルノ限

ニ在ラス

第十條 本令ハ陸海軍官憲ニ於テ行フ測量、模寫、撮影、筆記ニ適用セス

(二) 刑事檢察事及司法警察官ヨリ檢證ノ爲メ陸軍ノ所管ニ係ル國防用防禦營造物ニ出入ノ承認ヲ請求シ來リタルトキ要塞司令官ニ於テ事急ヲ要シ且他ニ特別ナル差支ナシト認ムル場合ニハ直ニ其請求ヲ承認シ否ラサル場合ニハ事由ヲ具シ本大臣ノ指揮ヲ待ツヘシ又直ニ承認シタルトキハ事由ヲ具シ本大臣ニ報告スヘシ

(三四ノ六ノ一五陸軍大臣達)

(三) 民事刑事ノ檢證ノ爲メ判事又ハ檢事カ軍機保護法第五條ニ記載スル防禦營造物内ニ入ルハ同禁令ノ範圍外ナリトス

(三四ノ五ノ一〇海軍大臣訓令)

(參照)

軍機保護法第五條

許可ヲ得ス又ハ詐偽ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量模寫撮影シ又ハ其ノ狀況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍機保護法第四條

許可ヲ得スシテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量模寫撮影シ又ハ其ノ狀況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍機保護法第一條

軍机上祕密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス

(四) 民事刑事ノ檢證ノ爲メ判事又ハ檢事カ軍機保護法第五條ニ記載スル防禦營造物

内ニ入ルハ同禁令ノ範圍外ニ屬スル旨兼テ訓令致置候處刑事訴訟法第四百十七條ノ場合ニ於テ司法警察官カ臨檢處分ヲ爲ストキハ同シク同禁令ノ範圍外ニ付此旨心得ヘシ

(三四ノ八ノ八海軍大臣訓令)

第四節 搜索、差押

(一) 行政官署ニ於テ犯罪ノ事實發見ノ爲メ書類搜索等ノ處分ヲ行フヘキ場合ニ於テハ豫

メ其事由ヲ通知シ權横ニ涉ルコト無之候様注意可致又遽急ヲ要スル場合ノ外ハ必ス其長官（例ハ八月長ノ犯罪ニ付テハ郡區長、郡區長ノ犯罪ニ付テハ府縣知事ノ如シ）ニ通告シ其許諾ヲ得タル上ニテ右ノ處分ヲ爲スヘシ
（一九〇七刑第六〇三號訓令）

（二）豫審判事カ民事部ニ對シ書類押收ノ權アリヤ否ノ點ニ付
（甲說）

豫審判事ノ職務トシテ最モ貴ムヘキ所ノモノハ敏捷ト迅速トニ在リ若シ之ヲ緩漫不斷ニ失セハ終ニ證據ノ湮滅ヲ來タスコト必セリ故ニ刑事訴訟法第四百條ニ於テ荷モ犯罪ニ關シ證據ト爲スヘキ物件ノアル場合ニ於テハ其搜索ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定セラレ且同條ノ藏匿スル疑アル者云云ノ一句ハ物件所在ノ場所ト解シ運用セザレハ實務上往往不便ヲ來タヌヲ以テ假令其物件ノアル場所ノ官廳タルト一個人タルトニ論ナク均シク其處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ反對論者ノ言ノ如ク若シ本條ヲシテ官廳ニ對シ適用ヲ爲スコトヲ得ストセハ爲ニ時機ヲ失ヒ證據ノ湮滅ニ歸スルコト多シ況ンヤ刑事訴訟法ニ於テ證據集蒐ノ手續ニ付官廳ト一個人トノ區別ナキニ於テヲヤ夫レ此ノ如ク既ニ官廳ニ對スル搜索物件押收ノ規定ナシトセハ公私ヲ問ハス第四百條ノ法文ヲ官廳ニ適用スルモ敢テ政務機關ヲ侵シタリト云フコト

ヲ得サルノミナラス法律カ此區別ヲ設ケザリシハ即チ其官廳ノ權利ヲ侵害スルモノト認メサルニ因ルモノナリ故ニ豫審判事ノ職權トシテ他官廳ハ素ヨリ同廳内ノ民事部ニ對シ證據物件ヲ押收スルニ照會手續ヲ爲スヘキモノニアラサルナリ

（乙說）

立法行政司法ノ三大權ハ互ニ相依ル可ク相侵スヘカラサルモノナリ此理ハ以テ司法權ノ細分派タル刑事ト民事トノ裁判權ノ關係ニ適用スルコトヲ得ヘシ或曰刑事訴訟法第二百二條以下ノ條文ニ於テ豫審判事ノ職權ヲ制限シタルモノナシ故ニ豫審判事ハ民事部ハ勿論他ノ政務機關ニ對シテモ亦搜索押收ノ處分ヲ爲シ得ヘシト然レトモ第二百二條以下ノ規定ハ臣民ノ權利ヲ確保シタル憲法第二十五條乃至第二十七條等ノ大則ニ對スル例外ニ屬ス此例外ノ規定ヲ採リテ原則ト爲シ且之ヲ擴充シテ他ノ官廳ニ對シテモ亦無限ノ權力アリト云フハ蓋シ立法ノ眞意ニアラサルヘシ況ンヤ刑事訴訟法ハ元來官廳ノ關係ヲ定メタルモノニアラサレハ本問ノ如キ場合ヲ豫想スル謂レナク又杞憂スルノ要ナキナリ何トナレハ官廳相互ノ間ハ命令ヲ以テ相侵ササルモ彼此照會ノ手續ヲ爲セハ各其職務ヲ妨ケサル限りハ相輔フヘキヲ以テナリ故ニ豫審判事ハ民事部ニ對シ照會ヲ爲スハ格別命令ヲ以テ職務執行中

ノ書類ヲ押收スルヲ得ス但官廳内ノ犯罪若クハ官廳ノ被害者タルトキハ固ヨリ論外ナリ

ノ兩説アルモ元來豫審判事ノ職權ニ關スル刑事訴訟法第百二條以下ノ規定ニ於テハ官廳ト一箇人トニ付區別ヲ爲ササルノミナラス同法第百十四條等ノ趣旨ヨリ推考スルモ豫審判事ハ普通ノ場合ニ於テハ民事部ノ書類ヲモ押收スルノ職權アルモノト決定セサルヲ得サルヘシ然レトモ豫審判事カ職務ヲ行フト同シク民事部ニ於テモ本分ノ職務アルモノニ付豫審判事ハ已ヲ得サル場合ノ外其職權ヲ行使スヘキモノニ非ス

〔京都地長問二八ノ一二ノ二八局長回〕

(參照)

(一) 刑訴法第百四條

豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得
被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス

第百十四條

證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス 73

第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(二) 憲法第二十五條

日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セララルコトナシ 74

第二十六條

日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルルコトナシ

第二十七條

日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第五節 證人

刑事訴訟法第百二十三條第四號ニアル雇人トハ雇期限ノ長短ニ拘ハラズ其事實ニ依リ

テ雇人タルト否トヲ定ムヘキモノニシテ明治十年當省甲第一號達ニ謂フ所ノ雇人ヲ指シタルモノニアラス

(太田區判問二九ノ二ノ七局長回)

(參照)

(一) 刑訴法第二百二十三條

左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖

モ亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

(二) 明治十年司法省甲第一號達

去明治六年十二月十日日本省第九十號布達ヲ以テ雇人名稱ノ儀相達置候處今後戶籍屆濟ノ有無ニ拘ハラヌ雇主雇人相許諾シテ一月以上ノ期限ヲ定メ雇使スル者ハ雇

人ヲ以テ論ス可ク候條此旨布達候事

第六節 鑑定

裁判所ヨリ衛生試驗所ニ對シ化學的鑑定ヲ依頼スル手續ニ付テハ法律ノ規定上單ニ衛生試驗所ニ對シ鑑定ヲ依頼スルノミニテハ其手續ヲ盡シタルモノト爲スコトヲ得サルニ付キ裁判所ニ於テ衛生試驗所ノ鑑定ヲ要スルトキハ先ツ衛生試驗所ニ對シテ其依頼ヲ爲シ衛生試驗所ニ於テ裁判所ノ依頼ニ應シ其鑑定衛生試驗所ノ事務ト爲リタル以上ハ鑑定主任者ノ氏名ヲ裁判所ニ通知シ裁判所ニ於テハ其主任者ニ對シ鑑定ノ命令ヲ爲シ鑑定人トシテ宣誓ヲ爲サシムル等總テ鑑定人ニ對スル法律上ノ手續ヲ盡クサシムル様スヘシ又旅費日當等ハ本人ノ請求ニ因リ裁判所ヨリ實際鑑定ヲ爲シタル人ニ支拂フヘシ

若シ衛生試驗所ノ技師又ハ技手中訴訟當事者ト親族ノ關係アル場合等ニ於テハ裁判所ヨリ技師又技手中特ニ一定ノ人ヲ指定シテ依頼スルコトヲ得ルモ可成鑑定人タルヘキ者ヲ指定セサル様スヘシ
以上ノ手續ハ檢事局ヨリ鑑定人ヲ依頼スル場合ニモ亦之ニ準據スヘシ

〔二八ノ二ノ九民刑甲第九號局長通牒〕

第七節 通 譯

書法(立會書記ニアラス)ヲ通事ニ使用スル場合ニハ宣誓ヲ爲スヘキモノトス
〔長崎檢正問三〇ノ一二ノ二四民刑甲二二〇號局長回〕

第五章 保釋、責付

第一 保釋、責付ノ條件

從來重罪事件ノ公判中被告人ニ對シ保釋責付ヲ許シタル事例極メテ稀ナリ右ハ事件
ノ性質上保釋責付ヲ許シ得ヘキモノ少ナキニ由ル等種種ノ理由アルニ相違ナキモ被
告人逃走罪證澹滅ノ虞太ク其他特殊ノ事情ナキ場合ニ於テハ重罪事件ノ被告人ニ對
シテモ可成保釋責付ヲ許サルル方針ニテ處理セラレタシ

〔三三ノ八ノ一七民刑甲第七四號總務長官通牒〕

第二 保釋、責付ニ關スル公判判事ノ權能

刑事訴訟法中ニ公判判事ニ於テ被告人ニ對シ保釋責付ヲ許スノ法文ナシト雖モ公判

判事ト雖モ保釋責付ヲ許スノ職權ヲ有スルモノトス

〔宇都宮地長問二三ノ一ノ二一局長回〕

第三 保釋ヲ許ササル言渡ニ對シ異議アリタル場合ノ取扱方

改正刑事訴訟法第五十八條ノ二ニ保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ其裁判所ニ異議
ノ申立ヲ爲スコトヲ得トアリ其裁判所トハ豫審判事ノ言渡ニ係ルトキハ其豫審判事
ノ屬スル合議裁判所ヲ指稱シタルモノニシテ本案一件記録ハ或程度マテハ審査スル
ノ必要アルヘキヲ以テ裁判所ヨリ豫審判事ヘ通知若クハ照會シ之ヲ取寄セ審理スヘ
シ

〔奈良檢正問三二ノ五ノ二三民刑甲第一一五號局長回〕

(參照)

刑事法第五十八條ノ二

保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ其裁判所ヘ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定ス可シ

第四 被保釋人、被責付人ニ對スル制限

十六年司法省丁第三十一號達ハ治罪法ト共ニ消滅シタルモノトス

(廣島檢長問二八ノ一二ノ二三局長回)
(參照)

明治十六年司法省丁第三十一號達

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相達候條此旨爲心得相達候事

85

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キコトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アルトキハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルトキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ

若シ同居人アラサルトキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置クヘシ

第三條 代言人辯護人又ハ代人トシテ法延ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルコトヲ得ス

第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

右相達候事

第六章 豫審決定

茲ニ甲某乙某ニ對シ詐僞取財ノ告訴ヲ爲シタルニ依リ之ヲ受理シ豫審審理ノ末乙犯罪ノ事實明確ナルモ原籍不明且ツ逃走シテ行衛知レサル者アリテ豫審決定書ヲ本人又ハ親族雇人等ニ送達スル能ハサルニ付キ豫審判事ハ刑事訴訟法第十九條民事訴訟法第五十六條ノ手續ヲ履行シタル上十四日間以内ニ之ヲ檢事ニ交付シ檢事ハ直チニ之ヲ公判ニ付シタリ此場合公判判事ニ於テ

(第一說)

公訴受理スヘシト云フ主張者ノ理由ニ曰ク輕罪ハ元來豫審決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得サレハ其決定ハ即時確定ス而シテ決定書ヲ被告人等ニ送達スルハ他日公判ニ於テ被告カ辯護ノ準備ヲ爲ス材料ニ過キス故ニ豫審ニ於テ公示ノ手續ヲ爲シタル上ハ公判判事ハ十四日ヲ經過セサルモ之ヲ受理シ刑事訴訟法第二百二十七條ノ規定

ヲ履行シ判決ヲ爲スヘキモノナリ

(第二説)

公訴受理スヘカラスト云フ主張者ノ理由ニ曰ク公示ハ十四日ヲ經過セサレハ送達ト見做ササルモノナレハ送達セサル事件ヲ受理スヘキ理ナシ
ノ二説アルモ第二説ノ通リトス

(山形檢正問二八ノ二二ノ二六局長回)

(參照)

(一) 刑事訴訟法第十九條

書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

刑事訴訟法第二百二十七條

禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人出頭セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ缺席判決ヲ爲ス可カラス

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭モサルトキハ缺席判決ヲ爲ス可キ告知書ヲ其親族又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ

其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示ス可シ

(二) 民事訴訟法第五十六條

原告若クハ被告ノ現在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲ス可キ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハス若クハ之ニ從フモ其效ナキコトヲ豫知スルトキハ其送達ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七章 豫審再起訴

刑事訴訟法第七十五條第二項ノ場合ニ於テ起訴ヲ許スヘキヤ否ヲ決定スヘキ裁判所ハ同條第一項ニ依リ先ニ豫審ヲ爲シタル裁判所タルコトハ毫モ疑ヒナシト雖トモ茲ニ重罪事件ニ付支部ノ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ其決定確定後新證憑發見シタルトキ豫審再起訴ハ支部ニ於テ其許否ヲ決定スルモ差支ナシ

(四日市區檢問三一ノ五ノ二四民刑甲第一一〇號局長回)

(參照)

刑事訴訟法第七十五條

豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受クルコトナカル可シ但新ナル證憑アルトキハ此限ニ在ラス

新ナル證憑アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

第八章 公判ニ移スノ決定

官文書偽造被告事件ニ付控訴院ニ於テ地方裁判所檢事ノ抗告申立ニ依リ同應豫審判事カ爲シタル免訴赦免ノ決定ヲ取消シ更ニ本件被告事件ヲ地方裁判所ノ重罪公判ニ付ストノ決定ニ對シ被告ヨリ抗告ヲ爲シタル處大審院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ訴訟記録ヲ査閲シタル後被告ハ控訴院雇員トナリ刑事部書記課ニ勤務中刑事控訴豫納金ヲ騙取セント企圖シ明治二十五年一月十八日何村何某ヨリ同村役場宛ノ印鑑證明願書及ヒ村長代理助役何某ト架空ノ名義ヲ記シタル與書ヲ偽造シ助役印ヲ造リ之ヲ助役名下及ヒ印鑑割印ニ押捺シ明治二十五年二月八日住居氏名不詳者ヲシテ之ヲ控訴院へ提出セシメタル事實ハ證憑充分ナリ故ニ原院カ之ニ相當スル法律ヲ適用シ刑事訴訟法第六十八條ニ

因リ本案被告事件ヲ地方裁判所ノ重罪公判ニ附ストノ決定ヲ爲シタルハ相當ニシテ本抗告ハ理由ナキモノナルニ付キ刑事訴訟法第三百條ニ依リ本件抗告ハ之ヲ棄却スト決定セラレタリ此場合ニ於テ抗告ノ對手人ハ抗告ノ決定ニ對シ更ニ抗告ヲ爲スモ妨ナシ

(大阪檢正諭訓二九ノ六ノ一〇訓令)

(参照)

刑訴法第六十八條

被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ若シ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シタルトキハ其言渡ヲ取消シ被告人未タ拘留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

第三百條

抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

第九章 公判手續

第一 延期

數人共犯事件ニシテ其被告人中捕ニ就カサル者アルカ又ハ上訴ヲ爲シタル者アルカ
 ノ爲メ等ニテ他ノ被告人ノ豫審又ハ公判ヲ延期シ未決拘留久シキニ涉ルコト往往有
 之然ルニ數人共犯事件ニ付キ同時ニ取調ヲ爲スハ固ヨリ裁判ノ便益ニ出ツルモノニ
 シテ若シ實際却テ不便益ナル場合ハ必スシモ同時ノ取調ヲ要セス就中公訴ヲ受ケタ
 ル事件ニ付キ速ニ判決ヲ爲スヘキハ裁判所當然ノ職分ナルニ因リ自今右等ノ事件ニ
 付キ豫審又ハ公判ヲ延期スルコトハ成ル可ク檢事ニ於テ之ヲ請求セサル様スヘシ
 (二六ノ二ノ一六民刑甲第三一號局長通牒)

第二 辯護士ノ選任

官選ヲ以テ任スヘキ辯護人ハ刑事訴訟法第二百三十七條二項ニ因リ其地方裁判所所
 屬ノ辯護士ニ限レルカ如シ果シテ然ラハ甲地所屬ノ辯護士ニシテ乙地ニ出張事務所
 ヲ設置シ常ニ其出張地ノミニ在テ業務ニ從事スルモノハ本屬裁判所官選ノ任ニ當ラ
 ス又出張地裁判所ニ於テモ亦然リ何時モ官選辯護人タルノ義務ヲ免カルルニ至ル然
 カモ他ノ所管内ニ出張事務所ヲ設置スル者ハ辯護士法第二十五條ノ規定ニ依リ其地
 所屬辯護士會ノ規則ヲ遵守セサル可カラサルカ故ニ假令其所屬ヲ異ニスルト雖トモ
 出張事務所ヲ設置シタル以上ハ強テ文字ニ拘泥セス等シク其地方裁判所所屬辯護士
 スコトヲ得ス

ト同一ノ責任ヲ有スルモノト解シ官選辯護ノ任ニ充ツルモ差支ナキヤト云フニ辯護
 士ハ辯護士法第八條第二項ニ依リ其氏名ヲ登録シタル裁判所ノ所屬ト爲ルヘキモノ
 ニ付出張所ヲ設置シタル辯護士ハ刑事訴訟法第二百三十七條二項ニ依リ辯護人ト爲
 スコトヲ得ス

(大阪檢正問三〇ノ一一ノ三三三民刑甲第一九七號局長回)

(參照)

(一) 刑訴法第二百三十七條

重罪事件ニ付テハ開庭前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告
 人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ
 若シ辯護人ヲ選任セザルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ
 之ヲ選任ス可シ被告人及辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士二名ヲシテ被告人數名ノ
 辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

(第二項略)

(二) 辯護士法第二十五條

辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ケ職務ヲ行ハムトスルトキハ其ノ

職務ヲ行フヘキ地方裁判所所在ノ辯護士會會則ヲ遵守スヘシ
第八條

各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登録シタル地方裁判所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁判所所在地ノ辯
護士ヲ以テ之ニ充ツ

第三 判決文ノ記載

判決書ニ同一刑期内ニアラサル監視違犯ノ前科ヲ記載スヘキヤ否ヤニ付

(第一說)

監視違犯ハ其刑期限内再ヒ犯シタルトキニアラサレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得サル
モノナルヲ以テ同一刑期内ニアラサル監視違犯ノ前科ハ之ヲ判文ニ掲クルノ要ヲ
見ス蓋シ之ヲ掲ケサルモ主文ノ理由ハ充分説明シ得ヘク其之ヲ掲クルハ却テ贅文
ニ屬スレハナリ

(第二說)

同一刑期内ニアラサル監視違犯ノ前科ハ之ヲ判文ニ掲ケサルモ敢テ判決書ノ要件

ヲ缺クモノニアラスト雖トモ之ヲ掲クルヲ以テ妥當ヲ得タルモノトス何トナレハ
前掲ノ監視違犯ハ法律上當然加重ノ原由トハナラサルモ判官カ刑期ヲ定ムルニ付
テ多少ノ影響ヲ及ホスモノナリ且司獄官カ刑ヲ執行スルニ當リ犯數ノ多少ハ其囚
人ニ對スル待遇ニ於テ等差アルモノナルニ判文ニ委曲之カ前科ヲ掲ケサレハ獄吏
ハ之ヲ知ルニ由ナク從テ囚人待遇上ニ差等ヲ立ツル能ハサル可シ若シ夫レ第一說
ノ論旨ヲ以テセンカ前科十數犯アルモノト雖トモ單ニ三犯迄ニ之ヲ止メ法律ノ適
用ヲ掲クレハ足レリ何ソ其他ヲ掲クルノ必要アランヤ然ルニ事全ク茲ニ出テス此
點ニ於テハ必要ナキ前科ノ數ヲ掲クルニ非スヤ果シテ然ラハ前科トシテ加重ス可
カラサル監視違犯モ亦判文ニ之ヲ掲クルハ當ニ理論ニ背カサルノミナラス却テ實
際ノ便宜アルニアラスヤ
ノ兩說アリ右前科ハ判決ノ要件ニアラサルニ付キ必ス之ヲ判文中ニ掲記スルヲ要セ
ス

(田邊區檢問三二ノ二ノ二六民刑甲第二〇號局長回)

第十章 上訴

第一 告訴ノ取下

姦通事件ノ裁判未確定中告訴ノ取下アリタル場合ニ於テ上訴期間内ニ在ルトキハ檢事ハ上訴ノ上免訴ノ請求ヲ爲スヘキモノトス

〔長崎地裁平戸支部檢問三二ノ七ノ七民刑甲第一五五號局長回〕

第二 訴訟記録ノ返還

刑事訴訟法第二百四十九條ニ依リ上告裁判所ヨリ訴訟記録返還ノ節ハ必ス第二審裁判所ヲ經由シテ第一審裁判所ヘ返還スヘシ

〔二四ノ四ノ二二刑甲第一六五號訓令〕

(參照)

刑事訴訟法第二百四十九條

上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判ノ膽本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

第十一章 被告人ノ放免ト押送

第一 被告人ノ放免

(一) 刑事控訴被告人ノ未決拘留中第二審ニ於テ言渡サレタル刑期經過シタル場合ト雖モ其判決確定ノ後被告人ヲ放免スヘク判決ノ確定ヲ待タス判決ノ日直ニ放免スヘキモノニアラス

〔長崎檢長請訓二九ノ二二ノ二四訓令〕

(二) 缺席換刑者執行ニ際シ罰金ヲ完納シタル後故障ヲナシ裁判所之レヲ受理シ人違ニテ無罪トナレリ然ルニ本案ノ缺席判決ハ刑事揭示簿ニ依レハ公示送達ヲ爲シ其期間滿了後ノ故障ニ付受理スヘキ筋ニアラサリシモ一件記録ニ揭示書添付アラサリシヨリ裁判所ハ故障ヲ受理セシモノナリ
右ノ事由ニ付先キニ完納セシ罰金ハ故障裁判ノ結果當然本人ニ還付スヘキモノトス

〔松本區檢問三〇ノ六ノ一〇局長回〕

第二 被告人ノ押送

檢事ニ以テ囚人又ハ刑事被告人ヲ遞傳護送セシムルトキハ遞傳狀ヲ作り護送人ニ交付シ來リタル處明治三十年十一月勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則並同年十二月內務省令第三十七號囚人及刑事被告人押送細則ノ發布アリタルニ付キ自今

検事ハ遞傳狀ヲ作ラス囚人又ハ刑事被告人ヲ發送スヘキ官署ニ對シ必要ナル書類ヲ添付シテ其押送方ヲ指揮ス可シ

(三二)ノ二ノ一五第一號訓令)

(參照)

(一)明治三十年十一月勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ遞傳ニ付スルモノトス

但シ十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 同一廳府縣内ニアル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

第四條 前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第五條 押送者ノ旅費竝ニ囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス但他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル押送費用ハ在府縣獄囚徒費ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 刑事被告人遞傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警察分署長ハ監獄ノ規定ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又ハ飲食物ニ限り自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故舊ニ之カ差入ヲ許スコトヲ得

第八條 押送途中被押送者死亡シ二十四時内ニ遺骸ノ引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ

假埋葬ノ費用ハ第五條ノ區別ニ從ヒ支辨スヘシ

第九條 本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ適用セス

(附則第十乃至十二條略ス)

(二)明治三十年十二月内務省令第三十七號囚人及刑事被告人押送細則

第一條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記雛形ノ様式ニ從

ヒ押送狀ヲ作り被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添へ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ其旨ヲ通知スヘシ

第二條 疾病者妊娠者又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非レハ押送スルコトヲ得ス

刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判官ニ通知スヘシ

第三條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若クハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備へ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條 被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セシムヘシ

囚人及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察官又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條 被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ依ル但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 刑事被告人押送中途ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ他ノ關係ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

拘留狀ニ依リ拘留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第八條 前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徴スヘシ

第九條 押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シ之ヲ許否スヘシ

第十條 押送中押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルトヲ得又已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十一條 押送中押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最寄ノ著船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警

署ニ返付スヘシ

警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得、交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長(外國人ナラハ領事)發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知シ尙遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十二條 押送中逃走者アルトキハ直ニ其旨ヲ其地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ尙發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條 被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ隔離消毒法ヲ行フヘシ

(附則第十四條略ス)
(別記雜形略ス)

第十二章 執行手續

第一節 執行指揮

第一 執行指揮ヲ爲スヘキ者

裁判所命令及ヒ言渡ノ執行ハ裁判所構成法第六條ニ依リ當然檢事ノ職權ニ屬ス
〔三三ノ一〕文第二七六(二)號訓令)

(參照)

裁判所構成法第六條

各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付訴訟ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若クハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ
檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其事務ヲ行フ
檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ
若一人ノ檢事若クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命ジ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二 執行指揮ニ要スル判決ノ謄抄本

(一) 檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ速ニ其謄本又ハ抜書ヲ作り交付ス可シ
〔一五ノ二丙第五號達〕

(二) 檢事ヨリ判決書ノ抄本ヲ以テ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ニ於テハ其抄本簡略ナルカ爲メ執行上差支ヲ生スルコトアルニ付キ自今抄本ヲ以テ指揮スルトキハ左ノ書式ニ準據ス可シ

〔二六ノ一〇ノ九民刑甲第九二號訓令〕
(別紙書式)

(△印ハ朱書)

東京地方裁判所裁判官言渡書抄本(第一卷)又ハ某裁判所ノ言渡ニ對スル第二卷若クハ第三卷	
官渡	明治二十六年九月二十一日
罪名	竊盜
刑名	重禁錮六月
刑期	監視六月
原籍	東京市神田區小川町十番地平民
住所	當時淺草區馬道町三丁目十一番地寄留
職業	人力車夫
氏名	西山次郎
年齢	四十二歳
年	文久二年十月十日生

正處 條斷	沒收 付徴	還付 徴收	對席 對席	減加 輕重	犯 罪 事 實	
					罪 斷 諸	罪 發 俱
刑法第三六八 第三六九	犯罪ノ用ニ供シタル小刀ハ	没收シテ 返付ス	對席 對席	第九二條 第一等加	被△告△ハ△平△素△意△情△ニ△シ△テ△殊△ニ△博△戲△ニ△耽△溺△シ△テ△賭△博△ニ△於△テ△相△知△ル△北△川△南△吉△ト△共△謀△シ△東△京△淺△草△區△馬△道△丁△目△計△困△難△ニ△陥△リ△タ△ル△ヨ△リ△兼△テ△賭△場△ニ△於△テ△小△刀△ヲ△以△テ△切△破△リ△鉤△輪△ヲ△開△キ△忍△入△衣△服△點△ヲ△竊△取△ス	印
明治二十五年十月一日東京地方裁判所竊盜對審重禁鋼	三月監獄六月	明治	明治	明治	甲田乙兵衛方裏口ノ兩戸ヲ所持ノ小刀ヲ以テ	某裁判所書記 氏 名 印

(注意)

一 犯罪事實ノ欄處斷罪ニ付テハ犯罪ノ原因、場所、方法、共犯ノ氏名等詳細ニ記載シ俱發罪ニ付テモ亦成ル可ク同様ニ記載スヘシ

第二 上告中他ノ犯罪アリタル場合ニ於ケル執行
刑事上告中餘罪發覺シ又ハ現ニ罪ヲ犯シタルトキハ大審院ノ判決ヲ待タズ直チニ相當ノ裁判ヲ爲シ上告ニ係ル事件ノ刑期ニ拘ハラス其執行ヲ爲ス可シ若シ大審院ニ於テ判決アリタル後其刑重キトキハ執行官ニ於テ刑法第百二條ニ從ヒ已ニ經過セシ日數ヲ控除シ餘ル刑期ヲ執行ス

(一五ノ一二參刑甲第六六八號內訓)

(參照)

刑法第百二條

罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セザル罪再犯ノ罪下俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第四 再審ノ理由アリタル場合ニ於ケル執行

爰ニ同一ノ犯者ニ對シ左ノ裁判ヲ經タルモノアリ即チ左ニ

第一 甲裁判所ニ於テ明治二十五年三月二十一日詐欺取財ニ依リ缺席ノ儘重禁錮二年罰金四拾圓監視六月ノ處分ヲ受ケタリ

第二 乙裁判所ニ於テ明治二十八年七月三十日他ノ詐欺取財ニ依リ缺席ノ儘重禁錮二年罰金貳拾圓監視一年六月ノ處分ヲ受ケタリ

第三 乙裁判所ニ於テ受ケタル刑ハ丙裁判所檢事局ニ於テ明治二十九年三月四日告知ヲナシ同月五日故障ヲ申立タルニ依リ同月七日原裁判所タル乙裁判所ニ押送ノ途中逃走セリ

第四 右ニ付乙裁判所ハ明治二十九年三月二十六日彼ノ詐欺取財及囚徒逃走罪ニ對シ一ノ重キ詐欺取財罪ニ間ヒ缺席ノ儘重禁錮三年罰金貳拾圓監視六月ノ言渡ヲナシタリ而シテ囚徒逃走罪ニノミ故障ヲ許スト宣告セリ

第五 明治二十九年十月五日ニ至リ丁裁判所檢事局ニ於テ逮捕シ同月七日告知ヲ爲シタルニ同月十日該囚徒逃走罪ニ對シ其控訴院ニ控訴ノ申立ヲ爲シタリ

第六 其後明治二十九年十二月四日同控訴院ヘ之ヲ控訴取下ノ申立ヲ爲シ翌五日其

許可ヲ得タリ

第七 尙ホ第一ノ甲裁判所ニ於テ受ケタル判決ニ對シテモ故障ヲナシ明治三十年一月二十九日ニ至リ對席ニテ更ニ重禁錮二年罰金四拾圓監視六月ノ處分ヲ受ケタル

モ乙裁判所ニテ受ケタル餘罪ニシテ其刑輕キヲ以テ執行ヲナサスト宣示セリ

第八 右ニ依リ乙裁判所ニテ言渡シタル刑期ノ執行中明治三十一年三月二十五日乙裁判所ノ檢事ヨリ現ニ執行シツツアル(即チ第四ニ掲ケタル裁判所ニ於テ明治二十九年三月二十六日ニ言渡シタルモノ)該判決ハ記録ニ錯誤アリシタメ刑罰ノ重キニ失シタリトノ理由ヲ以テ再審ノ申立ヲナシ大審院ニ於テハ同年四月七日再審ノ理由アリトシ原判決ヲ取消シ戊裁判所ニ移スト宣示セリ

以上ノ事實ニ依リ刑ノ執行上

第一項 乙裁判所ノ判決カ再審ニ依リ取消サレタル以上ハ既ニ確定シタル甲裁判所ノ刑ヲ執行スルハ當然ノ事タルヘシ果シテ然ラハ其刑期起算點ハ更ニ執行指揮ヲ爲シタル日ヲ以テシテ可ナルカ將タ乙裁判所ニ於テ言渡シタル刑ノ執行ニ著手シタル日ヲ以テスヘキモノナルカ

第二項 前項甲裁判所ニ於テ言渡シタル刑ニシテ更ニ執行指揮ヲ爲シタル日ヨリ起

算スヘキモノトスレハ明治二十八年五月二十八日靜岡地方裁判所檢事正ヨリノ請訓ニ對シ同年六月十日付ノ訓令ニ依據シ乙裁判所ニ於テ言渡セシ(第四ニ掲ク)刑執行ノ爲メ逮捕シタル(第五ニ掲ク)日即チ明治二十九年十月五日ヨリ再審判決ノ(第八ニ掲ク)日即チ明治三十一年四月七日マテノ日數ハ甲裁判所ニ於テ言渡シタル(第一ニ掲ク)刑ニ無論通算執行スヘキモノナルカ

第三項 又前項ノ起算點ヲ以テ其當ヲ得タルモノトセハ再審ノ判決即チ明治三十一年四月七日ヨリ再指揮ヲナス日マテノ日數ハ當然刑期ニ算入スヘカラサルカ
ノ疑義生スルモ本件ニ付キ執行スヘキ刑ハ戊裁判所ノ再審ノ判決ニテ定マルヘキモノナルヲ以テ其判決確定スルマテハ甲裁判所ノ判決ヲ執行スルコトヲ得ス
(名古屋地裁岡崎支部檢問三二ノ四ノ一八民刑甲第八五號局長回)

第二節 執行指揮後ニ於ケル訴訟記録ノ返還

控訴裁判所ニ於テ刑ノ執行ヲ爲スヘキトキハ其控訴審ニ於テ確定セシト上告審ニ於テ確定セシトラ問ハス罰金科料ナレハ完納又ハ換刑言渡ノ後體刑ナレハ執行指揮ノ後其月日ヲ明ラカニシ第一審裁判所ニ訴訟記録ヲ返還スヘシ

(二四ノ五ノ一一記甲第一四二五號訓令)

第三節 裁判費用ノ執行方法

刑事訴訟法第三百二十條執達吏規則第三條ニヨリ執達吏ニ對シ裁判費用等ノ徵收ヲ命令スル場合ニ付テハ

(甲說)

執達吏職務細則第九十七條ニ檢事ノ命令ハ執行力アル債務名義ニ代用スト是執行力アル判決正本ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ訓示セラレタルモノナルコト毫モ疑ナシ又理論上ヨリ云フモ檢事ノ執行命令ハ執行文ト同視スヘキモノニアラス何トナレハ執行文ハ債務者ノ申請ニ由リ書記ニ於テ前記ノ正本ハ強制執行ノ爲ニ附與スル旨ヲ正本ノ末尾ニ附記スル迄ニシテ執行スヘシトノ命令ニアラス然ルニ檢事ノ命令ハ刑事訴訟法第三百二十條ニ依リ檢事其責任ヲ以テ執達吏ニ徵收ヲ命令スルモノナレハ執達吏ハ之ヲ遵奉セサルヘカラス是命令其者カ執行力アル判決正本ニ代用スヘキ強大ノ效力ヲ有スル所以ニシテ或ル場合ニハ訴訟費用確定決定ノ效力ヲ兼有セリ又體刑執行ノ場合モ檢事ノ指揮書ハ執行力ヲ有スルヲ以テ別ニ判決正本ノ添付ヲ要セス(明治十五年御省第五號及同年丙第八號達刑法附則第二十三條監獄規則第六條ニ基キ監獄ニ送付スヘキ判決書ハ受刑人ニ對シ執行力ヲ有セシムル爲ニア

ラシキ典獄等ニ知ラシムル爲メナリトス。況ンヤ裁判費用等徴收ノ命令ニ於テオヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ檢事ノ命令ハ執行力アル判決正本ニ代用スヘキ效力ヲ有スルモノナレハ焉ソ判決正本ニ添付スルヲ要センヤ

(乙説)

檢事ノ命令ハ判決ヲ執行スルニ付テノ命令ニシテ執行文タル性質ノモノナレハ判決正本ニ代ルヘキモノニアラス故ニ判決正本ニ添付シテ初メテ民事上完全ナル執行力ヲ有スルモノトス體刑執行ノ場合ハ民事ノ規定ニ依ラサルモ執達吏ヲシテ裁判費用等ヲ徴收セシムル場合ハ民事訴訟法ノ手續ニ從ハサルヘカラス茲ヲ以テ之カ執行ヲ受クル者判決正本ニ由ルニアラサレハ執行ヲ受ケサル旨申立ル場合殊ニ相續人ニ對シ裁判費用ヲ徴收スル場合ノ如キハ執達吏ハ檢事ノ命令ノミニテハ強テ執行ニ著手スルヲ得ス元來執達吏ハ執行文ヲ附記シタル判決正本ニ基クニアラサレハ強制執行ヲ爲ササルヲ正則トス檢事ノ命令ニ依リ執行スルカ如キハ變例ナレハ職務細則ニ所謂執行力アル債務名義ニ代用ストハ執行文ニ代用スルノ意味ナリト狹義ニ解釋スルヲ穩當トス假リニ該細則ハ判決正本ノ添付ヲ要セサルノ趣旨ナリトスルモ尤是一ノ訓令タルニ過キサレハ一般人民ニ對シ強制執行ヲ爲スノ效

カチシ

ノ二説アリ○然ルニ裁判費用等ノ強制執行ハ執達吏職務細則第九十七條ニ掲ケタル檢事ノ命令ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ得而シテ檢事ハ其意ニ從ヒ執達吏ニ動産ノ差押若クハ不動産強制競賣ノ申立ノミヲ命シ又ハ其雙方ヲ併セテ命スルコトヲ得(執達吏規則第三條)從テ執達吏ノ行フヘキ職務ノ範圍ハ檢事ノ命令ノ旨趣ニ依リテ定マルヘク其旨趣分明ナラサルトキハ執達吏ハ檢事ノ指揮ヲ請フヘキモノトス但動産ノ差押ハ其當然ノ機關タル執達吏ニ之ヲ命スルノ外ナシト云ヘトモ強制競賣ノ申立ハ檢事自ラ之ヲ爲シ又ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

(名古屋檢長請訓三〇ノ四ノ七訓令)

(參照)

(一) 刑事法第二百二十條

刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ
罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徴收ス可シ

破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品は檢事之ヲ處分ス可シ

(二) 執達吏規則第三條

執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ

第一 書類物品ノ送付ヲ爲スコト

第二 罰金科料過料ヲ徵收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト

第三 令狀ノ執行ヲ爲スコト

(三) 刑法附則第二十三條

犯人ヲ警察署ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

(四) 監獄則第六條

新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

(五) 明治十五年司法省丙第五號達

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時該書記局ニ於テ速ニ其謄本又ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ此旨相達候事

(六) 明治十五年司法省丙第八號達

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

(七) 執達吏職務細則第九十七條

判決、決定及ヒ命令ヲ以テ科シタル罰金、科料及ヒ過料ノ徵收ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ關スル強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス可シ
右ノ執行ハ裁判所又ハ檢事ノ命令ニ依リ執達吏之ヲ爲ス可キモノニシテ(刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條)此命令ハ執行力アル債務名義ニ代用スルモノトス

此執行ニ關シテ執達吏ノ爲ス可キ手續ハ民事訴訟法ノ強制執行ニ於ケル規定ニ同シ但執行ヲ始ムル前ニ執行文ヲ送達スルコトヲ要セス(本則第四十九條第四號)
執達吏金額ヲ徵收シタルトキハ其受取證ヲ納人ニ交付ス可シ其金額ヲ國庫ニ納入

スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

執達吏ハ右金額ヲ完納シタルトキ又ハ無資力者ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキ(刑法附則第二十條)ハ何レノ場合ニ於テモ其旨ヲ裁判所又ハ検事局ニ報告シ且其犯人管轄ノ區裁判所ニモ之ヲ届出ツ可シ

第四節 追徴金ノ徴收

刑法第二百八十八條及諸規則違犯者ニ對スル追徴金ハ之ヲ納完セサル場合ハ民事裁判官ニ求メ身代限リヲ以テ徴收シ尙ホ不足アルトキハ身代持直シタル時又俟テ追徴スベキハ勿論ナルヘシト雖トモ右追徴ハ被告人ノ一身ニ止メ子孫ニ對シ更ニ徴收スル限リニアラス

(二二一ノ一ノ一七刑甲第九號局長通牒)

(參照)

刑法第二百八十八條

前數條ニ起載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

第五節 證據物件ノ處分

(一) 犯罪ニ關スル證據物件トシテ裁判所又ハ検事局ニ領置シタルモノヲ還付スベキ場合ニ於テ其所有主不分明ナル等ニ因リ之ヲ還付スルコト能ハス其物件次第ニ疊積シテ保管上非常ノ手數ヲ要スルノミナラス之ヲ廢置スベキ場所ニモ差支ヲ生シ事情已ムヲ得サルニ付キ其處分方ニ關スル別段ノ法規ハナキモ左記ノ手續ニ依リ一應其處方ヲ結了シ置クコトニ内定ス

(二二六ノ六ノ二民刑甲第九〇號次官通牒)

- 一 物件還付ノ言渡アリタル事件ニ付テハ其裁判確定ノ日ヨリ又裁判ヲ經サル事件ニ付テハ物件ヲ領置シタル日ヨリ一年間ハ其物件ヲ保管スルコト
- 一 裁判確定又ハ物件領置ノ日ヨリ一年以上ヲ經過シ且到底還付ノ見込ナキ物件ニ付テハ検事局ヨリ新聞紙又ハ揭示等ヲ以テ何裁判所(又ハ何裁判所検事局)ニ於テ刑事ニ關シ領置シタル物件(又ハ金錢)ニシテ所有主不分明ナルモノ有之候條右下渡シテ請フ者ハ其事由ヲ詳記シ何年何月何日マテニ何裁判所検事局へ申出ツヘキ旨ノ公告ヲ爲スコト

但物件下渡請求ノ期限ハ公告ノ日ヨリ三箇月以上タルヘシ

一 物件下渡請求ノ期限内ニ請求者ナキ物件ハ檢事ニ於テ沒收物品取扱ノ手續ニ準シ處分スルコト

(二) 物件處分濟ノ後所有者ヨリ還付等申出候節本人ハ賠償セサルヲ得サル場合アリ故ニ右通牒ニ依リ處分スルモノハ一物件毎ニ評價セシメ賣却スヘシ

〔二六ノ六會檢第四四號通牒〕

(三) 明治十二年內務省番外達ハ犯罪ノ證據品ニハ關係ナキモノニ付キ證據物件ニ付テハ該達ノ規定ニ拘ハラヌ處分スルコトヲ得ヘシ

〔廣島檢長請訓二九ノ二二ノ二六訓令〕

(四) 明治十二年內務省番外達ハ拾遺品等ノ給付方ヲ定メタルモノナリ被告人不分明ノ事件ニシテ其遺去品又ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ保存スル必要アル場合ニ於テハ內務省達ニ依リ其物件ヲ給付シタル後ト雖モ司法警察官ハ其給付ヲ受ケタル者ニ對シ差押又ハ領置ヲ繼續シ司法警察官執務手續第四十二條規定ノ通り公訴ノ事項ヲ經ルマテ之ヲ保存スルコトヲ妨ケサルヘシ尤モ內務省達ニ依リ處分スルトキハ其處分後ハ給付ヲ受ケタル者物件ノ所有主ト爲ルニ付執務手續第四十二條但書末段ノ適

用ハ實際僅少ナルヘシト雖モ右ハ取扱上差支ナキコトナルヲ以テ內務省達ハ消滅シタルモノト解釋スルニ及ハス

〔廣島檢長問二九ノ二〇ノ九局長回〕

(參照)

(明治十二年內務省番外達)

從來盜賊拾遺品等處分方區區相成候所自今別項ニ準シ處分スヘシ爲心得此旨相達候事

但從前指令致置候内本文ト抵觸スル分ハ取消候事

一 賊ノ拾遺品ニシテ一年間事主ナキ者ハ得者ニ給付スヘシ

一 止宿人旅籠賃ヲ拂ハス逃去タル跡ニ殘シ置物品及ヒ湯屋等ニテ換易セラレタル品ニシテ一年間事主知レサル者ハ店主並被換者ヘ給付ス可シ

第十三章 執行ノ停止及猶豫

第一節 執行停止

(一) 刑事ノ辯護人被告人ニ代リ上訴ヲ爲スカ爲メニハ被告人ノ明言シタル意思ニ反スルヲ得サルコトハ刑事訴訟法第二百四十二條ニ明定セラルル所ニシテ毫モ疑義無之ト雖モ若シ辯護人ニ於テ被告人ノ父子兄弟等ノ依頼ニ依リ被告人ノ明言シタル意思即チ上訴セストノ意思ニ反シテ上訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ハ其元來上訴ヲ爲シ得可キ資格ヲ有セサル辯護人ノ爲シタル上訴即チ訴外人ノ上訴ノ爲メ刑ノ執行ヲ停止スル謂ハレナキニ付引續キ執行スルハ勿論普通ノ手續ニ從ヒ該上訴申立書ヲ上訴審ニ送移スルニ及ハサルヤト云フニ〇右ハ被告人ノ意思ニ反シタル上訴ナルモ上訴事件トシテ之レヲ取扱ヒ被告人ニ對スル刑ノ執行モ停止セサルヲ得ス

(佐賀地檢正問二八ノ一〇ノ三局長回)

(參照)

刑事訴訟法第二百四十二條

檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

(二) 刑事訴訟法第二百五十五條第二百七十六條ノ決定ヲ爲ス迄ノ期間又抗告アリタル時抗告審ニ於テ裁判ヲ爲ス迄ノ期間ハ執行ヲ停止スルニ及ハサルコトト爲リ居レ

リ然ルニ若シ抗告ヲ理由アリトシ原決定ヲ取消タル時ハ控訴成立シ萬一無罪判決確定スル時ハ曩ニ執行シタル刑ハ到底回復スルノ道ナキモノニシテ被告カ確定セサル刑ノ執行ヲ受ケタル不幸ハ如何トモ匡正スル能ハサルヘキモ抗告ニ付テハ控訴上告ノ申立アリタル場合ノ如ク法律上執行ヲ停止スルノ明文ナク其執行ヲ停止スヘキ場合ニ於テハ刑事訴訟法第十八條第二百六條第三百八條及第七十四條ノ如ク特別ノ規定アルニ付キ此場合ニ於テハ死刑ヲ除ク外執行ヲ停止スルニ及ハス但控訴上告ノ申立アリテ刑事訴訟法第二百五十五條第二百七十六條ノ決定ヲ爲ス迄ノ期間ハ執行ヲ停止ス可キモノトス

(長崎檢長請訓三〇ノ五ノ一一訓令)

(參照)

刑事訴訟法第二百五十五條

原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百七十六條

原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上告ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對

シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十八條

豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

(第二項以下略)

第一百二十六條

證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

(第二項略)

第一百二十八條

鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコト

ヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第一百七十四條

豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セス

第二節 執行猶豫

第一 執行猶豫ト犯罪檢舉ノ方針トノ關係

刑ノ執行猶豫ニ關スル法律實施セラルルモ從來訓示セル犯罪檢舉ノ方針ハ之カ爲メ何等ノ影響ヲ受ク可キモノニ非ス刑ノ執行猶豫ト二者相俟テ其效用ヲ全フス可キモノナルニ因リ其意ヲ體シ益益良好ナル效果ヲ收メンコトヲ期ス可シ

(二三八ノ四ノ一民刑甲第九〇號訓令)

第二 檢事ノ職務

(一) 檢事ハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

第一條 檢事刑ノ執行猶豫ヲ請求スルハ成ル可ク一定ノ住所ヲ有スル犯人ニ止ム可シ

若シ一定ノ住所ヲ有セサル犯人ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ裁判アリタル場合ニ於テハ、檢事局ハ犯人ヲシテ速ニ其住所ヲ定メ之ヲ届出テシム可シ

第二條 檢事局ハ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ對シ其執行ヲ猶豫セラレタルコト、猶豫期間ノ始期及ヒ終期竝ニ猶豫期間内禁錮以上ノ刑ニ處セラレサルトキハ刑ノ執行ヲ免除セララル可キコトヲ告知ス可シ

第三條 刑ノ執行ヲ猶豫シタル裁判所ノ檢事局ハ犯人ノ氏名、罪名、刑期及ヒ執行ヲ猶豫セラレタルコトヲ所轄警察官署ニ通知ス可シ

若シ犯人其裁判所ノ管轄地外ニ住スルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事局ニ通知シ檢事局ハ更ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ通知ス可シ

第四條 檢事局警察官署ヨリ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人其住所ヲ轉シタルコトノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ通知ス可シ

若シ轉住地其裁判所ノ管轄地外ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事局ニ通知シ檢事局ハ更ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ通知ス可シ

第五條 刑ノ執行ヲ猶豫シタル裁判所ノ檢事局ハ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ付キ三月毎ニ左表ヲ製シ之ヲ當省ニ差出ス可シ

刑ノ執行猶豫表					
執行猶豫ヲ旨シタル裁判所	猶豫犯人氏名	猶豫犯人住所	罪名	刑期	事故
					年月日他ノ地方裁判所管轄内ニ轉住者ハ年月日頃ヨリ行先不明
					年月日死亡
					年月日更ニ禁錮ノ刑ニ處セラレタル爲メ猶豫ヲ取消ス
					年月日猶豫期間満了執行免除

(三八ノ四ノ四民刑甲第八三號訓令)

(二) 刑ノ執行猶豫表ハ其裁判所ニ於テ執行ヲ猶豫シタル犯人中其期間内新ニ執行ヲ猶豫シタル者及ヒ其期間内猶豫表事故欄例示ノ如キ事故ヲ生シタル者ニ付キ三箇月毎ニ作製スヘシ

(千葉檢正問二八ノ四ノ二九民刑甲第一〇九號局長回)

第三 警察官ノ職務

今般法律第七十號ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關シ所轄警察官署ハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 警察官署ハ刑ノ執行猶豫人名簿ヲ備ヘ置キ裁判所檢事局ヨリ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ關シ通知ヲ受ケタルトキハ通知ノ年月日、氏名、年齢、住所、罪名、刑期、猶豫期間、死亡、猶豫ノ取消、執行免除其ノ他必要ナル事項ノ記入ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫人名簿ハ索引ヲ附スヘシ

一 警察官署ハ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル犯人ニ對シ平素視察ヲ加ヘ又犯人猶豫期間内ニ住所ヲ轉シタルトキハ其ノ旨即時所轄檢事局ニ通知シ且名簿寫ヲ轉住地ノ警察官署ニ送附スヘシ

(三二八ノ四ノ四訓第二七四號內務大臣訓令)

第十四章 大赦及特赦

第一節 大赦

(一) 本年勅令第十二號ヲ以テ大赦ノ儀公布相成候ニ付テハ右施行方左ノ手續ニ從フヘシ

大赦施行手續

第一條 本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ヲ犯シタル者ハ既ニ判決ヲ經タルト否トヲ問ハス又既ニ刑ノ執行ヲ終リタルト否トヲ別タス總テ赦免ヲ得ル者トス

第二條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡未タ確定セサル者言渡確定スルモ未タ其執行ニ著手セサル者及ヒ其執行中ニ係ル者ニ對シテハ原裁判所ノ檢察官ヨリ速ニ赦免ヲ得タル旨ヲ通知シ在監中ノ者ハ之ヲ赦免スヘシ

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者若クハ數罪併科セラレタル者又ハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者赦免ヲ得タルニ因リ更ニ赦免ヲ得サル罪ノ刑ヲ執行スヘキトキハ赦免ヲ得タル罪ニ付執行シタル刑ヲ通算ス

若シ數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者ノ裁判言渡ニ疑點(裁判官言渡中赦免ヲ得タル罪ノ即ニ付テハ之ヲ)アルトキハ檢察官ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヘ其説明ヲ請フ可シ

第四條 赦免ヲ得ヘキ囚人原裁判所ノ管轄地外ノ監獄ニ在ルトキハ典獄ヨリ最近ノ

始審裁判所(本廳又ハ支廳)檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ第二條ノ處分ヲ爲スヘシ若其囚人ノ裁判言渡ニ付原裁判所ノ説明又ハ訴訟書類ノ取調ヲ要シ直ニ處分ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ其事件ヲ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官第二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ

第五條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付監視又ハ特別監視執行中ニ係ル者ハ執行地ノ警察官ヨリ原裁判所ノ檢察官ニ通知スヘシ若シ其執行地原裁判所ノ管轄地外ニ係ルトキハ最近ノ始審裁判所(本廳又ハ支廳)檢察官ニ通知スヘシ

通知ヲ受ケタル檢察官ハ監視又ハ特別監視ヲ免スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付豫審又ハ公判中ニ係ル事件ニ付テハ檢察官(上訴中ノ事件訴ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官)ヨリ公訴ヲ拋棄スルノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既ニ其執行ヲ終リタル者ヨリ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ請フトキハ檢察官ニ於テ事實ヲ精査シ證明ヲ與フヘシ

第八條 勅令第十二號第二條第十九項第二段及第二十項第二段ニ記載シタル犯罪

ニ付テハ檢察官ニ於テ發行シタル新聞紙又ハ出版シタル文書圖書ノ性質其他裁判言渡ニ認メタル事實ニ因リ政治ニ關スル意思ニ出テタル者ナルト否トヲ査定スヘシ

第九條 大赦ノ施行ニ付疑ヒアルトキハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ具狀シテ指揮ヲ乞フヘシ

第十條 大赦ノ施行ニ關スル處分ハ檢察官ヨリ速ニ司法大臣ニ報告スヘシ
(二二ノ二訓令第三號)

(參照)

憲法發布大赦令(明治二十二年二月十二日勅令第十二號)

第一條 本令發布以前ニ於テ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第一百七條第十九條ノ罪

二 刑法第二百一一條第三百二十三條第三百二十五條第三百二十六條第三百二十七條ノ罪

三 刑法第二百二十九條第三百十條第三百十一條第三百十二條第三百十三條第三百十四條ノ罪

- 四 刑法第三百二十六條第三百二十七條第三百二十八條ノ罪
- 五 刑法第四百一十一條ノ罪
- 六 陸軍刑法第五十條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條ノ罪
- 七 陸軍刑法第六十六條第六十七條ノ罪
- 八 陸軍刑法第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 九 陸軍刑法第九十三條第九十四條ノ罪
- 十 陸軍刑法第九條第十條ノ罪
- 十一 海軍刑法第五十六條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條ノ罪
- 十二 海軍刑法第八十六條第八十七條ノ罪
- 十三 海軍刑法第一百條ノ罪
- 十四 海軍刑法第一百十條第一百十一條ノ罪

- 十五 海軍刑法第二百二十六條ノ罪
- 十六 保安條例ノ罪
- 十七 集會條例ノ罪
- 十八 治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ爆發物取締罰則ヲ犯ス罪
- 十九 新聞紙條例第二十一條第二十二條ニ違ヒ第三十條第三十一條ニ該ル罪及ヒ第三十二條ヲ犯ス罪但第三十條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル新聞紙ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
- 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第一條第三條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十九條ニ該ル罪
- 二十 出版條例第十六條第十七條第十八條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪及ヒ第二十四條ヲ犯ス罪但第二十七條ニ該ル者ノ内風俗ヲ壞亂スルカ爲メ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者ハ赦免セス
- 政治ニ關スル意思ヲ以テ同條例第三條ニ違ヒ第二十一條ニ該ル罪第六條第七條ニ違ヒ第二十二條第二十三條ニ該ル罪及ヒ第十五條第十九條第二十條ニ違ヒ第二十七條ニ該ル罪

第二條 舊法ニ依リ處斷セラレタル罪ト雖モ其性質前條ニ記載シタル罪ト同一ナル者ハ之ヲ赦免ス

第三條 數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪赦免ヲ得タル場合ト雖モ他ノ罪ニ其效ヲ及ホサス

第四條 赦免ヲ得ルト雖モ既ニ徵收シタル罰金科料及ヒ沒收シタル物件ハ還付セ

第五條 陸軍大臣海軍大臣司法大臣ハ本令ノ施行ニ關シ必要ノ指揮ヲ爲ス可シ

(二) 本年勅令第十二號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受テ已ニ其執行ヲ終リタル者ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ント欲スルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ申出ツヘシ但明治十四年以前司法省佐賀萩九州其他ノ臨時裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケタル者ハ大審院檢察長ニ申出ツヘシ
(三) 二告示第二號

第二節 減刑

明治三十年勅令第七號減刑令發布以前ノ受刑者ニシテ發布ノ當時既ニ逃走シ刑ノ執行

ヲ遁レ居ル者ト雖モ同勅令ノ恩典ニ浴スルコトヲ得ヘシ

(宮城典獄問三四ノ五ノ二ニ民刑甲第九一號局長回)

(參照)

明治三十年勅令第七號

第一條 本令發布以前ニ於テ確定判決ヲ受ケタル囚徒ニシテ其ノ執行前又ハ執行

中ニ係ル者ハ左ノ例ニ照シテ其ノ刑ヲ減輕ス

一 死刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ其ノ罪質ニ從ヒ無期徒刑又ハ無期流刑トス

二 無期徒刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ有期徒刑十五年トシ無期流刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ有期徒刑十五年トス

三 有期ノ刑ノ判決ヲ受ケタル者ハ其ノ刑期四分ノ一ヲ減ス但シ減輕シタル刑期法律ニ定メタル刑期ノ範圍内ニ在ラサルトキハ次等ノ刑ノ長期トス

第二條 前條第三ニ依リ其ノ刑ヲ減輕シタルカ爲其ノ本刑ノ短期以下ニ下ルトキハ其ノ刑名ハ左ノ例ニ依ル

一 有期徒刑ノ短期以下ニ下ルトキハ重懲役トシ有期徒刑ノ短期以下ニ下ルトキハ重禁獄トス

- 二 重懲役ノ短期以下ニ下ルトキハ輕懲役トシ重禁獄ノ短期以下ニ下ルトキハ輕禁獄トス
- 三 輕懲役ノ短期以下ニ下ルトキハ重禁錮トシ輕禁獄ノ短期以下ニ下ルトキハ輕禁錮トス
- 四 重禁錮又ハ輕禁錮ノ短期以下ニ下ルトキハ拘留トス但シ陸軍刑法海軍刑法ニ依リ處斷セラレタル者ハ其罪質ニ從ヒ仍重禁錮又ハ輕禁錮トス
- 第三條 舊法ニ依リ處斷セラレタル者ハ各其ノ減等ノ例ニ從ヒ一等ヲ減ス
明治十七年第一號布告賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者モ亦其ノ懲罰期四分ノ一ヲ減ス
- 第四條 本令ノ減輕ハ附加刑ニ其ノ效ヲ及ボサス
- 第五條 本令ニ依リ減刑セラレタル者ハ其ノ刑名ニ拘ラス尙現在ノ監獄ニ拘禁ス
- 第六條 北海道集治監ニ拘禁スル囚徒ニシテ本令ノ減刑ニ依リ直ニ放免セララルヘキ者ハ其ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル府縣ニ護送シ減刑ヲ爲ス

第三節 特赦

第一 特赦ヲ上奏スル場合

- (一) 死刑以外ノ刑ニ處セラレタル者ニ付キ左ニ掲クル事由アルトキハ減刑若クハ特赦ヲ上奏ス
 - 一 判決言渡ノ後施行セラレタル法令ニ依レハ行爲カ罰ス可キモノニアラサルコト又ハ言渡サレタル刑ヨリ輕キ刑ヲ科ス可キモノナルコト
 - 二 判決言渡ノ後上告審ノ判例ニ變更アリテ新判例ノ趣旨ニ依レハ行爲カ罰ス可キモノニアラサルコト又ハ言渡サレタル刑ヨリ輕キ刑ヲ科ス可キモノナルコト
 - 三 本人カ他ノ共犯ト同シク無罪ノ言渡、免訴ノ言渡其他利益ナル判決ヲ受ク可キ事由アル場合ニ於テ同時ニ確定判決ヲ受ケサリシニ因リ他ノ共犯カ其利益ヲ受ケタルニ拘ラス之ヲ受ケサリシコト
- (二) 自由刑ニ處セラレタル者精神病ニ罹リ又ハ老衰シテ行刑ノ本旨ヲ解セサルニ至リタルトキハ特赦ヲ上奏ス
- (三) 自由刑ニ處セラレ改悛ノ狀顯著ナル者ノ情狀憫諒ス可キトキハ減刑若クハ特

赦ヲ上奏ス

本條ニ依ル特赦ハ無期刑ニ處セラレタル者ニ付キテハ十二年、有期刑ニ處セラレタル者ニ付キテハ其刑期三分ノ二ヲ經過シタル後ニ於テ之ヲ上奏ス

(四) 滿一歳以下ノ幼兒ヲ謀殺又ハ故殺シタル罪ニ因リ有期自由刑ニ處セラレ改悛ノ狀顯著ナル者ノ情狀憫諒ス可キトキハ其刑期三年ヲ經過シタル後ニ於テ特赦ヲ上奏セス

(五) 自由刑ヲ科ス可キ數罪俱發スル場合ニ於テハ憫諒ス可キ情狀ナキ最重ノ罪ニ付キ科ス可キ刑期ヲ下ラサル限度ニ於テ減刑若クハ特赦ヲ上奏ス

(六) 左ニ記載シタル者ニ對シテハ内規第三條及ヒ第四條ニ依ル減刑若クハ特赦ヲ上奏セス

一、信用ヲ害スル罪竊盜ノ罪、強盜ノ罪、詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪、贓物ニ關スル罪ニ因リ刑ニ處セラレタル者

二、減刑若クハ特赦セラレタル者

(三七ノ八ノ二〇民刑甲第二〇四號訓令第一條乃至第六條)

(七) 右(一)乃至(五)ニ揚ケタル者(2)生命刑財産刑ニ處セラレタル者(3)或ル一種

ノ規準ニ規定シタル情狀以外ノ憫諒ス可キ情狀アル者(4)特赦ノ上奏ヲ爲スニ付キテ必要ナル年限内刑ノ執行ヲ爲スニ至ラサル者其他ノ者ニ對シテハ自ラ内規第三條及第四條ニ依ル減刑若クハ特赦ヲ上奏セラレサルコトニ歸著スルカ如シト雖モ此等ノ者ニ付キテモ特ニ重大ナル事情アル場合ニ於テハ減刑若クハ特赦ノ上奏セラレ可キハ論ナキトコロニシテ只特ニ重大ナル事情アルヤ否ヤ各個ノ事件ニ付キ個別ニ決定セラレントスルノ趣旨ニ外ナラス故ニ苟モ特ニ重大ナル事情アリト思料セラレタル者ニ對シテハ進テ減刑又ハ特赦ヲ申立テラレ候様致度尤此場合ニ於テハ申立ヲ爲ス以前ニ於テ判決謄本其他必要ナル書類ノミヲ呈出シ本省ノ内議ヲ求メラレ候方便宜ナリトス

(三七ノ八ノ二〇民刑甲第二〇四號次官通牒)

第二 特赦ノ上奏ニ必要ナル書類

(一) 減刑若クハ特赦ノ上奏ヲ爲スニハ刑事訴訟法ニ規定シタル書類ノ外左ノ書類ヲ添附ス

一 減刑若クハ特赦ノ申立書

一 最終ニ犯罪事實ヲ認定シテ刑ヲ言渡シタル判決ノ謄本及ヒ上告裁判所ニ於テ

刑ヲ言渡シタルトキハ其判決ノ謄本

三 入監者ニ關スルトキハ典獄ノ作成シタル行狀錄又ハ其謄本

四 戶籍ノ謄本

五 自由刑ニ處セラレタル者ニ關スルトキハ檢事カ訴訟書類ヲ檢閲シテ作成又ハ
認證シタル刑期計算書

第一條又ハ第二條ニ依リ減刑若クハ特赦ノ上奏ヲ爲スニハ尙ホ各條項ニ記載シタル事由アルコトヲ證明ス可キ書類ヲ添附シ行狀錄ヲ添附セス

(二) 刑事訴訟法ニ規定シタル檢事ノ意見書ハ最終ニ犯罪事實ヲ認定シテ刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ノ作成シタルモノナルコトヲ要ス

〔三七ノ八ノ二〇民刑甲第二〇四號訓令第七、八條〕

第三 特赦ノ申立書ノ記載

(一) 特赦申立ノ書類ハ御前へ進奏スルモノナルニ付キ最モ慎重ノ取扱ヲ要スル儀ニ候處右書類中或ハ文字ヲ誤脱スルモノアリ字畫整正ナラサルモノアリ或ハ甲書面ト乙書面ト齟齬スルモノアリ甚シキニ至リテハ特赦申立ノ理由ト事實ト適合セサルモノアリ其失體少カラス候條自今特赦申立書ニハ再犯ノ虞ナキコト自活ニ差

支ナキコト等特赦ノ結果ニ必要ナル事實ヲ詳記シ囚人ノ行狀錄等ニ至ル迄完全ニ調製シ若シ止ムコトヲ得ス文字ノ變更増減ヲ爲シタルトキハ訴訟書類ノ例ニ倣ヒ其變更増減ヲ表示シ前項ノ如キ不都合ナキ様注意スヘシ

〔二五ノ一ノ二一參刑第四〇六號訓令〕

(二) 申立書ハ前科又ハ俱發罪アル者ナルトキハ罪名、刑名、判決ヲ爲シタル裁判所及ヒ年月日ヲ記載シ前ニ減刑若クハ特赦セラレタル者ナルトキハ其旨ヲ記載シ在監者ナルトキハ出獄後引受人ノ有無ヲ記載シ其他必要ト思料スル事項ヲ明記シタルモノナルコトヲ要ス

(三) 行狀錄ハ左ニ記載シタル事項ヲ明確ニシタルモノナルコトヲ要ス

一 作業ノ種様、作業ノ勉否及ヒ現有ノ工錢額

二 親族又ハ故舊ニ關スル思念ノ有無

三 獄内ニ於ケル賞罰ノ有無及ヒ其事由

四 累犯ノ虞ノ有無ニ關スル判定

(四) 刑期計算書ハ左ニ記載シタル事項ヲ明確ニシタルモノナルコトヲ要ス

一 各審級ニ於ケル判決言渡ノ年月日、控訴豫納金免除ノ請求ヲ棄却セラレタル

者ニ付キテハ請求棄却ノ決定アリタル年月日、上訴ヲ取下ケタル者ニ付キテハ其取下受理ノ年月日

二 通算シテ執行シタルトキハ其事由及ヒ日數

三 刑ノ始期及ヒ終期

(五) 減刑若クハ特赦ノ申立又ハ上奏ニ關シ作成シタル書類ニハ作成又ハ謄寫ノ年月日竝ニ作成者又ハ謄寫者ノ官氏名ノ記載及ヒ捺印アルコトヲ要ス

(六) 減刑若クハ特赦ノ上奏ハ一人毎ニ之ヲ爲ス減刑若クハ特赦ノ申立ニ付キテセ亦同シ但同一罪ノ共犯ニ付キテハ此限ニ在ラス

同一罪ノ共犯中一人又ハ數人ニ付キ減刑若クハ特赦ノ上奏ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ共犯ニ付キ上奏ヲ爲ササル理由ヲ附記ス

減刑又ハ特赦ノ申立書ハ前項ニ記載シタル理由ヲ附記シタルモノナルコトヲ要ス但申立書ニ附記アル場合ニ於テハ上奏書ニハ之ヲ附記セス

(七) 減刑若クハ特赦ノ申立又ハ上奏ヲ爲スニ付キ添附ス可キ書類ニシテ司法省、裁判所、監獄ノ官吏ノ作成ス可キモノハ左ニ記載シタル事項ニ違背セサルコトヲ要ス

一 記載ハ詳密ニシテ文章ハ謹嚴ナルコト

二 文字ハ楷書ニシテ略字、脱字、誤字、抹消又ハ挿入シタル文字ナキコト但略字、脱字、誤字アルトキハ發見者ニ於テ其誤謬ナル旨ヲ附記スルコト

三 減刑若クハ特赦ヲ申立テラレタル者ノ本籍、身分、氏名又ハ年齢ノ記載カ戸籍ノ記載ト異ナラサルコト但戸籍ノ記載ト異ナリタル記載アルトキハ發見者ニ於テ其誤謬ナル旨ヲ附記スルコト

四 書類ノ用紙ハ精良ナル美濃紙トシ成ル可ク同質ナルコト
(二七ノ八ノ二〇民刑甲第二〇四號訓令第九條乃至第十四條)

第四 特赦申立書ノ差出方

第二審裁判所カ有罪ノ判決ニ對スル控訴ヲ棄却シタル場合ニ於テ刑事訴訟法第三百二條第三百四條第三百二十條第三百二十二條及ヒ第三百三十一條等ノ所謂刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所及ヒ原裁判所ハ第二審裁判所ナルカ將タ第一審裁判所ナルカハ學說區區甲ハ第二審ニ於ケル棄却ノ判決ハ第一審判決ノ確定力ヲ與フルニ過キスシテ更ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノニ非サレハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ハ第一審ナリト説キ乙ハ棄却ノ判決ハ更ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルト一般ナレハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁

判所ハ第二審ナリト唱へ丙ハ第二審ニ於ケル棄却ノ理由控訴手續ノ違法ニ基クトキ
ハ第一審裁判所ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニシテ事實ヲ覆審シ棄却シタルトキハ
第二審裁判所ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ナリト曰ヒ更ニ一定スル所無ク實際上ノ
取扱モ亦區區タルヲ免レサルカ如シ○此場合ニ於テハ控訴ヲ不合法トシテ棄却スル
場合ヲ除外刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所及原裁判所ヲ以テ第二審裁判所トス故ニ自
今特赦申立ハ第二審裁判所ノ檢事ヲ經由スヘキモノトス

〔大阪檢長三六ノ七ノ一三訓令〕

第五 特赦ノ執行報告

檢事カ減輕若クハ特赦ノ執行ヲ爲シ又ハ典獄以外ノ者ヲシテ執行ヲ爲サシメタルト
キハ執行ノ日時ヲ明記シテ速ニ其旨ヲ報告スヘシ

〔三七ノ六ノ二五司法省民刑甲第二〇五號大臣訓令〕

第二編 違警罪即決例

第一 期間ノ計算

違警罪即決例中間ノ計算方ニ關スル特別ノ規定ナキニ付キ同例第五條ノ期間ヲ計
算スルニハ刑事訴訟法第十五條ノ例ニ準シ言渡又ハ言渡書送達ノ日ヲ算入セス從テ
第十條ノ場合ニ於テモ第五條ト同一ノ期間内留置スルコトヲ得然レトモ第十條但書
ノ場合ニ於テ留置日數ヲ計算スルニハ其留置ノ日ヨリ起算スヘシ但警察署ハ無休暇
ノ官署ナルヲ以テ刑事訴訟法第十五條中若シ最終ノ日云云以下ノ規定ハ違警罪即決
ニ關シ之ヲ準用スヘキ場合ナキモノトス

〔岐阜檢正請訓三〇ノ一ノ八訓令〕

(参照)

(一) 違警罪即決例第五條

正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ
但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ
於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第十條

拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

(二) 刑訴法第十五條

此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラス但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第二 言渡ノ效力

違警罪即決言渡ヲ爲シタル後ハ錯誤アルモ警察官ニ於テ其言渡ヲ變更シ又ハ取消スルコトヲ得ス

(佐賀縣知事問二八ノ一ノ二九局長回)

第三 刑ノ執行

(一) 違警罪即決例ニヨリ被告缺席ノ儘拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合刑ノ執行方ニ關シ

(一) 警察署ヨリ其執行ヲ檢事ニ囑託シ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スヘシ是レ檢事ニ在テハ他廳檢事ヨリ囑託ヲ受ケタル場合ト同一ニ取扱フニ於テ差支ナケレハ也

(二) 警察署長ハ巡查ニ命シテ令狀ヲ帶行スルコトナク直ニ被告ヲ逮捕セシムヘシ蓋法律ニ於テ規定スル所ノ裁判ニシテ執行シ得ヘカラサルカ如キモノアルヘキ筈ナク而シテ即決例ハ元ト變則ノモノナレハ其結果ニ於テモ亦自ラ多少ノ變例ヲ生スヘキハ當然ナレハ也

(三) 警察署ヨリ逮捕狀發付ヲ檢事ニ請求スヘシ是レ刑ノ執行權ハ檢事獨リ之ヲ有シ而シテ警察官ノ檢事ニ於ル關係ハ右ノ請求ヲ容ルルニ足レハ也

ノ三說アリ右ハ言渡書ノ正本ヲ示シテ引致スヘキモノトス

(盛岡檢正二一ノ八ノ二民刑甲第一四六號訓令)
(二) 留置ハ警察署ニ留置スルヲ正則トスレトモ便宜監獄署ニ留置スルトキハ警察署ハ監獄署ニ對シ指揮ヲ用キスシテ囑託ヲ爲シ隨テ戒護及ヒ書類ノ送達ハ監獄署其實ニ任スヘシ

(岐阜檢正請訓三〇ノ一ノ八訓令)

(參照)

違警罪即決例第八條

科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條

科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條

拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日內ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第四 正式裁判ノ請求アリタル場合ニ於ケル取扱方

一 假納金ノ取扱方

(一) 違警罪即決例ニ依リ警察署長又ハ分署長ニ於テ被告人ニ對シ拘留科料ノ言渡

ヲ爲シタルトキ同例第八條第十條ノ規定ニ據リ科料金ヲ假納セシメ又ハ刑期相當(拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合)ノ金額ヲ保證トシテ差出サシメタル後被告人正式裁判ヲ請求シタル時ハ右假納金又ハ保證金ハ從來ノ慣例トシテ警察署ニ領置シ訴訟書類ノミ檢事ニ送付シ來リ候處被告人正式裁判ヲ請求シ其事件裁判所ニ移リタルトキハ該金額モ訴訟書類ト共ニ檢事ヘ送付スルヲ至當トス

(警視總監伺二七ノ九ノ二七訓令)

(二) 即決例第九條假納金ハ直ニ歳入ノ取扱ヲナスヘシトノミ其理由ハ素ヨリ知悉スルヲ得サルニ付未確定ナル假納金ヲ歳入ニ取扱フノ是非ハ姑ク措クトスルモ茲ニ科料ノ即決言渡ヲ受ケタルモノ一旦假納金ヲ納付シタル上限內正式裁判ヲ請求シ正式裁判所ハ更ニ同額若クハ差額アル科料ニ處スルカ將タ無罪ヲ言渡シタリトセンニ此場合ニ於テ裁判所ハ其判決ノ執行ヲ如何セハ可ナルヘキヤト云フニ正式裁判ニ於テ言渡シタル科料額假納金ト同額ナルカ又ハ假納金ヨリ少額ナルトキハ其假納ヲ以テ執行ヲ了シタルモノトス若シ其科料額假納金ヨリ多額ナルトキハ唯タ其差額ノミヲ徴收シ無罪ノ言渡ナルトキハ別段ノ手續ヲ爲スニ及ハス但科料額假納金ヨリ少額ナルトキ又ハ無罪ノ言渡ナルトキハ被告人ハ

疑ニ假納金ヲ納付シタル警察署ニ對シ其下戻ヲ請求スルコトヲ得可シ

(大阪檢正照會二九ノ五ノ二七局長回)

(三) 違警罪即決例第十二條ニ留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ留置ヲ解クヘシトアルモ假納金及保證金ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ正式裁判ノ請求アリタルカ爲メ之ヲ本人ニ還付スルハ適當ナラス而シテ正式裁判ノ請求ニ因リ其事件裁判所ニ移ル以上ハ該金圓モ事件ト共ニ送致スル方當然ナリ又右假納金保證金ノ保管方ハ保管證書ヲ以テ引繼來リタルトキハ保管物取扱順序第二章ニ依リ、領收證書又ハ現金ヲ以テ引繼來リタルトキハ同上第三章ニ依リ保管スヘシ

(大阪檢正照會二八ノ一一ノ二五局長回)

(保管物取扱順序略)

二 保證金ノ取扱方

違警罪即決例ニ依リ差出サシメタル保證金ハ後日正式ノ判決確定シ被告人出廷セサル場合ニ於テハ之ヲ以テ本刑ニ換フルモ差支ナシ

(横濱區檢問二九ノ二ノ七局長回)

三 時効ノ中斷

即決言渡ニ對シ正式裁判ヲ請求シタル事件ノ時効ハ正式裁判ノ爲メ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發シタルトキヲ以テ中斷セラルヘシ

(奈良檢正問三三ノ五ノ三二民刑甲第一一七號局長回)

四 檢事ノ起訴

(一) 違警罪即決言渡ニ對シ正式裁判ヲ請求シタルトキハ公訴ハ其正式裁判ヲ請求シタルトキニ於テ成立スヘキモノナルヲ以テ其書類ノ送致ヲ受ケタル檢事ハ單ニ裁判所ヘ書類ヲ送付スルノミニテ別段起訴ノ手續ヲ爲スニ及ハサルヘシ

(奈良檢正問三三ノ五ノ三二民刑甲第一一七號局長回)

(二) 警察署ニ於テ即決シタル違警罪事件ニ付正式ヲ求メタル時區裁判所檢事其事件ヲ罪トナラスト思料シタル時ハ不起訴ノ處分ヲ爲シ得可キヤ否ニ付

(甲說)

警察官ニ於テ爲シタル即決處分ハ裁判ニアラス一ノ便宜處分ナルヲ以テ之ニ對シ正式ヲ仰キタル時ハ區裁判所ノ檢事ハ其事件ヲ始メテ公訴シタルモノナリ故ニ若シ其ノ事件罪トナラス又ハ公訴受理ス可ラサルモノト見込時ハ不起

訴ノ手續ニ歸スルモ自由ナリ

(乙説)

警察官ノ違警罪即決ニ於ル便宜處分タルニハ相違ナキモ要スルニ一ノ裁判ナリ故ニ若之ヲ不服トシ正式ヲ仰カントスルモノハ其申立書ハ所轄區裁判所判事ニ宛テ提出スルノ規定ナリ然ラハ即判事ニ宛テ正式申立タルモノヲシテ檢事カ假令其事件罪トナラスト思料スルモ其儘該書類ヲ裁判所ヘ回付セザルハ不當ナリ故ニ起訴ハ既ニ警察署ニ於テ即決ノ時アリタルモノニシテ正式裁判請求ハ一ノ上訴ト見做シテ可ナリ

ノ兩説アルモ違警罪即決言渡ハ刑事訴訟法ニ謂フ所ノ起訴ノ效ヲ有セスト雖モ違警罪即決例第三條ニ即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得トアリテ裁判所ハ其請求ニ因リ當然事件ヲ受クヘキモノナルニ付檢事ニ於テ其事件罪トナラス又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料スル場合ト雖モ正式裁判ノ請求アリタル事件ニ付テハ不起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

(前橋檢正問二八ノ七ノ二三局長回)

(參照)

違警罪即決例第三條

即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

五 裁判言渡書ノ謄本作成費用

明治十五年三月當省丙第十二號ヲ以テ違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スヘキ費用ハ當分徴收スヘカラサル旨相違置候處本年九月第三十一號ヲ以テ違警罪即決例公布相成候ニ付テ自今該裁判ノ正式ニ係ハルモノハ該費用ヲ徴收シ其即決ニ係ハルモノハ從前ノ通取計フヘシ

(明治一八ノ一二達丙第一一號)

(參照)

明治十五年三月司法省丙第十二號達

明治十四年十二月當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限リ徴收セサル様取計ヘシ此旨相違候事

第三編 軍法會議

(一) 本年十二號布告第四條ニ依リ軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルトキハ主理其辨明
書ヲ作リ訴訟書類ヲ添ヘ所管長官ヲ經テ大審院ニ送致スヘシ

(二八ノ一〇海丙達第五一號)

(參照)

明治十八年第十二號布告第四條

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本
則ニ抵觸スルモノハ當分施行セス

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言

渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會
議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

(第一、二、三、五、六條略)

(二) 臺灣ニ設ケアル臨時陸軍軍法會議ニ於テハ常人ノ普通犯罪モ處分スル趣ナリ
〔宮崎檢正問二八ノ一一ノ二七局長回〕

(三) 戰地又ハ戰地ヘ向ケ行進途中ニ在ル陸軍軍法會議ニ於テ處斷セラレ監獄ニ收監
セラレタル者罰金ヲ禁錮ニ換フルノ言渡ヲ受ケタル後其罰金ヲ納ムルトキハ左記各
號ノ通取計フヘシ

一 罰金ヲ納メタル場合ニ於テ禁錮ヲ免スルノ處分ハ典獄ニ於テ之ヲ爲ス事

一 其納メタル罰金ハ監獄ニ於テ收入ノ手續ヲ爲ス事

一 罰金收入ノ手續ヲ終リタルトキハ其都度當該軍法會議ニ通報スル事

(三八ノ三ノ一五司法省監丙第九八號訓令)

第四編 雜

第一 休暇日

十二月二十九日ヨリ三十一日マテハ明治六年太政官第二號布告ヲ以テ休暇日ト定メ
ラレタルモノナルニ付キ刑事訴訟法第十五條ノ休暇日ニ包含ス

171

(青森縣知事伺二九ノ三ノ九訓令)

(參照)

(一) 刑訴法第十五條

此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル

172

モノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラス但時
效ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ
曆ニ從フ

(二) 明治六年太政官布告第二號

自今休暇左ノ通被定候事

173

一月一日ヨリ三日迄、六月二十八日ヨリ三十日迄、十二月二十九日ヨリ三十一
日迄

毎月休暇是迄ノ通(但大ノ月三十一日ハ休暇ニ非ス)

第二 豫審判事ノ資格

豫審判事カ檢事代理ニテ豫審ヲ求メ引續キ代理中事情止ムヲ得サル場合ニ於テハ同
判事ニテ同事件ノ豫審ニ著手取扱テ差支ナシ

174

(西郷區檢事代理判事間三二ノ四ノ一八民刑甲第八六號局長伺)

第三 記録調製

刑事訴訟記録往々浩瀚ニ涉リ取扱上其不便利尠ナカラス右ハ事件ノ性質審理ノ模
様ニ依リ一概ニ論斷スルコトヲ得サルモ法律ノ許ス範圍内ニ於テ可成之ヲ簡約ナラ
シムル方法ヲ採リ實際ノ利便ヲ圖ルコトニ注意アリタシ

175

(三三ノ八ノ一七民刑甲第七四號總務長官通牒)

第四 判決ノ正本、謄抄本ノ請求

一 檢事ヨリ請求アリタル場合

(一) 檢事ハ刑事判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナリヤ否

176

ヤト云フニ檢事ハ之ヲ請求スルコト能ハサルヘシ

(理由) 刑事訴訟法ニ於テハ其第二百六條ニ訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得ル旨及ヒ同第二百二十八條ニ於テ缺席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ缺席者ニ送達スヘキコトヲ規定シアルノミニシテ他ニ之ニ關スル規定アルヲ見ス而シテ第二百二十八條ニ檢事其他訴訟關係人云トアリテ第二百六條ニハ檢事ノ二字ヲ冠セス單ニ訴訟關係人云トシ尙且其費用云云ノ文字アルヲ以テ本條中ニハ檢事ヲ包含セサルコト明ナラン又事實上ニ於テモ檢事局ニ於テハ訴訟記録及ヒ判決原本等保存シアルヲ以テ故ラ之カ正本、謄本ヲ求ムルノ要ナカルヘシ良シ裁判所ヨリ記録送附前ニ於テ其必要ヲ生スルコトアリトスルモ判決原本ノ送付ヲ求メ得ヘキヲ以テ特ニ正本、謄本ヲ求ムヘキ要ナシ

ト云フモノアルモ右ハ檢事ヨリ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

(千葉地長問三二ノ一〇ノ二民刑甲第三三二號局長回)

(參照)

刑事訴訟法第二百六條

訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時間内ニ之ヲ下付ス可シ 177

第二百二十八條

缺席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ缺席者ニ送達ス可シ

缺席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得

(二) 檢事ヨリ判決書ノ抄本ヲ以テ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ニ於ケル抄本ハ檢事局專屬書記ニ於テ作成スルモノノ如キモ右ハ裁判所ノ書記ニ於テ作成スヘキモノナルヘシ 178

(千葉地長問三二ノ一〇ノ二民刑甲第三三二號局長回)

二 訴訟關係人ヨリ請求アリタル場合

(一) 判決確定シ既ニ訴訟記録檢事局へ送致ノ後ト雖モ訴訟關係人ヨリ判決ノ正本、謄本等請求アリタル場合ニ於テハ裁判所ノ書記ニ於テ之ヲ作成シ下付スヘキモノナリ 179

(千葉地長問三二ノ一〇ノ二民刑甲第三三二號局長回)

(二) 刑事判決確定シ已ニ一件記録檢事局へ送致ノ後訴訟關係人ヨリ判決(上告非) 180

常上管再審訴ノノ正本又ハ謄本等請求シタル場合ニ於テハ
判決等皆包含ス

(甲說)

現ニ記録保存ノ任ニ在ル檢事局ノ書記ニ於テ之ヲ作り下付ス可キハ當然ナル
カ如シ

(乙說)

記録送致後ト雖モ猶ホ裁判所ノ書記ニ於テ右請求アリタル都度記録ヲ檢事局
ニ要求シ其正本、謄本等ヲ作り下付ス可キモノナリ
トノ兩說アルモ乙說ノ通リトス

(秋田地長問二九ノ二ノ七局長回)

(三) 刑事訴訟法第二百六條ニ基キ訴訟關係人ヨリ納ムル費用ハ明治二十四年勅
令第二百四十五號ニヨリ本年四月一日ヨリ登記印紙ヲ以テ納メシム可シ但納附
手續ハ書類下附ノ節該領收證ニ相當ノ印紙ヲ貼附セシムヘシ
(二五ノ二ノ二九參刑甲第七二號訓令)

(參照)

刑事訴訟法第二百六條

訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ
爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時間内ニ之ヲ下付ス可シ

第五 公判始末書ノ正本、謄抄本ノ下付

民事訴訟上必要ノ趣ヲ以テ刑事附帶私訴ニ關スル公判始末書ノ抄本ヲ請求スルモノ
アリタルトキ右下付ニ付キ

(甲說) 民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ私訴ニ關スル部分ノ三抄本ヲ下付スルコトヲ得
私訴ハ元來民事ノ訴訟ナルニ依リ其訴訟手續ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキハ
其原則ナリ然ルニ公訴ニ附帶シテ刑事訴訟法ノ規定ニ從フハ一ノ例外ナリ故ニ
其例外法ニ規定ナキモノニ付テハ原則ニ據ラサルヘカラス故ニ民事訴訟法第二
百二十四條ニ依リ其抄本ヲ下付スヘキモノトス但公訴ニ關スル部分ハ付與スヘ
キモノニアラサレハ其正本、謄本ヲ付與スヘカラサルモノトス

(乙說) 下付スヘキモノニ在ラス

公訴私訴ノ審理ハ一箇ノ公判始末書ニ記載スヘキモノニシテ而シテ始末書ハ其
正本、謄本、抄本ヲ付與スヘキモノニアラス即チ刑事訴訟法ニ於テハ第二百六條
ノ判決ノ正本等ヲ求ムルノ外第九十七條アルノミ其他民事訴訟法ノ規定ヲ準用

スヘキハ第十九條ニ限定シアル迄ニテ始末書ノ如キ前條ノ範圍外ナレハ付與スヘキモノニアラスト信ス假リニ一步ヲ讓リテ下付スヘキモノトスルモ公訴ニ關スル部分ヲ參照スルニアラサレハ事實ノ顛末ヲ知ル能ハサルヘク且當事者ニ於テ民事訴訟上始末書ヲ利用スルノ必要アラハ民事裁判所ニ書類取寄ノ申請ヲ爲スモ可ナラン

(丙説) 公判始末書ハ正本、謄本、抄本タルヲ問ハス下付スヘキモノトス
公判始末書ハ其正本、謄本、抄本タルヲ問ハス總テ下付スヘキモノトス
第一、禁止スヘキ理ナシ

公判ハ通常公行スルモノナレハ之カ始末書ハ秘密ヲ要スル理由ナシ若シ之ヲ下付スヘカラサルモノトセンカ訴訟關係人ノ便宜ヲ害シテ徒ニ事ヲ秘密ニシ若シクハ手數ヲ厭フノ嫌ヒアラシカ但公開ヲ禁シタル場合ハ格別ナリ

第二、類推的解釋
刑法ノ規定タル比付援引ヲ嚴禁スルモ訴訟法ノ規定タル比付援引ヲ許スモノナリ例ヘハ公判ニ於テ其規定ナキモ豫審ノ規定ヲ援用シテ保釋責付ヲ許スカ如キハ其一例ナリ故ニ刑事訴訟法第二百六條ヲ比付援用シテ之ヲ下付スルモ妨ナカ

ルヘシ

附言 假リニ甲説ノ如クスレハ其抄本ハ下付スヘキモ正本、謄本ハ下付スルヲ得サル奇怪ノ結果ヲ生ス又乙説カ民事裁判所ニ書類取寄ノ申請ヲ爲スヲ得ルニ依リ下付ノ必要ナシト云フモ民事裁判所ハ果シテ其申請ヲ必要トスルヤ否知ルヘカラス假令必要ナリトスルモ裁判所ノ助力ナクシテ其正本、謄本、抄本ヲ提出シ得ヘキモノト認メ其申請ヲ却下スルニ於テハ當事者如何トモ爲ス能ハサル場合ニ立至ラン

ノ三説アリ右ハ甲説ノ通リトス
(大分地長代理部長問三二ノ三ノ一九民刑甲第五八號局長回)

(參照)

(一) 民訴法第二百二十四條
當事者ハ訴訟記録ヲ閱覽シ且裁判所書記ヲシテ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與セシムルコトヲ得

裁判長ハ第三者カ權利上ノ利害ヲ説明スルトキニ限り當事者ノ承諾ナクシテ訴訟記録ノ閱覽及ヒ其抄本竝ニ謄本ノ附與ヲ許スコトヲ得

判決、決定、命令ノ草案及ヒ其準備ニ供シタル書類竝ニ評議又ハ處罰ニ關スル書類ハ其原本ナルト謄本ナルトヲ問ハス之ヲ閱覽スルコトヲ許サス

(二) 刑訴法第二百六條

訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時間内ニ之ヲ下付ス可シ

第九十七條 被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

(丙) 諸規則ノ部

第一編 軍事法規

第一 陸軍刑法

(一) 陸軍刑法第一百七條以下ノ逃亡罪ハ即時犯ニシテ繼續犯ニアラス

(山形檢正問二八ノ一一ノ二二局長回)

(參照)

陸軍刑法第一百七條

軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下

下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百八條

軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ルル者ハ逃亡ト爲シ輕懲役ニ處ス

第一百十九條

軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕懲役ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第一百十七條第一百十八條ニ照シテ處斷ス

第一百二十條

軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

(二) 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者點呼召集ニ應セサル場合ニ於テ召集數日

ニ亘ラス數時間ニ事ヲ終フル點呼召集ニ應セサリシトキニハ陸軍刑法第七條ニ依リ罰スヘカラス

(二二)ノ二ノ七刑第八二號局長通牒)

第二 要塞地帶法

近來當管内各所ノ商店ニ於テ要塞地帶法施行以前撮影シタル種子版ニ基キ要塞地帶内水陸ノ形狀ヲ複寫シ販賣スルハ要塞地帶法ノ違犯ト謂フヲ得ス

(長崎檢正照會二四ノ二二ノ二七民刑甲第三六八號局長通牒)

第三 徵兵令

(一) 徵兵適齡者逃亡シテ身體検査ヲ受ケサル者徵兵令適條ニ付

(甲論)

徵兵検査期日前失跡セシモノニ在テハ犯罪拘留其他如何ナル事情アリテ他ニ漂泊スルヤ未タ知ル可ラス之ヲ以テ直ニ兵役ヲ免カレン爲メニ逃亡セシモノト斷定シ徵兵令第三十一條ヲ以テ處罰スルハ頗ル穩當ナラス只正當ノ事故ナクシテ身體検査ヲ受ケサルモノトシ徵兵令第三十條ヲ以テ處罰スヘシ

(乙論)

凡ソ日本國內ニ本籍ヲ有スル男子タル者二十歳ニ至レハ當然兵役ニ服スル義務アルモノニシテ殊ニ徵兵令施行後已ニ二十餘年ヲ經過スル今日ニアリ徵兵検査ノ何物タルヲ了知セサル者アルヘキ筈ナキニ依リ假令他事ヲ以テ他出或ハ逃走セシモノトスルモ適齡當時身體検査ヲ受クル手續ヲ爲ササル者ハ兵役ヲ忌避スルモノト認ムルニ足レリ故ニ斯ノ如キハ徵兵令第三十一條ヲ以テ處罰スルヲ至當トス

ノ兩説アリ右ハ逃亡ノ當時兵役忌避ノ意ナキ者又ハ兵役忌避ノ意アリタルヤ否ヤ不明ナル者ト雖モ其後兵役忌避ノ意ヲ以テ復歸セサリシコトヲ認定シ得ヘキ場合ニ於

テハ徵兵令第三十一條ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘシ然レトモ單ニ身體検査ヲ受クルノ手續ヲ爲ササリシトノ一事ノミニ因リ直ニ該條ノ違犯ト爲スハ適當ナラサル可シ

(篠山區檢問三〇ノ一二ノ一二民刑甲第一八四號局長回)

(參照)

徵兵令第三十條

第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條

毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テハ其月主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第三十一條

兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

(二) 徵兵令第二十八條ヲ適用スヘキ違犯者ニシテ其前徵兵令違犯ニ因リ判決ヲ受ケタルコトナキ者ニ對シ缺席判決ヲ請求シ其他ノ者ハ執行ノ見込アル場合ヲ除ク外起訴スルニ及ハス

(大阪檢長請訓三七ノ四ノ一二刑甲第六一號訓令)

第四 服役條例

征清ノ役以來充員其他臨時召集ニ應シタル陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ頃來漸次解散歸郷セシモノハ明治二十八年五月二十四日發布陸軍省令第十號ニ依リ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ヘキノ處該省令ノ届出ヲ怠リタル者アルモ陸軍豫備後備下士兵卒服役條例第十六條ニ依リ處罰スルノ限リニアラス

(大阪檢長請訓二八ノ一二ノ二七訓令)

(參照)

(一) 陸軍豫備後備下士兵卒服役條例第十六條

第七條第三項但書第八條第十條第十一條第十二條ノ届出ヲナササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(二) 明治二十八年陸軍省令第十號

明治二十七年六月以來充員其他臨時召集ニ應シタル陸軍豫備後備軍人歸郷ノトキハ引續キ該役ニ在ルト否トニ拘ハラズ准士官以上ハ陸軍豫備後備將校服役條例第十條及第十六條ニ準シ師團長ニ下士以下ハ陸軍豫備後備下士兵卒服役條例第八條ニ準シ監視區長ニ届出ヘシ

第二編 諸稅則

第一 一般

稅則犯ト普通犯ト牽連發覺ノ場合ニ於ケル裁判管轄ハ間稅署長又ハ分署長(二三)年九月法律八六號間接國稅犯則者處分法)ニ於テ處分スヘキモノニ非スシテ裁判所ニ於テ普通犯ト稅則犯ト併セテ處分スヘキモノトス

(二四)九ノ二六參刑甲第三七一號通牒)

第二 酒造稅則

(一) 收稅官吏酒造稅則ニ違犯シ數年ニ涉リ酒類ヲ密造シタル者ヲ發見シ其遺石高ヲ認知スル爲メ犯則者ニ米穀ヲ賣付シタル米穀商ノ家宅ニ檢證シ賣買上ノ帳簿ヲ差押ヘ且ツ二階ニ藏匿シアル帳簿差押ニ著手セントシタルニ米穀商ハ前ニ差押ヘタル帳簿ヲ奪ヒ尙ホ收稅官ノ該處分ニ暴行ヲ以テ抗拒シ差押ヲ爲サシメス右米穀商ノ行爲タルヤ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法第一條第二項ニ依リ職務ヲ行ラ妨害シタルモノニシテ刑法第三百九條ニ依リ處分スルヲ相當ナリト思料シタルモ或ル判決ノ旨趣ニ依レバ同處分法第一條第二項ニ於テ犯則者他人ノ家屋倉庫其

他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得トアルハ犯則ニ直接ノ證據物件ヲ藏匿シタル場合ニシテ前陳ノ事實ナル米穀賣付帳ノ如キハ直接ニ係ル物件ニアラスシテ間接ノモノナルヲ以テ收稅官吏ハ該米穀商ノ承諾ヲ得サル限りハ職務外ニ涉リタル行爲ナリトシテ官吏抗拒ノ犯罪ハ成立セスト云フニアリ抑犯則ニ係ル物件トハ犯則ニ關係シタル物件ト云フヘクシテ直接間接ヲ別タス總テ犯則ノ立證ニ必要ナル證據懲憑物件ニシテ本項ニアル證據トハ直接ノ證據間接ノ懲憑ヲ包含シテ前陳米穀賣付帳ノ如キ縱令直接證據タルヲ得サルモノトスルモ間接ノ懲憑タル物件ニハ相違ナカルヘシ已ニ間接ノ懲憑ヲ集取スルヲ得ル職權アリトセハ本間事實ハ官吏抗拒罪ヲ以テ處分スルハ妥當ナリヤト云フニ間接國稅犯則者處分法第一條第二項ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿ストアルハ藏匿シタル物件カ直ニ犯則ノ本質トナルヘキモノ即酒造稅則違犯ノ場合ニ於テハ密造酒等ヲ指シタルモノナルニ付キ米穀商ノ所有ニ係ル米穀賣付帳ノ如キハ犯則ニ係ル物件ト云フコトヲ得ス從テ收稅官吏カ米穀賣付帳ヲ押收スル爲メ米穀商ノ家宅ニ立入りタルトキ之ニ抗拒スルモ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スルノ罪アルモノト爲スコトヲ得ス

(青森檢正稟議二八ノ六ノ二三局長回)

(參照)

(一) 刑法第三百二十九條

官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

13

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

(二) 間接國稅犯則者處分法第一條

關稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅 倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得
犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ關稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

14

(第三項略)

(二) 酒造稅則違犯事件ニ付罰金六千貳百參拾八圓六拾壹錢七厘ニ處セラレタルモ

15

ノアリ限内納完セサルニ付輕禁錮二年ニ換刑セラレタルモノニ對シ執行上

(甲) 六千餘圓ノ罰金ト雖モ二年ノ輕禁錮ニ換刑シタルモノナレハ一年執行ノ後罰金ヲ納メ免禁錮ヲ請求スルニ於テハ他一年ニ對スル罰金參百六拾五圓(壹圓ヲ一日ニ折算シテ)ヲ徵收スルコトヲ得ルノミ又二年執行シ終ルトキハ其剩ル金額ハ徵收スルノ權ナシ

但シ輕禁錮未執行前ト雖モ苟モ既ニ一旦換刑セラレタル後免禁錮ヲ請求スルニ於テハ滿二年ニ對スル罰金額(七百參拾圓)ヲ徵收シ得ルノミ

(乙) 二年ノ輕禁錮ニ換ヘラレタル者一年執行ノ後免禁錮ヲ請求スルニ於テハ一年ニ對スル罰金參百六拾五圓ヲ控除シ(壹圓ヲ一日ニ折算)其餘ノ五千餘圓ヲ納完セシメサル可カラス又二年ノ禁錮ヲ執行セシ後(該當七百參拾圓)ト雖モ猶其剩ル金額ヲ納付セシムルコトヲ得ルナリ

(丙) 二年ノ輕禁錮ニ換ヘラレタル者滿一箇年執行ヲ受ケ之レカ免禁錮ヲ請求スル場合ニ在テハ一箇年即チ三百六十五日ヲ一日壹圓ニ折算シ(該當參百六拾五圓)殘五千餘圓ヲ完納セシムヘシ然レトモ換刑二年ノ執行ヲ終レハ其剩ル金額ハ徵收スル權ナシ

ノ三說アルモ丙說ノ通リトス

(松本區檢査疑二八ノ一一ノ二〇局長回)

第三 烟草稅則

(一) 烟草稅則違犯者ニ對シ明治三十年十二月二十八日罰金ノ刑ヲ言渡シ其確定期限即チ本年一月五日後該罰金ヲ徵收スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付

(甲說)

明治三十年十二月二十八日言渡シタル判決ノ確定期限ハ本年一月四日ナリト雖モ既ニ本年一月一日ヨリ葉煙草專賣法ノ施行ト同時ニ舊煙草稅則ハ廢止サレ則チ判決後法律ノ頒布ニヨリ刑ノ廢止ニ屬シタルモノナルヲ以テ新法ノ實施ト共ニ公訴ノ消滅ニ歸シタルモノト謂ハサル可ラス果シテ然ラハ判決ハ其效力ヲ失ヒ即チ判決ヲ確定セシム可キ期間ノ存在アルコトナシ故ニ假令一月五日ニ至ルモ該判決ノ確定力ヲ有スル道理ナキヲ以テ檢事ハ之レカ執行ヲナス能ハス

(乙說)

法律ノ改正ニヨリ刑ノ廢止アリタルトキ公訴ノ消滅スルハ甲說ノ如シト雖モ苟モ一度判決ヲナシタル以上ハ上訴故障再審等ノ方法ニ依ルニアラス單ニ判決後上訴

消滅ノ原由ヲ生シタルノ故ヲ以テ外ニ何等ノ手續ヲモナサスシテ當然其判決ノ效力ヲ消滅セシムルヲ得サルモノトス故ニ檢事ハ確定期限後執行セサル可ラス
ノ兩説アリ右ハ乙説ノ通りトス

(甲府檢正問三二ノ一ノ二九民刑甲第一一五局長回)

(二) 甲者ニ對スル煙草稅則違犯事件ニ付甲者ニ對シ呼出狀ヲ發シ甲者ノ總理代人乙者出廷シテ審問ヲ受ケタル末甲者ニ有罪ノ判決ヲ爲シタルニ乙者其判決ニ對シ甲者ノ代人トナリテ控訴ヲ爲シタル處控訴裁判所ニ於テ甲者ノ代人ト爲リテ控訴ヲ爲スノ資格ナキ乙者ヨリ提起シタル不合法ノ控訴ナリトシテ之ヲ棄却シ檢事ハ其判決ニ對シ上告ヲ爲シタルモ上告裁判所ハ其上告ヲ理由ナシトシ棄却シタリ故ニ第一審裁判所檢事ハ甲者ニ對シテ第一審判決ヲ執行セントスルニ當リ甲者ハ自ラ裁判所ニ出廷シテ言渡ヲ受ケタルコトナク執行セラレントスル判決ハ代人ノ資格ナキ乙者ヲ代人ト誤認シタル不當ノ判決ナレハ其執行ヲ受クヘキモノニ非ラスト主張シテ異議ノ申立ヲ爲シ第一審裁判所ハ被告ノ異議ハ第二審裁判所ニ申立ツヘキモノトシ不受理ノ決定ヲ與ヘタリ故ニ甲者ハ此決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルニ抗告裁判所ハ異議裁判所ノ決定ヲ取消シ更ニ第一審裁判所ニテ受理スヘキモノナ

リト決定セリ此決定ニ基キ第一審裁判所ハ更ニ甲者ノ異議ニ對シ當裁判所ニ於テ屢キニ煙草稅則違犯ニ依リ甲者代人乙者ニ言渡シタル判決ハ甲者ニ對シテ有效ナリトセスト決定セリ檢事ハ此決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルモ抗告裁判所ニ於テハ檢事ハ此場合ニ於テ抗告ヲ爲スノ權ナキ者トシ之ヲ棄却シタリ事實夫レ如斯ニシテ最終ニ下シタル異議裁判所ノ決定ハ執行ノ異議ニ對スル範圍外ニ出テ前判決ノ當否ヲ判決シ之カ無効ヲ宣言シタルモノニシテ不法ノ甚シキモノトス本件被告カ裁判執行ニ對シ申立タル異議ノ理由ハ自身ハ前裁判ニ出頭シタルコトナク裁判所ハ代人ノ資格ナキ乙者ヲ代人ノ資格アリトシ代人ナルヤ否ヤノ事實ノ認定ニ付テ誤謬ナル認定ヲ爲シ此誤謬ナル認定ニ基キ對席判決ヲ下シタルモノナレハ其言渡シタル刑ノ執行ヲ受クヘキ理由ナシト云フニ外ナラス果シテ然ラハ是レ判決ニ不備缺點アルコトヲ主張シテ確定判決ノ效力ヲ論争スルモノニ非ラスシテ何ソヤ蓋シ前裁判所ニ於テ代人ノ資格ナキモノヲ代人ナリト誤認シ對席裁判トシテ言渡シタルハ裁判ノ不備タルニハ相違ナキモ是唯一事實ノ認定ヲ誤リタルノミ假令其他ニ尙幾多ノ誤謬アリトスルモ其判決ノ確定シタルノ一事實ハ此等總テノ瑕瑾ヲ消滅セシムルモノナリ何トナレハ其裁判ハ適法ニ構成セラレタル裁判機關ノ言渡シタ

ル判決ナルヲ以テナリ夫レ判決ノ確定ハ其裁判ニ存スル一切ノ瑕瑾ヲ消滅セシムト云ヘル治罪ノ格言ハ一定不動ノ大原則ニシテ苟モ適法ニ構成セラレタル裁判所ナランニハ其言渡シタル判決一ト度ヒ確定スレハ假令其判決ハ訴訟手續ニ違反シ事實ノ認定法律ノ適用ヲ誤ル等千百ノ不備缺點アリト雖モ非常上告若クハ再審ノ方法ニ依リ更ニ新ナル判決ヲ得ルニ非サレハ其不備缺點アルコトヲ主張シテ確定判決ノ效力ヲ論争スルコトヲ許ササルナリ抑モ執行ニ對スル異議ナルモノハ判決ニ對スル論争ニ非スシテ執行自體ニ關スル論争ナルコトヲ注意セサル可ラス若シ執行異議ノ申立ニシテ其理由ヲ判決ノ不當ニ取ルモノナラン乎之レ取モ直サス判決ニ對スル異議ニシテ其判決ノ不備缺點ヲ理由トシ名ヲ執行異議ニ假リテ上訴ノ實ヲ行フモノノ如キハ確定判決ノ效力ヲ傷害スルモノトシテ斷シテ之ヲ排斥セサル可ラス本件ノ如キ前裁判カ事實ノ認定ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ申立タル異議ヲ正當ナリトスレハ前判決カ法律ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ申立タル異議モ亦正當ナルヘシ若シ夫レ然ラン乎異議裁判所及抗告裁判所ハ常ニ前裁判ノ當否ヲ覆審セサルヘカラサルニ至リ上訴裁判所ノ權限ヲ犯スニアラサレハ異議ノ理非ヲ決定スルコト能ハサルヘシ然ルトキハ如何ナル判決ト雖モ異議ノ申立

ナル名義ノ下ニ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘク裁判確定ノ時期ハ刑ノ執行ヲ完了シタル上ニ非ラサレハ到底之ヲ見ルコト能ハス確定裁判ノ效力ニ關スル原理ハ全然打破紛碎セラルヘキナリ夫執行異議ニ對スル決定ハ執行ノ點ニ限リタル裁判所ノ決定ナラサル可ラス執行ノ範圍内ニ於テ下シタル判定ナルカ故ニ法律上之ヲ執行異議ノ決定ト云フ若シ夫此範圍ヲ越ヘテ前判決自體ノ當否ヲ判定シ其有效無效ヲ宣言シタルモノノ如キ如何ニシテ之レニ執行異議ノ決定ナル名ヲ下スコトヲ得ヘキ乎蓋シ確定裁判ノ原理ハ裁判ト稱ヘル名稱ノ下ニ適用セラルヘキモノニシテ裁判ニ非サルモノ換言セハ裁判ト稱スヘキモノノ存在セサルニ獨リ其確定力ノ生セサルト一般決定ト稱ス可ラサルモノニ效力ノ生スヘキ理ナシ若シ此限界ヲ踰ヘテ確定裁判ノ原理ヲ適用セントセハ倏チ誤謬ノ渦中ニ沈ムヘキナリ一例ヲ舉ケンニ區裁判所ニ於テ控訴ノ裁判ヲ爲シタル場合ノ如キ其裁判ハ適法ニ構成セラレタル司法機關ノ言渡シタル裁判ニ非ルヲ以テ恰モ一私人ノ爲シタル裁判ト均シク其實裁判ト稱ス可ラス裁判ニ非ルカ故ニ確定ノ效力ヲ生セサルナリ故ニ最終ノ決定ハ決定ト稱スルコトヲ得サル無効ノ決定ナレハ直ニ之カ執行ニ著手スヘキモ甲者ハ再ヒ異議ノ申立ヲ爲シ又ハ罰金ヲ不納スルニ當リテ之ヲ換刑スル時或ハ資力ヲ有シ

テ追懲金ヲ完納セサル場合ハ民事訴訟法ノ手續ニ依ラサルヲ得ス此際ニ該リテ裁判所ハ亦其申立ニ對シ之ヲ執行スルコト能ハサルノ決定ヲ與ヘ或ハ換刑ノ請求ヲ却ケ又ハ民事訴訟法ニ於テ其原因無効ノ決定ニ基ク申請ナリトシテ之ヲ受理セス又之ヲ却下スルトキハ到底之カ執行ヲ完結スルコト能ハスシテ第一審判決ノ確定ト不完全ナルモ已ニ確定セシ異議ノ決定ト撞突ヲ來スハ免カレサルカ如シ夫レ如斯撞突ノ顯出センコトヲ知リナカラ執行ニ著手スルモ穩當ナラス故ニ裁判所自カラ前判決ヲ無効ナリト宣言スル上ハ甲者ニ於テ一事再理ノ抗辯ヲ爲スハ豫知シ難キモ再ヒ起訴シテ事件ヲ結了スルノ途ヲ執ルヘキ歟或ハ第一審裁判所ニ於テハ甲者ニ對シ呼出狀ヲ發シ甲者カ同居ノ母之ヲ領收シ正當ニ送達セラレタルモノニシテ乙カ代理人ノ資格ナケレハ甲ハ審判當日ニ缺席シタルモノト見做ササルヘカラス然ルトキハ其判決書ヲ送達シタルコトナケレハ更ニ之カ送達ヲ受クル迄未確定ノモノナレハ裁判所ニ對シ判決書ヲ甲者ニ送達スルノ手續ヲ求メ之ヲ確定セシムルカノ二外ナラサルモ此等ハ前後策トシテ第一ニ最終ニ下シタル第一審裁判所ノ決定ハ權限ヲ侵犯シタル不當ノ決定ナルヲ以テ全ク無効ノモノトシ斷然之ヲ排却シテ執行シ可然哉

又刑事訴訟法第三百二十三條ハ末段檢事ニモ當然抗告ヲ許シタル法條ニシテ檢事モ抗告ヲ爲スノ權アルモノト思料ス然ルニ抗告裁判所ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノニ限リ抗告ヲ許シタルモノニシテ檢事ニ許シタル法條ニ非ラストノ理由ヲ以テ之ヲ棄却シタリ抑モ抗告ハ刑事訴訟法第二百九十三條ニ明定スル如ク法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリト雖トモ同條ニ所謂特ニ許シタル場合トハ「抗告ヲ爲スコトヲ得」トノ明文アル場合ニシテ其何人カ之ヲ爲スコトヲ得ヘキカニ干シテハ全ク別箇ノ解釋問題ニシテ敢テ明文ヲ要スヘキ限リニ非サルナリ然ルニ抗告裁判所ニ於テ檢事ノ抗告ヲ棄却シタルハ刑事訴訟法第三百二十二條ノ末段ニ於テ「檢事」ト云ヘル明文ヲ缺クヲ以テ檢事ハ抗告スルコトヲ得スト云フニ外ナラサルヘシ果シテ然ルトキハ是レ第二百九十三條ノ眞意ヲ誤解セルモノニ非スシテ何ソヤ而シテ本法ノ慣用セル筆法ヲ見ルニ抗告ヲ許ス明文ハ單ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ規定スルノミニシテ其主體即抗告ヲ爲シ得ヘキ者ヲ明示シタルハ只僅カニ同法第七十二條ノ規定アルノミ其第二百二十六條第三百二十八條第二百五十五條及第三百二十二條ノ如キ何レモ其抗告ヲ爲スヘキ者ノ何人タルカヲ明示セス主格省略ノ筆法ニ依リテ解釋問題ニ一任シタルコト

ヲ知ルニ足ルヘシ解釋問題トシテ檢事ハ執行異議ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得サルカ或ハ檢事ハ異議ノ決定ニ付テハ主體タリ對手タルモノニ非サレハ抗告ヲ爲スコトヲ得スト難スル者アラン何ソ妄言ヲ弄スルノ甚シキヤ檢事ハ原告官タルノ資格ニ於テ且公益ノ代表者タル資格ニ於テ職務ノ執行上公訴ノ實行ニ干スル一切ノ訴訟行爲及刑ノ執行行爲ニ就テハ其行爲ノ主體タリ對手タルモノニアラスシテ何ソヤ斯ク檢事ハ異議ノ決定ニ對シテ其職務ノ執行上當然主體タリ對手タルヘキモノナルノミナラス其決定ノ當否ニ干シテハ直接且重大ナル利害ノ干係ヲ有スルモノナリ此二箇ノ條件即チ行爲ノ主體對手タルコト直接重大ノ利害ヲ有スルコトノ二箇ノ要件ハ第三百二十三條後段ノ明文ニ依リ檢事ニ抗告權ヲ許スヘキ完全ナル理由ナリトス解釋問題トシテ檢事ニ抗告權ヲ拒否スヘキ理由果シテ何處ニ存在スルカ論理思想ヲ以テハ到底發見スルコト能ハサルナリトノ請訓ニ對シ

(一) 第一審裁判所ニ於テ甲者ノ異議ニ對シ甲者代人乙者ニ言渡シタル判決ハ甲者ニ對シテ有效ナリトセスト決定シタルハ刑ノ執行ニ關スル異議ノ性質ヲ誤リタルモノニシテ固ヨリ失當タルヲ免レスト雖トモ其決定モ亦效力ヲ有スヘキモノナルヲ以テ本件ニ付テハ判決ヲ執行スルコトヲ得ス且ツ之ヲ救済スルノ途ナ

キモノトス

(二) 刑事訴訟法第三百二十二條末段ハ檢事ニマテ特ニ抗告ヲ許シタルモノト解釋スルコトヲ得サルニ付刑ノ執行異議ニ關スル決定ニ對シテハ檢事ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

トノ訓令アリ

(德島檢正請訓二九ノ一ノ一四訓令)

(參照)

刑訴法第三百二十三條

賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

第二百九十三條

抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十二條

刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シ此決定ニ對シテハ

抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條

檢察ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

被告人ハ重罪公判ニ對スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十六條

證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢察事ノ意見ヲ聽キ刑法第八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第七十八條

鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢察事ノ意見ヲ聽キ刑法第七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第七十五條

原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四 印紙稅規則

(一) 脫稅書類ヲ他人ニ交付シ證券印稅規則第十九條ノ責罰ヲ受ク可キモノハ同則

第五條ノ證券差出名義人又ハ帳簿主名義人等カ自ラ脫稅書類ヲ他人ニ有效ニ交付シタル場合ニ限ル可キヤ否ニ付キ

(甲說)

證券帳簿等ヲ作成シ之ヲ脫稅ノ儘他人ニ交付シ證券印稅規則第十九條ノ制裁ヲ受ク可キモノハ同則第五條ニ規定スル處ノ證券差出名義人又ハ帳簿主名義人等カ其書類ヲ作製シ脫稅ノ儘自ラ之ヲ受取人ニ交付シタル場合ニ於テノミ其責罪ヲ受ク可キモノニシテ委任ニ基ケル代理人等カ如何ナル資格權限ニ依リ證書又ハ帳簿ヲ作成シ一切ノ取引用ニ託セラレタル印判ヲ押捺シ脫稅ノ儘之ヲ他人ニ交付スルモ代理人ハ同則第五條ノ證券差出名義人又ハ帳簿主名義人ニアラザルヲ以テ脫稅違犯者ト爲スコトヲ得不即其所爲ハ罪ト爲ル可キモノニ非アラズ

(乙說)

證券印稅規則第五條ノ規定ハ同則第十九條ノ制裁ヲ受ク可キモノハ證書差出名義人又ハ帳簿主名義人等カ其書類ヲ作成シ脱稅ノ儘之ヲ自ラ他人ニ交付シタル場合ニ限リ其以外者即チ縱令ト如何ナル資格權限ヲ有スル代表者カ證書又ハ帳簿ヲ作成シ脱稅ノ儘之ヲ受取人ニ有效ニ交付スルモ其責罰ヲ受ク可キモノニアラストイフ精神ニアラス同條ハ單ニ印稅負擔者及其消印方法ヲ示定シタルニ止ルモノナリ而シテ同則第十九條ノ注意ヲ案スルニ證書又ハ帳簿ヲ作成シ之ヲ授受スルノ資格權限ヲ有シ其書類ヲ作成シ脱稅ノ儘之ヲ授受シタルモノヲ罰スルノ精神ニシテ名義人自ラ授受スルト其代表者ノ授受スルトヲ問ハス現ニ其犯則行為ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ意タルヤ明確ナリトス故ニ代理人カ其權限内ニ於テ證書又ハ帳簿ヲ作成シ委任者ノ名義ヲ署シ豫テ取引用ニ託セラレタル印ヲ押捺シ之ヲ他人ニ有效ニ交付スルニハ成規ノ印紙ヲ貼用ス可キハ委任權内ニ於テ代理人當然ノ責務ナリ然ルニ其代理人カ其責務ヲ缺キ犯法脱稅ノ書類ヲ有效ニ受取人ニ交付シタルトキハ同則第十九條ノ責罰ヲ受ク可キハ刑事法理ノ最も見當キ點ナリ甲論者カ其見當キ法理ヲ誤リ證書ノ名義人ニ非ラザルニ證書ノ差出

人ニアラス差出人ニアラサレハ同則第十九條ノ制裁ヲ受ク可キモノニアラスト犯法實行者タル代理人ノ所爲ヲ罪ト爲ル可キモノニ非ラスト判定シタルハ失當ノ甚シキモノト謂ハサル可ラス

ノ二說アリ右ハ本人カ代理人ヲ用キテ取引ヲ爲サシメ代理人ハ其委任ニ因リ證書又ハ帳簿ニ自己ノ名義ヲ用キタル場合ニ於テ證券印稅規則違犯ノ所爲アルトキハ其代理人ヲ罰スヘキモノナレトモ本人カ自己ノ名義ヲ用ヒ他ノ人ヲシテ取引ヲ爲サシメタル場合ノ違犯ナルニ於テハ其本人ヲ罰スヘキモノトス

(太田區檢問三〇ノ五ノ一七局長回)

(參照)

證券印稅規則第十九條

印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第五條
印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ス前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證

書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

(二) 印紙犯則ノ證書ヲ以テ登記ヲ請求スルモノアル時ハ之ヲ受理スヘキモノニアラス但登記官吏ハ一面告發ヲ爲スヘシ
〔青森地長問三二ノ一ノ二六民刑第一〇號局長回〕

其ノ旨ニ依リて、凡ソ、印紙ノ貼付、消印、及び、其ノ他、印紙ノ取扱いニ關スル事項ハ、本規則ニ依リテ、行ハルベシ。又、印紙ノ貼付、消印、及び、其ノ他、印紙ノ取扱いニ關スル事項ハ、本規則ニ依リテ、行ハルベシ。又、印紙ノ貼付、消印、及び、其ノ他、印紙ノ取扱いニ關スル事項ハ、本規則ニ依リテ、行ハルベシ。

第三編 其他諸規則

第一章 通則

- (一) 廳府縣ニ於テ發布スル廳府縣令ニシテ警視廳官制第十二條北海道廳官制第七條地方官制第十一條ニ依リ司法大臣ニ於テ其取消又ハ中止ヲ爲スヘキモノト認ムル條則アルトキハ其廳府縣ヲ管轄スル裁判所ノ檢事長又ハ檢事正ヨリ大臣ヘ具申スヘシ
- (二) 縣廳ニ於テ制定公布シタル取締規則罰令中(三日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス)等ノ刑名アルモノノ起訴手續ニ付テハ

(甲說)

罰金ノ一條中ニ罰金拘留ノ二様アルトキハ元ヨリ輕罪トシテ起訴スヘキモノナレバ假令拘留ノ刑ヲ適用スルモ警察官ハ即決權ヲキモノナリ

(乙說)

府縣ニ於テ制定シタル取締規則罰例ノ如キハ一般法律ノ原則(重罪ヲ減シテ輕罪刑ヲ以テ罰スルモ罪質ハ重罪トナルノ類)ニ依ル可キ者ニアラス故ニ其公訴ヲ提起スルモノ拘留ノ刑ニテ罰シ可ナリト思料スル下キハ警察官即決ヲ爲シ又罰金ヲ以テ罰ス可キモノト見込時ハ警察官ヨリ所轄區裁判所ヘ送付シテ可ナリ

(前橋檢正質疑二八ノ六ノ二四局長回)

第二章 選舉ニ關スル諸規則

第一節 選舉法

議員候補者カ宴會ヲ開キ闕席者ニ慣習ニ依ル折詰ヲ贈リタル下キハ選舉法第九十條ニ照シ罰スヘキモノニアラサルヘシ但選舉法罰則補則第一條ニ該ル場合ヲ除ク

(神戸檢正請訓三二ノ三ノ九民刑第四七號訓令)

(參照)

(一) 選舉法第九十條

投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

(二) 衆議院議員選舉法罰則補則第一條
投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票場ノ近傍若ハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シ及ヒ其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及ヒ其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二節 選舉ニ關スル勅令

第一 勅令第三十一號

(一) 本年勅令第三十一號第一條ニ選舉ニ關シ運動スル者トアルハ自己ニ投票ヲ得

若ハ他人ニ投票ヲ得セシメンカ爲ニ他人ニ對シテ或ル劬キ掛ケヲ爲ス者ノミニア
ラス選舉ニ關スル一己ノ行動即毫モ他人ニ對シテ働キ掛ケヲ爲スニ非スシテ只自
己ノ選舉權ヲ行フカ爲ノミ投票所ニ至ル者ノ如キモ包含ス

(岐阜檢正請訓三二ノ三ノ一〇民刑甲第四五號訓令)

(二)豫備後備軍人軍服ヲ著スルトキモ選舉法第九十八條及本年勅令第二十一號ヲ
以テ處分スルヲ當然トス但陸軍服裝規則及海軍服裝規則ニ依リ軍服ヲ着用スル場
合ヲ除ク

(大阪檢正請訓三二ノ三ノ一〇民刑甲第五一號訓令)

(參照)

(一)選舉法第九十八條

戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下
ノ罰金ニ處ス

(二)明治三十一年勅令第二十一號

第一條法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選舉ニ關シ運動スル者ハ刀劍、銃砲
、槍戟、仕込刀劍、仕込銃、竹槍棍棒、其他人ヲ殺傷スルニ足ル物件ヲ携帯スル

コトヲ禁ス

憲兵又ハ警察官ハ前項ノ禁ヲ犯シタリト認ムル者ニ對シ其ノ物件ヲ押收スヘシ

第二條 前條第一項ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以
上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

前項ノ犯罪ハ衆議院議員選舉法第一百四條ノ例ニ依ル

(第二條略)

第二勅令第七十號

(一) 他人ノ議員候補ヲ斷念セシメ已ニ當選スルノ目的ニシテ金員ヲ其候補者ヘ供

與シタルモノ處分方請訓候處金員ヲ供與シタルモノニシテ選舉人又ハ運動者ニア
ラサレハ緊急敕令ニ依リ某縣第七區ニハ二名ノ候補者アリ甲ハ乙ヲシテ候補ヲ斷
念セシメ己レ當選スルノ目的ニテ乙ニ金員ヲ供與シタリ而シテ乙ハ第七區ノ選舉
有權者タルコトハ乙カ被選權ヲ有スル一事ニシテ既ニ爭フヘカラサル事實ナリ乙
カ棄權スルハ甲ヲ利センカ爲ニシテ甲カ當選スルハ乙ノ棄權與リテ最モ力アルモ
ノトセサル可ラス乙カ甲ノ爲ニ棄權シテ甲ノ利益ヲ計ルノ方法手段ニ至テハ新聞
紙ニ棄權ノコトヲ公告シ或ハ甲ヲ選舉スヘシト勸誘シ或ハ甲ヲ議員適任者ナリト

稱揚スル等千狀萬態ナルヘシト雖モ要スルニ甲ラシテ當選セシムル爲メ甲ヲ利スルモノニ歸ス即チ乙ハ甲ノ爲ニ利用セララルモノニシテ選舉運動者タルノ實ヲ失ハサルモノニ付キ何レノ點ヨリ觀察スルモ緊急勅令第二條第一號ニ照シ處分スキモノトス

〔神戸檢正請訓三二ノ八ノ二〇民刑甲第一九〇號訓令〕

(二) 他人ノ議員候補ヲ辭セシメ己レ當選スルノ目的ニテ其候補者ニ金員ヲ供與シタルモノニシテ選舉人又ハ選舉運動者ニアラサルトキハ緊急勅令ニ依リ處分スキモノニアラス

〔神戸檢正請訓三二ノ七ノ二九民刑甲第一八〇號訓令〕

(三) 選舉運動者カ議員候補者ノ事務所ヲ支配シ選舉ニ奔走中常ニ事務所ニ於テ飲食ヲ爲シ議員候補者ハ豫約ニ從ヒ右飲食代金數百圓ヲ支辨シタル場合ハ勅令第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

〔神戸檢正請訓三二ノ八ノ一〇民刑甲第一九五號訓令〕

(四) 勅令第七十號第二條第二號中旅費若クハ休泊料云云トアルハ選舉會場等ニ往復スル場合ニ限ル

〔大分檢正問三二ノ七ノ三〇局長回〕

(五) 議員候補者カ選舉運動者ニ自宅ニ於テ飲食ヲ供シタル場合ニハ勅令第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

〔神戸檢正請訓三二ノ八ノ一〇民刑甲第一九五號訓令〕

(六) 新聞雜誌ハ之ヲ廣義ニ解釋スレバ本年勅令第七十號第二條第二項ニ謂フ所ノ物品タルヲ失ハスト雖モ右ハ新聞雜誌ヲ物品トシテ供與シタル場合例ヘハ一箇月乃至六箇月若クハ二年分ノ發刊ニ係ルモノヲ無代價ニテ配付スル等ノトキニ於テ勅令違反トナルヘキモノニシテ單ニ自己ノ意見ヲ記載シタルモノヲ配布スル場合ニ於テ其全紙ヲ利用スルモノ之ヲ以テ該勅令ノ違犯ト謂フコトヲ得サルヘク隨テ議員候補者或ハ選舉運動者ニシテ其意見ヲ新聞紙上ニ發表シ意見記載ノ部分ヲ切取ルノ煩ヲ避ケ便宜上其全紙ヲ各有權者ニ配布スルモノ全紙ヲ利用スルノ意思アラサルモノハ緊急勅令第二條第一號ニ依リ處罰スヘキモノニ非ラス

〔神戸檢正問三二ノ八ノ一〇民刑甲第一九二號局長回〕

(參照) 明治三十一年緊急勅令第七十號第二條

選舉ニ關シ其ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル行爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ收受者又ハ受諾者ニシテ選舉當日後二十日以内ニ自首シタル者ハ其ノ罪ヲ論セス

- 一 直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸誘シタル者竝ニ之ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
- 二 酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝ニ此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
- 三 選舉人又ハ其ノ關係アル社寺學校會社組合市町村等ニ對スル用水小作債權寄付等其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

第三勅令第三百七十七號

府縣會議員ノ選舉ニ先チ減租同盟會ナルモノヲ組織シ頻リニ無智ノ農民ヲ煽動シ減租同盟ナル名議ノ下ニ加名ノ調印ヲ取り其實減租ノ條件ヲ契約シ之ヲ今回ノ選

舉ニ利用セントスル者ハ本年勅令第三百七十七號第一條第一號ノ規定ニ該當セス

〔静岡檢正問三二ノ八ノ三一民刑甲第二〇六號局長回〕
(參照)

明治三十二年勅令第三百七十七號府縣會議員及郡會議員選舉ニ關スル罰則

第一條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上二年以下

- ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸誘シタル者竝ニ供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

(以下略)

第三節 選舉訴訟

議員選舉ニ關スル訴訟事件ハ公益上關係ヲ有スルコト尠カス就テハ該訴訟事件ノ口頭辯論ニハ立會ヲ爲ス可シ

〔二五ノ五ノ一〇參刑甲第二七八號訓令〕

第三章 新聞紙條例

(一) 新聞紙條例第十五條ノ裁判ノ意義ニ付テハ

(甲說)

本案ノ裁判ト云ヘルハ確定裁判ヲ云フ何トナレハ宣告ノ全文ヲ掲載セシムルハ一ノ附加刑ノ義務ヲ負ハシメタルモノニシテ裁判確定ニ至ラサレハ此義務ヲ生スルノ理ナケレハナリ故ニ裁判ニ對シ上訴セシトキハ原裁判文ハ之ヲ掲載スルヲ要セス其裁判確定セシ時ヨリ次回ニ發行ノ新聞紙ニ掲載スヘキモノナリ法律ノ精神既ニ然リ就テハ無罪ノ裁判ヲ受ケタル時ノ如キ其宣告文ヲ掲載スルハ却テ被告タルモノノ利益ナルニ其利益ヲ拋棄シテ之ヲ掲載セサルトキモ亦條例ノ違犯者トシテ之ヲ責ムルノ必要ナシ

(乙說)

本案ノ裁判ト云ヘルハ確定未確定ニ論ナシ何トナレハ次回發行ニ於テ云云トアリテ其次回發行ハ確定前ニ在ルモノ多キニ居レハナリ故ニ裁判ヲ受ケタルトキハ確

定前ト雖モ次回發行ノ紙上ニ掲載セサルヘカラス法文ハ汎ク裁判ト云ヒテ確定ノコトヲ云ハス要スルニ上訴セシトキノ如キモ裁判ヲ受クル毎ニ之ヲ次回發行ノ紙上ニ掲載セサル可カラサルナリ又本條ニ所謂裁判トハ罪ノ有無ヲ分タス是ヲ以テ縱ヒ無罪ノ裁判ヲ受ケタルトキモ尙ホ其全文ヲ掲載セサル可カラス之ヲ掲載セサルトキハ條例ニ違犯セルモノト云ハサル可カラス

ノ兩說アルモ右ハ乙說ノ通リトス

(金澤檢正問二八ノ七ノ一八局長問)

(參照)

新聞紙條例第十五條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

(二) 新聞紙條例第二十三條二項ノ發行禁止ハ條例違犯事件ニ對スル判決ヲ以テ言渡

(大阪檢正問三〇ノ五ノ一七局長問)

(參照)

新聞紙條例第二十三條

第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

(三) 新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス

(一九九年六月第一〇號訓令)

(四) 新聞紙條例ニ依リ發行スル新聞紙及雜誌ニ掲ケタル裸體畫ニシテ猥褻ニ涉ルモノアルトキハ新聞紙條例第二十二條ノ違犯トシテ起訴スヘキ儀ト心得可シ

(三二年四月民刑甲第八九號訓令)

(參照)

新聞紙條例第三十三條

猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四章 煙草專賣法

(一) 裁判所ニ於テ沒收シタル葉煙草、製造煙草、煙草代用品竝ニ其製造上使用ノ物件ハ左ノ各項ニ依リ處分スヘシ但明治三十七年十二月司法省會檢甲第二八〇號訓令ハ之ヲ廢止ス

一 葉煙草ハ最寄葉煙草收納所へ無償ニテ引渡スヘシ

二 製造煙草竝ニ煙草製造専用ノ器具、機械及卷紙ハ最寄煙草製造所へ無償ニテ引渡スヘシ

三 左記物件中甲乙ハ賣却シ丙ハ廢棄スヘシ

甲 舊葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造煙草
乙 煙草製造専用ニアラサル器具機械

丙 煙草代用品及其原料

四 引渡ノ物件運搬ノ爲メ要スル費用ハ其引渡ヲ受ケタル煙草專賣官署ヲシテ支辨セシムヘシ

(二八ノ六ノ九司法省會檢甲第一三〇號訓令)

(二) 煙草專賣法違犯ニ依リ沒收シタル製造煙草ハ最寄煙草製造所ニ引渡スヘシ 49

(二七ノ二二ノ二七會檢甲第二八〇號訓令)

(三) 煙草專賣法違犯ニ依リ沒收シタル製造煙草引渡ノ爲メ製造所ヘ送付ノ費用ハ同製造所ニ於テ支辨ノ筈ナリ 50

(二七ノ二二ノ二七司法省會檢甲第二八一號會計課長通牒)

第五章 鹽專賣法

(一) 鹽專賣法違犯ニ依リ沒收シタル鹽ハ所轄鹽務局又ハ鹽務局出張所ニ引渡スヘシ 51

(二八ノ五ノ二司法省會檢甲第九五號訓令)

(二) 鹽專賣法違犯ニ依リ沒收後ニ於ケル物品保管ノ費用竝ニ鹽務局又ハ鹽務局出張所ヘ送付ノ運賃ハ鹽務局ニ於テ支辨ノ筈ナリ 52

(二八ノ五ノ二司法省會檢第九五號會計課長通牒)

第六章 森林法

森林法第四十六條ニ木材代價相當ノ罰金ニ處ストアリ其代價ハ二圓未滿ナルトキト雖モ仍ホ科罰スヘキヤ否ニ付キ 53

(第一說)罰スルコトヲ得ス

理由 罰金ハ二圓以上ト爲スコトハ刑法總則第二十六條ニ規定アリ若特別法ヲ以テ刑法外ノ刑名ヲ創設セントスルトキハ必ス其ノ刑名ヲ特記セサルヘカラス然ルニ森林法ニハ何等ノ規定ナシ即チ我カ法令ニハ二圓未滿ナル罰金ノ刑名ナキナリ然ラハ之ヲ科料ニ處センカ同法第五十條ニ科料ノ刑ヲ掲ケ本條ニ科料ヲ掲ケサリシヲ見レハ科料ニモ處スルノ意旨ナキコトヲ推知セラル又第四說ノ如ク二圓ノ罰金ヲ科スルナラハ同法第三十七條第三十九條ト同ク二圓以上ノ文字ナカルヘカラス到底二圓未滿ノ科罰ヲ言渡スヘキ途ナシ

(第二說)科料ニ處スヘシ

理由 刑法第七十一條ノ例ニ照シテ科料ニ處スヘシ

(第三說)二圓未滿ト雖モ仍ホ罰金トシテ科罰スヘシ

理由 犯罰ハ加害程度ノ多寡ニ依リテ或ハ之ヲ罰シ或ハ之ヲ罰セサルカ如キ區別ナキヲ原則トス森林法第四十六條ハ此ノ原則ヲ除外シタルニ非スシテ假令二圓未滿ナルモ木材代用ニ相當スル額ハ即チ罰金ナリトノ特別規定ヲ包含シ其ノ最下額ニ制限ヲ置カサリシモノナリ是レ其ノ代價相當額ヲ科刑標準ト爲シタルノ結果罪質ヲ變シテ違警罪ニ容ルルカ如キ法理ニ反スル場合ヲ生スルヲ慮リタルニ因ル(刑法ニ於テ減刑ノ場合ハ格別第二十七條ノ如キ好一例ナリ)而シテ一般法ト特別法ト相抵觸スルトキハ明記ナシト雖モ後法ニ依ルヲ解釋法ノ原則トスルヲ以テ第一說ノ如キ特記ヲ要セサルナリ第二說ハ減刑ノ場合ニ處スル刑法ノ規定ヲ比附援引スルニ過キス

(第四說)木材代價二圓未滿ナルトキハ二圓ノ罰金ニ處スヘシ

理由 罰金ハ二圓以上ナルコトハ第一說ノ如シ又伐木ヲ以テ犯罪ト爲シタル上ハ木材代價ノ寡少ナルカ爲ニ罰セサルカ如キハ第三說ノ如ク不當ノ解釋ト謂ハサルヘカラス故ニ木材代價二圓未滿ナル時ト雖モ二圓ノ罰金ヲ科スルヲ相當トス斯クスルトキハ相當トナル副詞ニ抵觸スルカ如クナレトモ繁ヲ避ケタル法文ト

見レハ差支ナカルヘシ第一說ハ同法第三十七條第三十九條ト同ク二圓以上ノ文字ナカルヘカラスト論スレトモ第三十七條第三十九條ハ罰金ノ最多額即チ職額二倍トノ制限ヲ付シタルカ故ニ其ノ最寡額モ亦明記スルノ必要アリ第四十六條ハ常ニ木材代價ニ同シキ罰金ヲ科シ最多額ヲ制限セス隨テ最寡額ヲ明記スルノ必要ナキヲ以テ二圓以上ノ四字ヲ省キタルナラン
ノ四說アリ右ハ第三說ノ通トス
〔岐阜檢正問三二ノ四ノ八民刑甲第七四號局長同〕

(參照)

(一) 刑法第二十六條

罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第七十一條

禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

第二十七條

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
罰金ノ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒズ檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

(二) 森林法第四十六條

保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第五十條

第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第三十七條

森林ニ於テ其ノ主副產物ヲ竊取シタルモノハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十九條

森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス但罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第七章 公證人規則

囑託當事者其立會人ト共謀シ公證人規則第二十九條ニ抵觸セサル旨公證人ノ面前ニテ詐稱シ公證人ハ當事者及ヒ立會人ニ於テ豫メ謀テ詐稱スルヲ知ラス公正證書ヲ作成セシニ後日其立會人ハ同條ニ觸ルルモノナルコト發見セシトキト雖モ無論其公正證書ハ有效ノモノナリヤト云フニ立會人カ公證人規則第二十九條ニ掲クル者ナルトキハ其立會ニテ作成シタル公正證書ハ公正ノ效力ヲ有セス又立會人ハ公證人ニ於テ選定スヘキモノニ付キ公證人ハ第七十五條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス

(公證人請訓二八ノ一二ノ二二局長回)

(參照)

公證人規則第二十九條

左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第八章 銃砲取締規則

(一) 明治五年第二八二號銃砲取締規則違犯事件ハ裁判所ニ於テ處分スヘキモノトス 58

(新潟檢正問三〇ノ一一ノ一七民刑甲第一九九號局長回)

(二) 從來銃砲火藥類取締法及施行規則並ニ施行細則ハ官廳及官ノ事業ニ適用スル限

リニ無之候處爾今工事其他ノ事業ニ火藥類使用ノ場合ハ授受運搬貯藏ノ方法等該法

令ノ規定ニ準據シ取扱フヘシ

(三三ノ八ノ二六司法省會檢甲第二三三號訓令)

第九章 鐵道略則

鐵道略則第十一條違反ハ其構内へ立入ルノミニテハ其罪ヲ構成セス立去ラシムル手段ニ從カハサルコトヲ要ス

(福岡檢正問二九ノ一一ノ九局長回)

(參照)

鐵道略則第十一條 鐵道地所へ妄リニ立入者取扱方ノ事
何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道構内へ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外へ立去ラシムヘシ

第十章 戶籍法

(一) 改正戶籍法ヲ實施スル前ニ舊法ニ依ル出生又ハ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ怠リ去ル三十二年七月十六日以後ニ届出ツルモノアルト雖トモ此ノ如キ場合ハ改正戶籍法ノ頒布以前ニ係ル違犯事件ナルヲ以テ同法第二百十條ニ因リ罰スルコトヲ得サルモノトス

(神奈川縣橫須賀町戶籍吏伺三二ノ七ノ二九民刑第六四八號局長回)

(參照)

戶籍法第二百十條

本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

(二) 戶籍法第二百二十五條五日以内ト云フ法文ニ重キヲ置キ死體ヲ二十四時間後ニ無届

ニテ埋葬シタル場合ハ戶籍吏ハ埋葬規則違犯ノ廉ヲ以テ告發スヘシ

(千葉縣飯高村戶籍吏代理助役伺三二ノ一〇ノ一民刑第一〇八七號局長回)

(參照)

戶籍法第二百二十五條

死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日以内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢案書又ハ警察官ノ檢視圖書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
 - 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
 - 三 死亡者カ家族オルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト死亡者トノ續柄
- 前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコト

ヲ得

(三) 出產死亡屆失期事件ノ如キハ大審院總會議ニ於テ繼續犯(明治二十一年二月一日刑
 第一一三號通牒)ト決定シタルモ之ヲ變更シ即時犯トシテ處分スヘキモノトス
 (二五ノ一〇ノ二一參刑甲第三八六號通牒)

第十一章 賣藥規則

明治十年布告第七號賣藥規則第二十四條ニ所謂ル沒入ストアルハ追徵ノ意ナリ

67

(松山檢正問三〇ノ四ノ二局長回)

(參照)

賣藥規則第二十四條

諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ假造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒
 入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十二章 質屋取締法

(一) 質屋取締法第十六條ハ贓物ノ裁判所又ハ檢事局ノ保管ニ係ラサル場合ノ規定ナル

69

ヲ以テ裁判所又ハ檢事局ノ保管ニ在ル間ハ警察官ニ於テ還附ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 ス

(七尾區檢問二九ノ五ノ五局長回)

(二) 司法警察官ニ於テ假豫審處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其事件ヲ檢事ニ送致ス可キモ
 ノナルニ付キ從來ノ慣例ニ從ヒ贓物ノ假下ヲ爲スノ外質屋取締法第十六條ニ依リ警
 察上ノ處分トシテ贓物ヲ被害者ニ還付不可キモノニ非ス

(七尾區檢問二九ノ五ノ二五局長回)

(參照)

質屋取締法第十六條

贓物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコト
 ヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

71

第十三章 古物商取締法

(一) 國立銀行營業者ニシテ舊金銀貨幣ヲ賣買スル者アリ其理由ヲ叩ケハ即チ日夕明治
 九年第百六號公布國立銀行條例第五十二條ニ所謂金銀ノ地金ナルヲ以テ賣買スト然

72

ルニ明治十六年第五十號布告舊古物商取締條例第一條ニハ明ラカニ潰金銀ナル名稱ヲ掲ケ以テ業既ニ人エヲ加ヘタル製作物ハ其性質上ニ於テ地金ト稱シ得ヘカラサルコトヲ分別シ明治二十八年三月法律第十三條現行古物商取締法第一條ニ於テハ主トシテ一度使用シタル物品云云ノ文詞ヲ以テ一ノ定義ヲ與ヘタリ右法律ノ精神ト沿革トニ依テ考察スルニ始メ國立銀行條例ヲ制定スルニ當リテハ蓋シ地金銀ト潰金銀即チ一旦主トシテ使用セラレタル製作物トハ分別セサルヤモ未タ知ル可カラスト雖トモ苟モ舊古物商取締條例ニ於テ潰金銀ナル名稱ヲ掲ケテ以テ製作物ト地金トハ畫然其物質上ニ於テ之レカ區別ヲナシ從テ現行古物商取締法ニ在テモ主トシテ一度使用シタル物品云云ノ定義ヲ示シ以テ彌其區別ヲ判明ナラシメタル以上ハ假リニ國立銀行條例第五十二條ノ所謂地金銀ナル文字ニ舊金銀貨幣ヲ含蓄セシモノトスルモ舊古物商取締條例施行ノ當時ヨリ國立銀行營業者ハ舊金銀貨幣ヲ以テ地金ト爲シ賣買シ得ヘカラサルハ法文ニ明示スルカ如ク物質上自然ノ區別ヨリスルモ法律自體ノ解釋ヨリスルモ右ノ如ク斷セサル可ラス何トナレハ國立銀行條例第五十二條ト新舊古物商取締法トノ現ニ抵觸スル場合ニ在テハ新法令ヲ以テ有效ノモノト爲スハ解法上當然ノコトニシテ尙其賣買ノ實況ヨリ云フ時ハ古物商ノ舊金銀ヲ賣買スルハ極メテ少數

ニシテ其多分ハ銀行ニ於テ賣買ス然ルニ其多數ノ賣買者ニハ自由賣買ヲ許ルシ少數ノ賣買者ニ對シテハ嚴重ノ取締ヲ爲ス此ノ如クニシテ猶可ナリト云ハハ古物商取締法ハ多分ノ部分ハ已ニ死シテ一部ニ存スル半死半生ノ法ニシテ豈賍物ノ輾轉ヲ妨止スルノ目的ヲ徹スルヲ得ン故ニ國立銀行營業者ニシテ古物商取締條例施行以後ニ於テ舊金銀貨幣ヲ賣買セシモノハ同條例違反ノ所爲ト見ル可キハ當然ノコトト言ハサルヘカラストノ問合ニ對シ金銀銅ニシテ法定ノ價格ヲ有セス其分量ヲ以テ價格ノ標準ト爲スモノハ製作物ナルト否トニ拘ラス國立銀行條例第五十二條中金銀銅ノ地金トアルニ包含スヘク而シテ國立銀行條例ハ古物商取締條例又ハ古物商取締法ノ爲メニ變更ヲ受クヘキモノニ非サルニ付國立銀行營業者ニ於テ舊金銀貨幣ヲ賣買スルモ古物商取締法違反ト謂フコトヲ得ストノ回答アリ

〔新潟地檢問二九ノ一ノ三二局長回〕

(參照)

(一)國立銀行條例第五十二條

此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ引受ケ貸シ抵當 貸付ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形約束手形代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ

公債證書外國貨幣並ニ金銀銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩換等ノ事ヲ以テ營業ノ本務ト爲スヘシ

(一) 舊古物商取締例條第一條

古物商トハ古道具、古本、古書畫、古著、古銅鐵、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋、小間物屋、靴甲屋、時計屋、飾屋、箱打屋、煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

(三) 明治二十八年三月法律第十三號古物商取締法第一條

古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

(二) 古物商取締條例ニ於テ古物商免許ハ一地方限リ效力ヲ有シ他管内ニハ其效力ヲ及ボサス

(二四ノ八ノ一一刑甲第三四〇號訓令)

第四編 領事職務條約

第一章 領事ノ最惠國待遇

第一 領事ノ最惠國待遇ニ關スル規定ノ解釋

一 日瑞兩國間ニ領事職務條約ノ締結ナクモ相互報酬ノ條件アルニ於テハ瑞西國領事官ハ獨國又ハ白國領事官ヲ領事職務條約ノ規定ニ因リ執行スル權限及職務ト同一ナル一切ノ權限及職務ヲ執行スルコトヲ得然レトモ果シテ現實ニ相互報酬ヲ認ムルヤ之ヲ認ムル事項如何等ニ就テハ彼我ノ間豫メ之ヲ承知シ置クノ必要アルヲ以テ差當リソレ迄ハ別段ノ手續ヲ爲スニ及ハサルヘシ

二 最惠國領事官カ執行スル一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得ル趣旨ナリサレハ日獨及日白間ノ如キ領事職務條約ニヨリ相互報酬ノ條件ヲ以テ彼我駐在ノ領事官ニ許與シタル特別ノ權利並ニ職權ハ同一ノ相互報酬ナクシテ單ニ日英通商航海條約第十六條ニ據リテ英國領事官ニ屬スヘシトハ理會セス

三 獨逸國又ハ白耳義國領事官カ領事職務條約ニヨリ相互報酬ノ條件ヲ以テ許與セ

ラレタル特別ノ權利職權等ハ同一ノ相互報酬ナクシテハ他國ノ領事官ニ於テ當然
之ヲ享有スル趣旨ニ非ス

四 相互報酬ノ事實アルヲ以テ足ル趣旨ナリ

(三二一ノ七ノ三二民刑甲第一七二號次官通牒)

第二 相互報酬ノ條件發生ノ識別方法

日獨又ハ日白領事職務條約ニヨリテ始メテ許與セラレル特別ノ權利及職權ヲ他ノ外
國領事官ニ許與スルコトニ關シ相互報酬ノ條件發生スルトキハ外務省ニ於テ司法省
ノ知リ得ラルヘキ相當ノ手續ヲ爲スヘク又目下獨國及白國以外ニ右相互報酬ノ條件
發生セル締盟國ナシ

(三二一ノ九ノ一〇民刑甲第二二六號次官通牒)

第二章 領事ノ特典ニ關スル國際慣例

第一 領事官又ハ事務代理者ハ重罪ヲ犯シタル場合ヲ除クノ外ハ拘留セサルヲ適當ト
ス

第二 領事官又ハ事務代理者ヲ引致シタルトキハ之ヲ引致シタル國ノ政府ヨリ直ニ其

旨ヲ該領事官又ハ事務代理者ノ所屬國ノ公使ニ通知スルヲ適當トスルヲ以テ此ノ場
合ニ於テハ速ニ司法大臣ニ報告スヘキモノトス

第三 裁判所ニ於テ領事官又ハ事務代理者ノ證言ヲ聽クコトヲ要スルトキハ公文ヲ以
テ其出廷ヲ請求スヘキモノトス但領事官又ハ事務代理者カ日本帝國臣民ニアラス且
商業ヲ營マサルトキニ限ル

第四 民事ノ場合ニ於テ領事官又ハ事務代理者カ職務ノ爲メ出廷スル能ハサルトキハ
判事ハ其居宅ニ就キ供述ヲ聽クヘキモノトス

第五 領事館ノ記録ハ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得サルモノトス

第六 犯罪取調ノ外領事官又ハ事務代理者ノ事務所及居宅ニ侵入スヘカラス又犯罪取
調ノ爲侵入シ得ル場合ト否トヲ問ハス該事務所及居宅ニ在ル公ノ書類ハ之ヲ檢閲シ
又ハ差押フルコトヲ得サルモノトス

第七 領事官又ハ事務代理者カ其職務ヲ以テナシタル證明ハ帝國ノ公證人又ハ當該官
吏公吏若シクハ判事ノ登錄證明シタルト同一ノ效力アルヤ否ヤハ帝國國法ノ定ムル
所ニ依ル

第八 領事官又ハ事務代理者ハ其本國ノ法律ニ從ヒ其國臣民間ノ婚姻ヲ取扱フコトヲ

得但シ其婚姻ノ帝國法律上有效ナリヤ否ヤハ帝國法律ノ定ムル所ニ依ル

第九 領事官又ハ事務代理者ハ其本國ノ法律ニ從ヒ其國臣民ノ出生及死亡ヲ證明スルコトヲ得

第十 領事官又ハ事務代理者ハ帝國國法ニ背反セサル限ハ其本國ノ法律ニ從ヒ本國臣民ノ後見人及及保護人ヲ命シ後見及保護ノ施行ヲ監督スルコトヲ得

第十一 領事官又ハ事務代理者自國人ノ死亡シタルトキハ帝國國法ニ背反セサル限ハ其ノ本國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺産ヲ管理シ之レヲ相續人ニ引渡スコトヲ得

第十二

イ 國際慣例上外國人死亡スルモ裁判所ヨリ之レヲ所在國ノ領事官又ハ事務代理者

ニ通知スルノ義務ナシ但地方官警察規則等ニ依リ之レヲ通知スルハ格別トス

ロ 領事官又ハ事務代理者ハ其國人ノ死亡シタルトキ其所有品ニ對シ帝國國法上效力アルヘキ封印ヲ施スコトヲ得ルヤ否ヤハ帝國國法ノ定ムル所ニ依ル

ハ 國際慣例上外國人死亡シタルトキ裁判所ヨリ其死亡者ノ遺産處分ノ開示及相續人債權者ノ徵招ニ關スル廣告ヲナシ其旨ヲ所屬領事官又ハ事務代理者ニ通知スルノ義務ナシ

ニ 領事官又ハ事務代理者ハ帝國國法ニ背反セサル限ハ前項死亡者ノ動産ヲ競買スルコトヲ得

ホ 國際慣例上領事官又ハ事務代理者カ前項ノ動産ヲ賣却シ其代金ヲ地方ノ當該官廳ニ預ケントスルモ地方當該官廳ハ之ヲ預カラサルヲ得サルノ義務ナシ

ヘ 領事官又ハ事務代理者ハ帝國國法ニ背反セサル限ハ前項死亡者ノ動産及不動産維持ノ爲メ相續人ノ利益ト認ムル處置ヲ爲スコトヲ得

ト 遺産相續權又ハ遺贈ニ關スル事項ハ駐在國ノ裁判所ニ專屬セス死亡者ノ本國ノ裁判所ニ於テモ裁判スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリトス

チ 國際慣例上領事官又ハ事務代理者ハ死亡者ノ遺産事件ニ關シ相續人ヲ代表スルノ權アリト謂フコトヲ得ス但遺産管理人ノ資格ヲ以テ訴訟ヲ爲スハ格別トス

リ 國際慣例上外國人カ其所屬國領事官又ハ事務代理者ノ駐在セサル場所ニテ死亡スルモ地方ノ當該官廳ハ其國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺産目錄ヲ調製シテ領事官又ハ事務代理者ニ送付スル義務ナシ

ヌ 領事官又ハ事務代理者ハ其本國ノ海員船客旅行者カ日本ノ版圖内ニ於テ死亡シタルトキハ帝國國法ニ背反セサル限ハ其遺産目錄ヲ調製シ及遺産ノ維持清算ニ關

シ必要ナル取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三 地方官吏公吏ハ領事官又ハ事務代理者ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ通知ヲナササルモ外國商船ニ赴キテ取調引致差押搜索訊問其他各般ノ強制的處分ヲ施スコトヲ得但事ノ行違ヲ豫防スル爲メ便宜ニ之レヲ領事官又ハ事務代理者ニ通知シタル後商船ニ赴クハ格別ナリトス

第十四 外國商船ニ於テ生シタル紛議ニシテ港内若シクハ陸上ノ安寧秩序ヲ妨害スル場合若シクハ其ノ船ノ役員及海員外ノ者ニシテ右紛議ニ關係シタル場合ヲ除クノ外ハ我裁判所ハ之ニ關涉セサルヲ適當トス

第十五 領事官又ハ事務代理者ハ自國船舶ノ航海中ニ受ケタル損害ヲ決定シ得ヘキモノトス(駐在國臣民又ハ第三國民ノ本件ニ關係ヲ有スル場合ヲ除ク)右ノ各事項ニ付條約ノ規定ニ依ルヘキモノハ此限ニアラス

(三三三ノ四ノ一九民刑第三三〇號次官通牒)

但國際慣例ニ於テ一般ニ認メラレタル領事ノ特典ハ例令之ヲ領事職務條約ニ記入スルトモ別ニ其性質ヲ變更スルコトナシ

(三三三ノ九ノ一〇民刑甲第二二六號次官通牒)

第三章 各國領事ノ待遇

第一 伊太利、和蘭、瑞典、諾威

伊太利國和蘭國又ハ瑞典諾威國ニ於ケル帝國領事ニハ伊國蘭國又ハ瑞典諾威國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨在本邦伊國公使蘭國公使及瑞典諾威國外交事務取扱ヨリ夫夫申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル伊國領事又ハ瑞典諾威國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メタリ

(三三三ノ三ノ一九民刑甲第二九號次官通牒)

第二 瑞西

瑞西國ニ於ケル帝國領事ニハ瑞西國カ國際慣例ハ勿論領事職務條約ニ據リテ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨在本邦瑞西國總領事館事務取扱獨逸國總領事ヨリ申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル瑞西國領事ニモ帝國カ領事職務條約ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與ス

ルコトヲ認メタリ

(二三ノ九ノ一五民刑第一三二五號總務長官通牒)

第三 佛蘭西

佛蘭西國ニ於ケル帝國領事ニハ佛國カ領事職務條約ハ勿論其他ノ條約ニ據リテ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ享有セシムルコトニ有之候旨佛國政府ノ意見相確メ候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル佛國領事ニモ帝國カ領事職務條約等ニ據リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ許與スルコトヲ認メタリ

(二三ノ四ノ九次官通牒)

第四 丁抹

丁抹國政府ニ於テハ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特典特權及免除ハ特別ノ領事職務條約ニ據リテ許與スルモノト雖モ均シク同國駐在帝國領事ニ之ヲ享有セシムヘキ旨帝國駐劄同國外交事務官ヨリ申越候ニ付之ト相互ニ帝國ニ於ケル丁國領事ニモ亦帝國カ領事職務條約等ニ依リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權特典及免除ヲ許與スルコトヲ認メタリ

(二三ノ七ノ二五民刑第一〇九六號總務長官通牒)

第五 葡萄牙

葡萄牙國政府ニ於テハ最惠國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ハ特別ノ領事職務條約ニ據リテ許與スルモノト雖モ均シク全國ノ圖版内ニ駐在スル帝國ノ領事ニ之ヲ享有セシム可キ趣意ニ日葡通商航海條約第十五條ヲ解釋スヘキ旨本國政府ノ訓令ニ從ヒ帝國駐在同國臨時代理公使ヨリ本月二十四日付公文ヲ以テ申越候ニ付帝國政府ニ於テモ亦帝國カ領事職務條約等ニ依リ別國領事ニ許與スル一切ノ特權免除及特典ヲ帝國駐在ノ葡萄牙國領事ニ許與スルコトニ該條ヲ解釋スヘキ旨回答セリ

(三四ノ九ノ二八民刑甲第二九五號)

丁 雜 部

第一章 外國人ニ關スル取扱方

(一)從來外國人カ内國人ニ對シ殺傷等ノ現行犯アリタル場合ハ明治七年太政官第百二十八號達第六條ニ依リ司法警察官ニ於テ其犯人ヲ取押ヘ氏名住所ヲ聞糺シ直チ二人頭ハ其外國領事ニ引渡シ事件ハ關係書類ヲ具シ司法警察官ヨリ裁判所檢事ニ送致シ檢事ヨリ其外國領事ニ求刑シ來ル實例ナリシモ其外國領事派遣ナキ外國人カ右犯罪アリタル場合其犯人引渡方ニ付テハ從來別段ノ達等モナク亦函館ニ在テハ斯ル場合ノ事件前例モ幸ニナカリキ然ルニ近來領事派遣ナキ外國ノ艦隊又ハ軍艦等入港數日間碇泊スル時時アリ而シテ其水兵等カ上陸ヲ爲スニ當テハ從來英國艦隊乗込ノ兵員等ハ内國人ノ車夫其他下等勞働者等ト闘争スル事故ヲ珍シカラサル程ナリシモ他ノ外國艦隊乗組兵員ト雖モ斯ル事件ナキヲ保シ難ク然ルニ函館ニ在テハ英魯支那三國ハ領事派遣シアルモ其他ハ悉ク領事派遣ナキニ付前段ノ場合取押タル犯人引渡ノ義如何スヘキヤト云フニ○犯人ヲ管轄領事駐在地ノ檢事ニ護送セシムヘシ若シ其

外國人ニ關スル取扱方

事件ノ模様ニ因リ犯人ヲ拘束ヲ必要トセサルトキハ之ヲ放還シ置キ又ハ艦長ノ承諾アルニ於テハ意見ノ通艦長ニ引渡シ置書類ノミヲ送致ス可シ但明治七年太政官第百二十八號達ハ外國公使及公使館屬員等ノ取扱ニ關スル規定ニシテ一般外國人ニ關スルモノニ非ス

(函館檢正伺二八ノ九ノ三訓令)

(参照)

明治七年太政官第百二十八號達第六條

外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ハ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手續捕縛等ノ事アル可カラズ或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

(二)外國軍艦乗組員陸上ニ於テ罪ヲ犯シ之ヲ逮捕シタルトキハ其都度所屬國領事若クハ所屬艦長ニ通知ス可シ 3

(二四)一ノ一〇民刑甲第一二三號訓令

(三)内外交渉事件ニ於テ外國領事裁判所カ原告タル本邦人ニ保證金ノ前納ヲ命スルトキハ該領事裁判所所轄ノ外國人我裁判所ニ出訴シタル場合ニ於テモ均シク之レニ保證金ヲ前納セシム可シ

(二三)ノ四ノ二三民第六四九號訓令

第二章 帝國領事ヘノ通信及囑託

一 通信

裁判所及檢事局ヨリ在外我領事ニ對スル通信ハ左ニ記載スル事項ニ限リ直接通信スルコトヲ定メタリ

- 一 訴答狀召喚狀及呼出狀ノ送達
 - 一 判決決定命令及通知書ノ送達
- 前二項ノ外清國及朝鮮國駐在我領事ニ對シテハ猶左ニ記載スル事項ヲモ直接通信スルコトヲ得
- 一 長崎控訴院及長崎地方裁判所、福岡地方裁判所、熊本地方裁判所並ニ其管轄區

裁判所ハ其現ニ取扱フ訴訟事件ニ付キ特ニ急速通信ヲ要スル事項(二四ノ一〇ノ二三民刑甲第三一一號訓令ヲ以テ改正)

- 一 本年二月司法省參甲第四一號ノ乙訓令既決犯罪事件ノ通知ニ關スル事項(二五ノ七ノ五記甲第一二二二號訓令)

(參照)

二十五年閣令第四號

各官廳ニ於テ公務上在外公使領事ヲ煩ハササルヲ得サルコトアル時ハ事ノ大小ヲ論セス總テ之ヲ外務大臣ヘ照會又ハ稟請スヘシ但豫メ外務大臣ノ承諾ヲ經テ直接通信ヲ爲スハ此限ニアラス

二 囑託

(一) 内地裁判所ヨリ我ニ治外法權ナキ外國ニ滞在スル我臣民ヘ宛召喚狀及訴狀等送達方ヲ我領事ニ囑託スルニハ總テ當省ヲ經由ス可シ

(二三ノ二ノ一二民第九五號訓令)

(二) 内地裁判所ニ於テ言渡シタル民刑事事件ノ判決ハ公法上ノ通義ニ因リ國外ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得ス隨テ清國朝鮮國ニ在留スル我國臣民ニ對シ内地ニ於テ

言渡シタル判決ノ執行ヲ該國駐在ノ帝國領事ヘ囑託スヘキモノニアラス
(二五ノ九ノ二七參刑甲第三三〇號訓令)

第三章 臺灣ト内地裁判所トノ關係

- 一 内地ノ犯罪ハ被告人カ臺灣ニ在ルノ故ヲ以テ其事件ヲ臺灣總督府法院ニ送致スヘカラス
- 一 臺灣ノ犯罪ニ付被告人カ内地ニ在ルノ故ヲ以テ内地ニ告訴告發等起リタルトキハ直チニ其事件ヲ臺灣總督府法院ニ送致スヘシ
- 一 内地ト臺灣トノ刑ハ通算執行スヘカラス
- 一 刑ノ執行ハ互ニ囑託スルコトヲ得ス
(二六ノ五ノ八民刑甲第一一〇號訓令)

(參照)

(一) 明治二十三年法律第八十三號裁判所臺灣總督府法院共助法

第一條 民事及刑事ニ關シ裁判所及臺灣總督府法院ノ間ニ於テハ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一 訴訟書類ノ送達

二 證據調

三 令狀ノ執行

第二條 共助ニ關スル費用及囚人刑事被告人ノ押送ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(一)内地ニ於テ罪ヲ犯シ其踪跡ヲ晦マシタルニ依リ捜査ノ結果臺灣ニ在ルコトヲ知リタル場合ニ於テハ臺灣總督府法院檢察官ニ囑託シ得ルヤト云フニ内地ニ於テ罪ヲ犯シ臺灣ニ在ル者ノ處分ニ付テハ明治三十三年法律第八十三號ニ掲クル事項ノ外臺灣總督府法院檢察官ニ其囑託ヲ爲スコトヲ得ス

(宮城檢長稟申三四ノ八ノ八八民刑甲第一二二六號訓令)

(三)二十九年五月臺灣總督府律令第壹號ヲ以テ同府法院條例制定セラレタルニ付テハ從來ノ軍法會議トハ違ヒ一種ノ普通裁判所ト敢テ異ラサルモノノ如キモ裁判所構成法ニ定メラレタル普通裁判所トハ其組織ヲ異ニシ且臺灣ハ刑法竝ニ刑事訴訟法ハ勿論監獄則モ未タ施行セラレサルカ故ニ臺灣各法院ニ對シ管内裁判所ヨリ刑事訴訟法ニ依リ刑ノ執行ヲ囑託シ若クハ法院ヨリ執行其他其囑託ヲ受ケルトキハ

左ノ通り取扱フヘシ

第一 内地ノ裁判所ニ於テ處斷シタル輕罪重罪ノ受刑者逃走シテ臺灣地方ニ居住スル者ハ臺灣地方法院檢察官ニ刑ノ執行ヲ囑託シ得ヘク單ニ逮捕護送スルコトヲ囑託ス可キモノニアラス

第二 内地ノ裁判所ニ於テ罰金刑ニ處シタルモノ又ハ換刑命令ヲ受ケタルモノ及沒收追徵處分ヲ爲スホキモノ等彼地ニ在ルトキハ其徵收執行ヲ囑託シ得ヘシ但其徵集金ハ送附ヲ求ムルニ及ハス

第三 内地ニ於テ罪ヲ犯シタルモノ彼地ニアルコトヲ知リタルトキハ法院ノ管轄ニ屬スルモノトナシ管轄法院ノ檢察官ニ其處分ヲ照會スルコトヲ得

第四 總督府律令ニ依リ處斷シタル刑事被告人ノ執行又ハ令狀ヲ以テ其ノ執行ヲ内地ノ檢事ニ囑託シ來リタルトキハ一般ノ手續ニ從ヒ處分スヘシ但其律令ニ就テ刑名等普通刑ト異リタルモノハ執行ノ囑託ニ應スルコトヲ得ス

第五 彼地法院檢察官ヨリ囑託アリタル罰金其他徵集金ハ普通手續ニ依リ金庫ニ納入スヘク囑託ノ法院ニ送附スヘキモノニアラス

(長崎檢長請訓二九ウ一二之二訓令)

(四) 竊盜罪ニ依リ缺席ノ儘重禁錮一年六月監視十月ニ處セラレタルモノアリ其所在
 捜査中ノ處現ニ臺灣ニ渡航シ嘉義縣城内ニ在リテ野戰砲第二聯隊第二中隊附軍夫
 トシテ使役セラレツツアル趣本人ノ通信ニテ明確ナリ此場合ニハ直ニ逮捕狀ヲ發
 シ其執行及遞傳護送方ヲ臺灣總督ニ囑託スルモ差支ナシ

(水戸檢正伺二九ノ二ノ四訓令)

(五) 豫審中ニ係ル詐欺取財事件ノ被告人ニシテ豫審判事ヨリ數回拘引狀ヲ發シタル

モ其踪跡ヲ得ス捜査中臺灣總督府雇員トシテ出張シタル者ニ隨從シ渡航シタル趣
 確報ヲ得タリ然ルニ同所ニハ未タ普通裁判所設置ナキニ付内地ニ於ケル逮捕囑託
 手續ニ依テ本年七月二日勅令第九十二號ヲ以テ臨時陸軍軍法會議ヲ設ケラレ其第
 四條ニ陸軍檢察ニ關スル職務ハ陸軍治罪法第三十一條ニ從ヒ憲兵ノ將校下士等ニ
 於テ取扱フ可キノ明文アルニ付令狀執行傳遞送致ノ義該將校ニ囑託スヘキヤト云
 フニ○臺灣總督ニ對シテハ逮捕ヲ囑託スルコトヲ得但囑託ニ關スル書類ハ臺灣事
 務局ヲ經由スルニ及ハス

(東京檢正上申二八ノ八ノ二六訓令)

(參照)

(二) 明治二十八年勅令第九十二號第四條

臨時陸軍軍法會議ヲ設ケタル軍衙ノ長官若クハ團隊ノ長ノ其ノ軍法會議ニ關スル
 職務ハ陸軍治罪法第四條ノ長官ニ同シク其ノ副官及其ノ職務副官ト同シキ者ノ陸
 軍檢察ニ關スル職務ハ陸軍治罪法第三十一條ノ諸官ニ同シ

(三) 陸軍治罪法第四條

長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及合圍地ノ司令官ヲ謂フ

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 憲兵ノ將校下士
- 二 師團副官
- 三 旅團副官
- 四 警備隊司令官

第四章 犯罪通知

第一節 犯人ノ種類ニ依ル通知

第一 華族ノ犯罪

第四章 犯罪通知

華族(位記ノ有無且月主隱)ニ對シ左ノ處分ヲ爲シタルトキハ豫審判事又ハ裁判所ノ處分ニ係ルモノハ裁判所ヨリ檢事ノ處分ニ係ルモノハ檢事局ヨリ其都度遅延ナク直接宮内省爵位局ニ報告ス可シ但明治十六年當省丁第三十二號達ハ之ヲ廢止ス

(二六ノ六ノ二二民刑甲第一五一號訓令)

第一 拘留ヲ爲シタルトキ

第二 保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シタルトキ

第三 被告人拘留セラレタルト否トニ拘ハラヌ豫審ニ於テ免訴管轄違又ハ公判ニ附スルノ決定ヲ爲シタルトキ

第四 被告人拘留セラレタルト否トニ拘ハラヌ公判ニ於テ無罪免訴管轄違又ハ刑

言渡ヲ爲シタルトキ但違警罪ノ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ヲ除ク

第一ニ付テハ罪名及ヒ拘留ヲ爲シタル年月日第二ニ付テハ保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ

取消シタル年月日ヲ記載シ第三第四ニ付テハ上訴期間ノ經過ヲ待チ其裁判ニ對シ上

訴アリシヤ否ヲ記載シ且裁判言渡書ノ原本ヲ添附ス可シ但第二審ニ於テ放免言渡

ヲ爲シタルトキハ上告期間ノ經過ヲ待タズ直ニ報告ヲ爲ス可シ

(參照) 第三十二號達

明治十六年司法丁第三十二號達

華族ノ輩(位記ノ有無且月主隱)罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ原本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相達候事

第二 勅任官有位帶勳者ノ犯罪

(一) 勅任官有爵者從四位勳三等功三級以上ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ

犯シタルトキニ限リ奏聞シタル後起訴シ其現行犯罪ニ係ルモノハ起訴シタル後奏聞スヘシ

(二) 勅任官有爵者從四位勳三等又ハ功三級以上ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ

罪ヲ犯シタルトキハ當該檢事局ノ長ハ右通達ノ趣旨ニ從ヒ犯人ノ身分氏名及犯罪ノ事實ヲ當省ニ具申スヘシ

(三) 勅任官有爵者從四位勳三等又ハ功三級以上ノ者ノ犯罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

ルヘキモノトシテ起訴セラレタル事件ノ處分完結シタルトキハ最終ノ處分ヲ爲シ

第二項ニ該當スル者アルトキハ其處分ヲ爲シ又ハ公訴ヲ受ケタル裁判所ノ長(區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ヲ包含ス)ヨリ其都度速ニ所轄府縣知事ニ報告ス可シ

第一 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其宣告ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ受ケタルトキ及復權ノ決定アリタルトキ

第二 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキ及其裁判ノ確定シタルトキ

第三 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキ及其事件ニ付免訴又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタルトキ又ハ公權停止ヲ附加セサル輕罪若クハ違警罪ナリト思料シ其裁判所ノ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シタルトキ(三三ノ八ノ二三民刑甲第七〇號訓令ヲ以テ改正)

(三三〇ノ一一ノ一九民刑甲第一九〇號訓令)

(參照)

郡制第四十六條

郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス

名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

(二)北海道區町村吏員及區町村會議員ニシテ左ニ記載シタル事項ニ該當スルモノアルトキハ其處分ヲ爲シ又ハ公訴ヲ受ケタル裁判所ノ長(區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ヲ包含ス)ヨリ其都度速ニ北海道廳長官ニ報告ス可シ

一 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其宣告ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ受ケタルトキ及復權ノ決定アリタルトキ

二 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキ及其裁判ノ確定シタルトキ

三 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキ及ヒ其事件ニ付免訴又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタルトキ又ハ公權停止ヲ附加セサル輕罪若クハ違警罪ナリト思料シ其裁判所ノ輕罪公判ニ付シ又ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シタルトキ

(三三ノ八ノ二三民刑甲第五九號訓令)

第七 神職任職等ノ犯罪

神社神職又ハ寺院住職若クハ神佛教師ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノアルトキ
ハ其處分ヲ爲シタル裁判所ノ長(區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ヲ包含ス)ヨリ其都度速ニ所轄府縣知事ニ
報告スヘシ

- 一 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其裁判確定シタルトキ及ヒ復權ノ裁判確定シタルトキ
- 二 剝奪公權若クハ停止公權ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタルトキ

〔三五ノ一〇ノ一五民刑甲第一四二號訓令〕

第八 船員ノ犯罪

- (一) 船長運轉手機關手ノ免狀ヲ有スル者其職務ニ從事シ航海若クハ碇泊中過失懈怠ニ因リ難破衝突等ノ事件ニ付キ公訴ノ提起アリタルトキハ海事審問ハ停止スヘキ成規ナルモ往往海事審問ノ時機ヲ失シ不都合少ナカラサルニ付キ此等ノ事件ニ對シ刑事證據ノ充分ナルモノノ外成ル可ク海事審問ヲ先ニシ公訴ノ提起ヲ後ニスヘシ
- 〔二六ノ三ノ一二民刑甲第六七號局長通牒〕

(二) 明治二十九年法律第六十八號ハ十四年布告第七十五號ニ代リタルニ過キサレハ十六年當省丁第二十一號達ハ尙現存ス但官制改革ノ結果遞信省ヘ通知スヘキコトニナレリ

〔尾道區監問三二ノ三ノ一六民刑甲第二九號局長回〕

(參照)

- (明治二十九年法律第六十八號ハ船舶職員法ナリ)
- (明治十四年布告第七十五號ハ西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則ナリ)
- 明治十六年司法省丁第二十一號達

明治十四年十二月第七十五號公布西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名竝宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務省ヘ通牒スヘシ此旨相達候事

第九 醫師、藥劑師、產婆等ノ犯罪

- (一) 醫師タル者醫業ニ關スル犯罪ハ裁判確定ノ上言渡書謄本相添被告人住居地ノ府縣知事ヘ通知スヘシ
- 〔二四ノ二ノ七刑甲第五二號訓令〕

(二) 藥劑師藥種商製藥者賣藥營業者產婆等ニ關スル犯罪事件明治二十四年二月當省刑甲第五二號訓令ニ準シ東京府知事へ通知スヘシ 34

(二五) 一〇ノ一參事官通知)

(三) 產婆ノ犯罪事件アルトキハ裁判確定ノ上言渡書曆本相添へ犯人居住地ノ府縣知事北海道廳長官へ通知スヘシ 35

(三三) 一五ノ一二民刑甲第四五號訓令)

第十 被告人ノ犯罪

(一) 大審院ニ於テ拘留中ノ被告人ニ對スル事件ノ上告又ハ再審ノ訴ニ付原判決破毀ノ上事件移送ノ言渡アリタル場合及死刑ヲ言渡サレタル被告人ニ對スル事件ニ付上告棄却ノ言渡アリタル場合ト雖トモ監獄ニ於テハ從來其月日ヲ速知スルノ方法無之カ爲メ被告人ノ處遇上竝ニ滯獄製表上毎毎不便ヲ感スルニ付爾後前掲ノ場合ハ其言渡月日ヲ當該監獄典獄へ通報スヘシ
(三八) 一五ノ一監甲第三二一號獄務課長通牒)
(二) 保釋責付中ノ被告人ニ對シ無罪免訴又ハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ言渡ヲ爲シタルトキハ其都度檢事ヨリ無遺漏司獄官へ通知スヘシ 37

(一七) 一ノ二九第四七八號內訓)

第二節 犯罪ノ種類ニ依ル通知

第一 重大事件ノ報告

明治十八年十一月十六日付達毎三箇月報告ヲ廢シ自今左ノ各項ニ付キ報告ヲ爲ス可シ 38

第一項 重大又ハ特別ノ犯罪ニシテ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ事件及ヒ内外交渉事件ニ付テハ迅速ヲ旨トシ直ニ本大臣ニ報告ヲ爲ス可シ

第二項 司法政務ニ關スル直接又ハ間接ノ事項ト雖トモ別段緊要ナルモノニ付テハ前項ニ從ヒ臨時報告ヲ爲ス可シ

第三項 ハ未決囚徒ニ關スル表記(省略)
(二五) 九ノ五參刑甲第三三五號訓令)

第二 既決犯罪ノ通知

既決犯罪ノ通知ハ戶籍吏ニ爲スヘキモノトス

(那覇檢正問三一ノ八ノ一八民刑第一〇四〇號局長回)

第三 復権ノ通知

家資分散若クハ破産ノ決定確定シタルトキ又ハ復権許可ノ決定確定シタルトキハ其都度裁判所ヨリ家資分散者若クハ破産者ノ本籍市區町村長ニ其旨ヲ通知スヘシ
(二七ノ四ノ二三民刑第一〇四號訓令)

第四 往來妨害事件ノ報告

汽車往來妨害事件ニ關スル報告書ハ自今局長宛親展ヲ以テ進達スヘク尙豫審決定(有罪又ハ免訴共)アリタル際ニモ其都度報告スヘシ
(二七ノ七ノ二八民刑甲第二九四號民刑局長代理通牒)

第五 貨幣偽造事件ノ通知

金銀銅貨幣及紙幣(政府及銀行ノ發行共)ノ偽造變造ニ關スル犯罪事件ノ判決言渡アリタルトキハ其謄本一部直チニ大藏省主計局ヘ送致ス可シ
(二五ノ三ノ一六參刑甲第二二六號訓令)

第六 選舉ニ關スル事件ノ報告

衆議院議員選舉ニ關スル訴訟又ハ告訴發等アリタルトキ内務省ヘ報告方ニ付キ明治二十四年參刑甲第三四二號ヲ以テ訓令セルモ自今法律ノ規定アル場合竝ニ左ニ記

34

載シタル場合ノ外報告スルニ及ハス

一 控訴院ニ於テ爲シタル當選訴訟ノ判決確定シタルトキ又ハ其判決ニ對シ上告アリタルトキ

一 大審院ニ於テ當選訴訟ノ判決ニ對スル上告ニ付判決ヲ爲シタルトキ
(二七ノ六ノ一四民刑甲第二二號訓令)

(參照)

衆議院議員選舉ニ關シ訴訟又ハ告訴發等アリタル事件報告方ノ儀ニ付内務大臣ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付左ニ記載シタル第一第四ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ檢事局ヨリ其都度直ニ當省ヲ經由シ内務省ヘ報告書ヲ差出スヘシ

第一 衆議院議員選舉ニ關スル訴訟アリタル時

第二 檢察官自ラ同選舉ニ關スル犯罪ノ告訴發ヲ受ケタル時

第三 檢察官同選舉ニ關スル犯罪ニ付起訴シ又ハ起訴セサル時

第四 本條ノ判決確定シタル時

(二四ノ八ノ二五參刑甲第三四二號訓令)